



平成20年度

大学院生による授業評価実施報告書

平成21年9月

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

「努力しているあいだは、人は迷うものだ。」ドイツの文豪・ゲーテの言葉である。開かれた大学である本学は大学院教育の質的向上に向けて、全学の教員のFD推進事業に力を入れている。この事業の内容は、授業改善のための講演会、改善のための教員研修会、学部公開授業・授業研究会の三つの柱から成っている。本学の教員は、努力し、迷いつつ、大学院教育の充実に努めている。こうした教員の日常的取り組みの一端は、ここに公表する授業評価実施報告書に見て取れることと信ずる。

今回、受講生を対象としてアンケート調査で特に力を入れている観点は、以下の三点である。

- ・授業内容について
- ・教員の授業の進め方について
- ・あなたの授業への取り組みについて

こうした観点で、大学教員としての「授業力」の現状を把握し、さらにスキルアップしようと考えているわけである。同時に、受講生自身の自己評価も取り入れていることに、注目していただきたい。このような授業評価は、相互作用としての人間形成、コミュニケーションとしての教育による教員養成の基礎となるものでもある。

また自由記述方式で、授業のよかった点、改善すべき点、感想等を尋ねることによって、「迷える」大学教員への多大の示唆が期待される。多角的なコメントから、多くを学び、以後の教育活動の参考にする本学教員は多いはずだ。

思うに、教育実践学を指向する本学にとって、ひとつの財産とも言えるのは、外国人留学生の存在である。もちろん本報告書には、留学生の授業評価も含まれている。実際に授業で経験した教員も多いであろうが、留学生が授業に参加する姿は、受講生全体にある種の緊張感をもたらす。また彼らの授業に対する口頭でのコメントは、教員と受講生の双方にとって、実に有益であった。高橋学長と、ある交流協定大学を訪問した際に、外国人留学生が学びやすいように、英語を使った授業を増やすことを提言されたことも忘れられない。すぐには実現できないかもしれないが、この報告書に示された本学教員の授業を改善する、ひとつの方向性が示されていよう。こうした点を含めて、さらに授業改善の努力を続けたいと思う。

最後に、本報告書を作成するにあたり、授業評価の意義を汲み取り、積極的にご協力いただいた大学院生の皆さん、本事業の実施ならびに取りまとめにご尽力いただいた関係各位に厚く感謝申し上げる次第である。

平成21年9月

大学院学校教育研究科教務委員会
大学院生による授業評価専門部会主査
木内陽一

目 次

教職共通科目

| | | |
|-------------|-------|---|
| 現代の諸課題と学校教育 | 小西 正雄 | 1 |
|-------------|-------|---|

専門科目

領域等内容科目

| | | |
|-------------------|------------------|----|
| 人間形成文化史研究 | 梶井 一暁 | 3 |
| 教育哲学研究 | 木内 陽一 | 6 |
| 発達健康心理学研究 | 山崎 勝之 | 9 |
| 幼年期教育学研究 | 橋川喜美代 | 12 |
| 幼年発達心理研究 | 田村 隆宏 | 15 |
| 幼年発達と幼児教育内容論 | 塩路 品子 | 18 |
| 臨床心理学研究Ⅰ | 吉井 健治・久米 禎子 | 21 |
| 臨床心理面接研究Ⅱ | 粟飯原良造 | 24 |
| 特別支援教育学研究論Ⅰ | 八幡ゆかり | 27 |
| 発達障害児生理・発達学研究 | 津田 芳見 | 30 |
| 特別支援教育コーディネーター実践論 | 井上とも子 | 33 |
| 現代日本語研究 | 茂木 俊伸 | 36 |
| 言語教育基礎論Ⅰ | 原 卓志・茂木 俊伸 | 39 |
| 日本語教育学研究 | 小野由美子 | 42 |
| 日本語音声表現研究 | 永田 良太 | 45 |
| 英語学研究Ⅰ(英文法理論) | 藪下 克彦 | 48 |
| 言語教育基礎論Ⅱ | 太田垣正義・藪下 克彦・夫 明美 | 51 |
| 歴史学研究Ⅰ | 大石 雅章 | 54 |
| 歴史学演習Ⅱ | 町田 哲 | 57 |
| 歴史学研究Ⅲ | 原田 昌博 | 60 |
| 地理学研究Ⅰ | 木原 克司 | 63 |
| 法学・政治学研究 | 麻生 多聞 | 66 |
| 哲学・倫理学研究 | 齋木 哲郎 | 69 |
| 代数学研究 | 平野 康之 | 72 |
| 代数学演習 | 平野 康之 | 75 |
| 幾何学研究 | 松岡 隆 | 78 |
| 解析学研究 | 成川 公昭 | 81 |
| エネルギー・物質と環境特論 | 栗田 高明 | 84 |
| 電磁気学特論 | 松川 徳雄 | 87 |
| 物性物理学特論 | 本田 亮 | 90 |
| 地球惑星物質学特論 | 西村 宏・村田 守・香西 武 | 92 |
| 地球科学特論Ⅱ | 村田 守・香西 武・西村 宏 | 95 |

| | | |
|------------------|-------------|-----|
| 音楽発声法 | 頃安 利秀 | 98 |
| 音楽劇総合演習 | 草下 實 | 101 |
| ピアノ演奏基礎演習 | 村澤由利子・森 正 | 104 |
| 指揮法基礎演習 | 山田 啓明 | 107 |
| 油画制作演習 | 鈴木 久人 | 110 |
| 版画制作演習 | 武市 勝 | 113 |
| 塑造制作演習 | 長岡 強 | 116 |
| 石彫制作演習 | 野崎 窮 | 119 |
| 視覚デザイン演習 | 松島 正矩 | 122 |
| スポーツ人間学研究 | 綿引 勝美 | 125 |
| 学校体育経営研究 | 藤田 雅文 | 128 |
| スポーツ・トレーニング研究 | 南 隆尚 | 131 |
| 学校保健学研究 | 吉本 佐雅子 | 134 |
| 健康科学研究 | 廣瀬 政雄 | 137 |
| 運動生理学研究 | 田中 弘之 | 140 |
| エネルギー工学研究 | 木下 凱文 | 143 |
| 木質材料加工法演習 | 米延 仁志 | 146 |
| 画像情報処理研究 | 伊藤 陽介 | 149 |
| プログラミング演習 | 林 秀彦 | 152 |
| 情報応用演習 | 曾根 直人 | 155 |
| 情報技術研究 | 菊地 章 | 158 |
| 生活経営学研究 | 渡邊 廣二 | 161 |
| 衣生活学研究 | 福井 典代 | 164 |
| 食生活学研究 | 前田 英雄・西川 和孝 | 167 |
| 住生活学研究 | 金 貞均 | 170 |
| 国際教育協力特論Ⅰ（理数科教育） | 近森 憲助・小澤 大成 | 173 |

領域等方法科目

| | | |
|--------------------|------------|-----|
| 幼年期福祉演習 | 木村 直子 | 177 |
| 環境教育特論Ⅰ（教材開発） | 近森 憲助・西村 宏 | 180 |
| 学校精神保健学演習 | 今田 雄三 | 183 |
| 特別支援教育学研究論Ⅱ | 大谷 博俊 | 186 |
| 特別支援教育学習支援演習 | 島田 恭仁 | 189 |
| 社会資源開発運用・連携論 | 井上とも子 | 192 |
| 特別支援教育コーディネーター実地教育 | 井上とも子 | 195 |
| 国語科授業研究 | 幾田 伸司 | 198 |
| 英語科教育特論Ⅰ | 伊東 治己 | 201 |
| 英語科教育演習Ⅱ | 山森 直人 | 204 |
| 社会科教育学研究 | 草原 和博 | 207 |

| | |
|-------------------------|-----|
| 社会科授業研究 梅津 正美 | 210 |
| 社会科教材開発演習Ⅲ (公民領域) 西村 公孝 | 213 |
| 数学科教育学研究 齋藤 昇・秋田 美代 | 216 |
| 数学科教育学演習 齋藤 昇・秋田 美代 | 219 |
| 数学科授業研究 服部 勝憲 | 222 |
| 数学科教材開発研究 秋田 美代・齋藤 昇 | 225 |
| 数学科教材開発演習 秋田 美代・齋藤 昇 | 228 |
| 音楽科授業演習 西園 芳信 | 231 |
| 音楽科教育研究 長島 真人 | 234 |
| 保健体育科教育学研究 坂本 和丈 | 237 |
| 家庭科教育学研究 鳥井 葉子 | 240 |
| 国際教育教材開発研究 小澤 大成 | 243 |

応用実践科目

広領域コア科目

| | |
|--------------------------------|-----|
| 学力形成と授業改善 秋田 美代・茂木 俊伸 | 247 |
| 子どもの規範意識の形成と授業経営 伴 恒信・曾根 直人 | 250 |
| 現代社会と情報・思考・コミュニケーション 原 卓志・兼重 昇 | 253 |
| 環境科学と人間教育 ―地域からの省察― 近森 憲助・西村 宏 | 256 |

旧カリキュラム

| | |
|---|-----|
| 学級学校経営演習Ⅰ 久我 直人 | 259 |
| 教育リーダーシップ研究 大西 宏 | 262 |
| 教育課題探究 (現代社会と総合学習) 近森 憲助・太田 直也・西村 宏・藤村 裕一 | 265 |
| 環境教育特論Ⅲ (授業開発) 近森 憲助・西村 宏 | 268 |
| 環境教育特論Ⅳ (実践) 近森 憲助・西村 宏 | 271 |



教職共通科目

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|-----------------|------------------|-------------|--|
| | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 27 日 | | |
| 授業科目名 | 現代の諸課題と学校教育 | 学期・曜日・時限 | 前期 火曜日 2 時限 | |
| 授業区分 | 1 2. 教職共通科目 3 4 | | | |
| 担当教員名 | 小西正雄 | 回答者数 | 78 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|----|----|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 44 | 30 | 6 | 0 | 0 | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 35 | 33 | 9 | 1 | 0 | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 44 | 27 | 7 | 0 | 0 | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 45 | 25 | 8 | 0 | 0 | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 44 | 23 | 10 | 1 | 0 | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 61 | 14 | 2 | 1 | 0 | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 45 | 21 | 9 | 3 | 0 | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 25 | 23 | 22 | 7 | 1 | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 19 | 24 | 24 | 9 | 1 | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 49 | 23 | 5 | 1 | 0 | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 39 | 30 | 8 | 1 | 0 | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 41 | 29 | 7 | 1 | 0 | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 56 | 26 | 3 | 0 | 0 | |
| 15 | パワポの文字は見やすかった。 | 53 | 17 | 8 | 0 | 0 | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 32 | 34 | 11 | 1 | 0 | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 44 | 29 | 5 | 2 | 0 | |

<分 析>

教職共通科目ということで大学院としては異常なまでに受講生が多く、それゆえ、レディネスも多様、受け止め方も多様なので、単純に数字の大小を追っても無意味な面もあるが、全体としてはほぼ想定通りである。その中で若干意外だったのは、授業進度、理解確認に関する反応で、一言で言えば「速すぎる」との印象があったようだ。来年度は、もう少しのんびりとやりたい。質問9の満足度がほかよりも少ないのは、もともとそういう形式をあえてとらなかったことによる。じつは発言を求めても実際にはほとんど出ないことが多い。これだけの大人数になるとそれは仕方ないことである。こういう状況は十分に予想できたので、事後レポートの回収、その内容についてのフィードバックを原則として毎時間行った。この点を加味すれば、受講生とのコミュニケーションは必ずしも不足していたとは言えない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

シラバスを読んで、その内容から、ある程度の期待をもって受講したことがわかる。ただし、教職共通科目は4つから2つを選択するわけで、必ずしも強烈的な動機なしに受講したという者がいてもおかしくはない。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「視点が広がった」「考えもしなかった視点」というたぐいの感想が目立った。もとよりこれはシラバスに明記したこの授業の目標がかなり受講生にも伝わったことを意味している。ただし、内容がかなり思い切った問題提起になっていることから、いろいろとしがらみのある現場での即実践化には困難もあるという指摘もあった。それは当然のことで、教育現場の実態は千差万別であり、大学院の授業がそのまま現場の実践に有効性をもたねばならないというのは空論である。むしろ教師自身の人生修行の一端に有効だったかどうかという視点の方が大学院授業としては必要で、その意味では「これからの教師には幅広い視点が必要であり、この講義はそれを身につけられる内容」「大人として教師として大事なことを教えて下さった」という声は、授業者としてはありがたかった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

アンケート1の質問7、8に関することであるが、パワーポイントの画面送りが速すぎるという意見が少なからずあった。これは少々意外な声であったので、来年度から気をつけねばならない。あと受講生が多すぎるという指摘がそこそこあった。もとよりこれは授業者の責任ではないが、今回、およそ4分の1の受講生が不幸にも単位不認定となったので、ひょっとしたらこの苦情は来年度は解消されるかもしれない。

■ 教職大学院の院生がこの授業を受けることは想定されていないという事実について

「教職大学院の人こそ受けるべきだと思います」「ぜひ受けることができるようにすべきである。大学院生（引用者注：ストレート等の意味か）にはこういう講義の深さがあまりつたわらないだろうし、つたわっても表面だけであろう。現職の間は深く伝わるし、考えさせられるので必修でもよいと思う」「是非受講するべき講義だと思います」「教職大学院の人も受講すべき」「是非受けていただくといい」「とてもためになるし、教科系よりはまさに教職大学院にぴったりだと思う。受講できるようになればいいと思う」「受けた方が絶対いいと思います!!」等々。



專門科目

領域等內容科目

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|-------|---|------------------|------------|
| | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 7 月 31 日 | |
| 授業科目名 | 人間形成文化史研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 木曜日 2時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 梶井一暁 | 回答者数 | 10 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | 3 | | 1 | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 5 | 1 | | | 1 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 7 | 2 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 3 | 2 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 5 | 4 | | 1 | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 7 | 3 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 6 | 4 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 6 | 3 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 8 | 1 | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 4 | 4 | 1 | | | 1 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 5 | 5 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 6 | 4 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 8 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 8 | 2 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | 3 | 3 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | 3 | 3 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 7 | 1 | 2 | | | |

<分 析>

評価の平均は4.48であった。おおむね積極的な評価が得られたと考える。

昨年度までの課題のひとつとして、授業速度がはやい点があった。今年度は、おおよそ適切な速度と評価された。それは、受講生の理解度の確認、受講生への質問や発言の促し、わかりやすい説明が、受講生の理解を助けたためと把握される。

しかし、授業をよく準備したと評価されながら、とくにテキストや視聴覚機器の使用に関してはじゅうぶんな評価を得られなかったことは、教材や方法のいっそうの工夫の必要を示している。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の問題関心や期待について、下記のような記述がみられた。その内容を整理すると、①新しい分野への興味・関心、②教育の歴史的理解とその実践化、③教育の本質的把握などを指摘できる。

- ・面白そうだったから。自分の知になると思ったから。
- ・文化史というものを学んだことがないので、新しい分野を開こうと思い受講した。
- ・現在の教育を考えるうえで、その歴史的な背景は大切であると考えたため。
- ・教育の歴史に興味があった。どのような歴史的背景を経て今の教育の形ができてきたのか、なかなか学ぶ機会がなかったので受講したい。
- ・教育に関する歴史に興味があったため。
- ・現代の問題ばかりにとらわれているので、歴史的背景を学び、現代課題の源流を知りたい。
- ・現場にもちかえって実践していきたいと考えている。
- ・教育って、学校って何なのか（初歩的な問題から）。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の記述は、下記のようなものであった。①見方や考え方の広がりや深まり、②実践基盤としての教育史理解の意義、③実践への活用の難しさなどが示されている。

- ・普段漠然と認識しているものを、あるものは正しく、あるものは整理して明確化してくれた。
- ・ものの見方や考え方についても積極的に取り込めた。
- ・自分以外のさまざまな人びとの考え方、実践、経験を聞くことができた。
- ・すぐに実践力には結びつかない内容だと思うが、これまで積み重ねられてきた教育の歴史について理解することは教育の本質を知るという点で有益だと思う。
- ・歴史的なことは不得意であったが、講義の内容に興味をもって取り組み、教育の今だけしか知らない現場で教師をしていた自分の弱さを知った。今後、読みたい本などをじっくり理解してみようと思う。
- ・自分の担当する教科で実践することは難しいが、LHRやSHRで活用したい。
- ・歴史を知ることは大切だが、それを教室へ活かすことは難しいと思う。
- ・過去をふまえることができたが、実践に生かすのは難しい。
- ・目的をもって、たいへん役に立った。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者の記述として、下記のようなものがあった。

良かった点

- ・熱心に準備し、教えてくれた。資料も多く、話もわかりやすかった。
- ・毎週、興味深く受講した。有意義な時間だった。
- ・わかりやすかった。
- ・流れが明確であった。
- ・ゆっくり丁寧な説明で、よく理解できた。

改善してほしい点

- ・文字が少し見にくかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

教育に関する営みを歴史や文化の視座から考察することが、本講義の基本的なねらいである。アンケート結果は、受講者がその趣旨を一定程度受容してくれたことを示している。

重要な課題は、歴史研究を学問背景にもつ本授業と「教師の実践力の育成」との結びつきである。授業者は問題史的な授業構成を工夫した。このことは、受講者の自由記述をみると、ある者にとっては、現在の教育をとらえなおす機会として活かされたようである。しかし、他のある者においては、歴史的視座の重要性が認められながらも、「教師の実践力の育成」との距離が強調されている。継続して改善につとめたい。

また、板書に関する意見についても留意したい。受講者にはレジュメと資料を配布し、プロジェクターとスクリーンを主に使用し、板書はメモ的に使うことを周知していたが、もっと工夫が必要であると理解した。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|---------------|-----|-----|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 31日 | | |
| 授業科目名 | 教育哲学研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 木曜日 | 3時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 木内陽一 | 回答者数 | 13名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 7 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | 7 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 7 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 4 | 4 | 2 | 1 | 0 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 3 | 5 | 2 | 1 | 0 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | 7 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 5 | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | 2 | 5 | 1 | 1 | 0 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 7 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 0 | 2 | 4 | 1 | 2 | 4 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | 6 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | 6 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 0 | 3 | 6 | 2 | 0 | 2 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 6 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 7 | 1 | 2 | 0 | 0 |

<分 析>昨年度までとは授業内容を根本的に変更し、今年度は西田幾多郎『善の研究を』丁寧に読み解くということを試みた。受講者が少数だったので、毎回、報告者二名、司会者一名を指定し、学生参加型の授業を行った。この試みは、大枠においては、成功していると思う。最初は発言は少なかったと記憶するが、西田の基本的な思考形式が明らかになるにつれて、様々な意見が開陳され、担当教員としても楽しみな時間であった。基本的には、このような形式の授業を続けていきたいと思う。

評価を見ると、一番問題のあるのは、板書の文字である。実は、右手の静脈を痛め、板書しにくいという状況があった。来年度には改善できると思う。視聴覚機器は使わなかったので、この項目は、削除したほうがよかったかもしれない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

およそ以下のような意見が出て、たいへん参考になった。

- ・ 普段触れることのない文献を読みすすめることで、新しい世界観を得ることができた。
- ・ 哲学に興味があったので、自身の教養を深め、知識を増やし、自分なりの思想（哲学）を持つために、積極的に取り組もうと心掛けた。
- ・ 「哲学」に触れるのは、これが初めてである。哲学がどんなものか楽しみだった。
- ・ 教育哲学はどのようなものかという興味から。
- ・ 現場の生徒に生かしたいと思っていた。
- ・ 私自身、哲学というものに触れたことがなかったので、哲学とはどういうものか、少し知ってみたかったため。
- ・ 面白そうだから。哲学というものの一端に触れたかったから。
- ・ テキストの読解力。哲学思想の理解。

少数ではあるが、意欲的な受講生に出会い、楽しい時間を過ごすことができた。学部時代に哲学を履修していない人が多いようであるが、哲学、歴史、文学、の人文主義的な教養は、教職に進む人たちの必須な基礎教養だと思う。社会系教育コースに西洋哲学担当教員がいない現状に鑑みても、これからも、今回の方向性を堅持していきたいと思う。

また、今回、『善の研究』というテキストの精読を主眼とした。いままで、テキストの精読ということ、ほとんどの受講者が経験していないようだ。文科系学生がこのような状態でよいものか憂える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

およそ以下のような意見が出て、たいへん参考になった。

- ・ 哲学に触れることで、見識が広がった気がした。
- ・ 自分の基礎となる考え、事物に対する捉え方を学ぶことができた。
- ・ 内容があやふやで、聞いてもわからない。
- ・ 種々雑多な思想・考え方があり、参考になったのだが、難易度が高い。
- ・ 生徒に生かすのは難しいが、これからの自分の教員生活には活かせると思った。
- ・ 内容が難しかったから。
- ・ 実践力とはなにか？
- ・ 人間についての考察から、実践にまで発展させられるかは、その人次第。
- ・ 自己の中にどれだけ理解されているかが、実践につながるであろう。
- ・ 哲学について志向する場面ができ、非常に興味があった。直接実践力とはならないが、哲学の良さが自分なりにわかった。

受講者の感想は、一方で、視野が広がった、という肯定的な意見があるが、他方、わからない、という否定的な意見がある。来年度以降、参考文献を多く紹介して、十分時間をかけて予習をしていただくつもりである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

およそ以下のような意見が出て、たいへん参考になった。

- ・今期のままでいいと思います。
- ・特にありません。今のままでよい。
- ・全員が発表する機会があり、よかった。また、評価内容が明確だった。
- ・なるべく多くの人に発表をうながしていた。もっとわかりやすく。
- ・議論の展開方法を少し変更。
- ・良かった点：円卓を作っていた。もっと皆が発言するともっとよいと思う。

受講生参加型の授業は基本的に肯定されていると思う。授業者自身も、出された意見が大変に参考になった。発表者と司会者以外は、テキストの読み取りが不十分であったことがあったので、今後、注意していきたい。「もっとわかりやすく」という要望については、以下の [5] を参照。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業内容以前の問題として、授業に遅れたり、授業にテキストである『善の研究』を持ってこない人がいた。教育大学の大学院生として、最低限のマナーは守っていただくように、指導したいと思う。また、レポートされる章を読んでくれるのが授業に参加する前提となっているが、読みが浅いと思う。使用したテキストには、西田の文章と親切な注と解説が付いていて、たいへん読みやすいものとなっている。もしそれでもわかかなければ、哲学辞典を調べるべきであろう。

本授業の成果としては、受講者は、近代日本の代表的哲学者である西田幾多郎の初期の思想を知ることができたと思う。そして、哲学的な思考を、萌芽的ではあるが、身につけることができたと思う。来年度以降も、『善の研究』の精読を基本的な枠組みとして堅持したいと思う。今後の課題としては、哲学において、「わかる」ということが、どのようなことかを受講者とさらに議論していきたい。

今回の受講者の感想の中に、「聞いてもわからない」とか「もっとわかりやすく」という感想があった。しかし哲学において「わかる」とは、どのような事態か。受講生の議論を聞いていると、まず気付くのは、テキストを読んでこない人が少なからずいることである。学部生までなら、それですんだかもしれないが、大学院ではそうはいかない。テキストを熟読するとともに、関連の文献等を調べて、受講すべきであろう。まず、この点を指導したい。そして「わかる」ということは、個人個人の持っている前理解をさらに深い理解へもたらす営みであることにも、注意を促したい。つまり「哲学」の知識を獲得することが大切なのではなく、「哲学する」ことが大切であることを、さらに強調したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|-------------|------|------|
| | | 評価実施日 | 平成20年 7月29日 | | |
| 授業科目名 | 発達健康心理学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 | 火 曜日 | 4 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 山崎 勝之 | 回答者数 | 14名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 9 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 10 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 10 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 7 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | 6 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 6 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 13 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 13 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 12 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 7 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 7 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 10 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |

<分 析>

今回は思い切って、授業のレベルを研究者向けにまであげてみた。それは、多くの受講生のニーズと準備度合いを総合しての判断であった。大学院らしい授業をやりたい思いはかねてからあったが、それをストレートに実行すると受講生には難解すぎる授業になる懸念があり躊躇していた。

しかし今回は、基礎知識を提供しながら最新の知見や理論を教授することができたのではないかと思う。評価は全体的に高く、17番の全体の満足度も高かった。ただ、懸念していたことだが、高い水準の授業内容のためか、授業の速さの評価が2段階の回答が1名あった。

授業レベルの設定はこれでも行けそうだが、基礎知識の提供や説明方法の改善を重ねたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

最初の具体的テーマへの期待は、発達心理学全般や攻撃性等であったが、具体的テーマというよりも、考え、討議する力や諸外国の最新知見を知りたいという事前のニーズが目立った。これは、この授業のあり方が事前に外部によく伝わっているからであろう。

独創的な思考や自己主張それに海外の最新知見の紹介は、この授業で最も重視することであり、この点では受講生の期待に添えたのではないかと思う。シラバスを中心に、授業の特徴についてさらに強調しておきたい。選択科目であるから、受講生自らが自己ニーズとの適合をあらかじめ吟味できるようにしたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

教師の実践力の育成という点を、即学校で適用できる知識や技能という面にとらえるとこの授業はそのニーズを満たさない。そのような小手先の内容ではなく、現場で自ら考えること、授業や教育に応用できる考えかたと基礎知識を提供することにこの授業は眼目を置いた。

そのため、ここでの記述は肯定否定が相半ばしたが、授業者の視点と本当の教師の実践力の育成が何なのかについて十分に説明した上で授業を進めたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業者の目指したとおり、独創的に考え、主張し、高め合う授業要素が良かった点として指摘されていた。授業者と受講生が一体となった授業ができたように感じる。

さらにグループワークの時間をとり、もう少しペースを落として欲しいという改善点もあったが、もっともな指摘だと思う。伝える時間の制限と受講生が考える時間の確保のバランスを考えたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

冒頭にも記したが、今回は思い切って授業のレベルをあげてみた。学校教育に携わる者と研究者の両方のニーズを満たす授業である。このことを実行できたことは、ひとえに受講生の真摯な学問姿勢と学問水準の高さであった。この点では受講生全員に感謝したい。今後も授業者が考える大学院らしい授業が展開できそうで、大いなる期待と自信を得た授業になった。

しかし、もっと考え、もっと討議して、その結果、授業から世界に通用する新しい考え方が生まれる理想郷はいかにして達成できるのか。受講生のニーズと理解度そして満足度をすべて考慮しながら、この点について考え続けたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|-------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20年 7月 23/28日 | | |
| 授業科目名 | 幼年期教育学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 月/水 曜日 4/6 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 橋川 喜美代 | 回答者数 | 4 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 4 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 1 | 3 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 2 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 1 | | | | |

<分 析>

今年度は受講生が少なく、対話を心がけ、じっくり個々の関心や興味に即して授業を進めることができたと思っている。評価が5と4に集中しているのは、そうしたことの反映と思っている。しかしその反面、設問5「授業開始時や途中の成績評価の方法は、附帯的であった」という点など、成績評価の方法を明確に示さず、曖昧にしたことは反省すべき点と考えている。また、受講生には、課題を決めさせ、取り組ませてきたので、設問16「授業に主体的・積極的に取り組んだ」の評価が低かったのは予想外であった。主体的・積極的に課題に挑まなかったということよりも、厳しい自己評価を下しているものと判断するが、なお反省すべき点も多い。

年ごとに方法面で改善を試みているが、主体的・積極的な取り組みを喚起するには至っておらず、今回のやり方もまだ工夫する必要があるものと考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

ストレート・マスターは、幼児教育についての歴史的な流れや現代の動きを学ぼうと受講している。これに対し、現職の保育士は現在の保育所の中で抱えている具体的な問題、例えば子ども同士の関係性や、発達障害を持つ子どもたちやその保護者理解、自らの研究内容との関連から受講している。その問題意識や期待は多岐に及んでおり、授業概要には書いていないものも含まれている。

中には、「日頃の保育の問題点を洗い出したり、解決したりしていく糸口になればと思って」受講したという回答もあり、毎週話題にしてきた現場での問題が評価段階で、自分が受講しようとした理由になったものと考えられる。

ストレート・マスターが受講する昼間と現職者中心の夜間では話すべき内容を大幅に変更しながら、その都度対応するように工夫してきた。そうした対応によって、現職者の話から学ぶべき点が多かったのが今年度の収穫でもあった。夜間の院生が昼間のストレート・マスターたちと交流する機会を設けていく必要も感じている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

全員が「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」と評価している。

その理由として、次のような点を挙げている。

1. 実践と結びつけて考えさせる内容であった。
2. 実際に実践していく中で困っていることやわからないことが例として提示され、その解決策を検討し合うことができた。
3. 保幼小連携の実際や問題点などが学べた。
4. 具体的な事例や取り組みが理論とどのように結びついているかを学ぶことで、実践する上での自信が持てるようになった。
5. 現場ではごく自然に行っている事の問題点に気付かされた。

理論との関連性を指摘したのは、わずかに1名であった。もっと理論と実践との関連性を話していきたいのだが、まだまだ難しいようである。どのように具体的に分かりやすくしていくか、改善すべき点をさらに検討していきたい。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業の良かった点として、次のことが挙げられていた。

1. 保育の中での疑問点等を質問することで、解決への方向性が確認でき、仕事に生かすことができた。
2. 実践していくための子ども観、保育観などを改めて考えさせられた。
3. 実践に役立つ内容だったのが良かった。
4. いろいろな保育・教育の考え方を知ることができ、自分の保育観が明確に確立できた。
5. 止まりがちな自分の思考を働かせてもらえたことがよかった。

個々の実践上の問題点や思考の流れを整えたようではあるが、それをグループ間での話し合いとして拡大する時間的余裕がなかった。今後、この点の改善を工夫していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

今年度の成果は、全員が「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」と評価している点である。受講生が少なかったことから、先にも触れたように、じっくりと質問に答えたり、個々の興味・関心のある内容に変更したりして、授業を進められたことが非常に評価された点と考えている。

今後も、今年度の成果を踏まえて受講生の実態に即した授業を心がけていきたい。また、グループでの話し合いやディスカッションをもっと積極的に取り入れる工夫もしていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|-----------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 24日 | | |
| 授業科目名 | 幼年発達心理研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 木 曜 日 4 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 田村 隆宏 | 回答者数 | 7 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 … 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 5 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | 3 | 3 | 1 | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | 3 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 3 | 2 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 4 | | | | 1 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 4 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | 3 | 1 | 1 | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 4 | 0 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 3 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | 3 | 2 | 1 | | 1 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 3 | 3 | | 1 | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 1 | 4 | 1 | | | 1 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | 4 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | 2 | 1 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 5 | 1 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 4 | | | | |

<分 析>

項目番号 2, 10 以外については、受講生ほとんどの回答が、4 もしくは 5 といことで、これらの項目については概ね達成されたものと考えられる。ただし、どちらでもないの 3 が含まれているものもあり、さらに項目の内容に関して洗練させ、すべてが最高の評価である 5 になるようさらに工夫の余地があるため、各項目の内容に関してより一層改善を図りたい。

項目 2, 10 は、評価項目が 3 以下の受講生の数が目立ったが、これらはいずれも教科書、テキストに関する項目であり、受講生にとっては若干専門的すぎる内容であったため、あまり高い評価が得られなかったものと考えられる。今後の授業では、教科書の内容をさらに吟味するとともに、内容を説明するときに、より理解しやすくなるよう工夫することが必要であると考えられる。

否定的な評価である 2 が含まれた項目としては項目 2, 10 以外では、項目 7 の授業の進む早さに関するものと、項目 11 の視聴覚機材の使用に関するものであった。これらについてはほとんどの学生が 4 もしくは 5 の評点であったが、それぞれについて適切ではないと感じた学生もいたことを十分に留意する必要がある。今後は、これらの項目に関することについて、すべての学生にとって適切なものとなるよう心がけたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

主な回答としては「心理学の授業だったので興味を持って受講した」、「内容が面白そうだった」といった内容自体に興味を持ったというもの、「学部の発達心理学よりも詳しく学ぶため」といったより専門性を期待するもの、「幼児期の心の発達を研究したかった」、「幼児期の心理を知りたかったから」、「幼児期の発達心理やその研究に興味を持ったから」といった子ども理解を期待したものが挙げられた。

これらのコメントから、今後の研究ではできるだけ発達心理学分野としての内容を充実させ、高い専門性を維持する授業内容を準備する必要があると考えられる。この視点を踏まえて、具体的な講義内容を改めて吟味する必要があると考えられる。

また、子ども理解を問題意識、期待としてあげられたということは、当然のことながら養育、保育実践との直接的な関わりについて考察できるような内容を期待していることが反映されているものであろう。そのため、内容を実際の養育・保育場面との対応で考えられるものとして分かりやすいものにしなければならないことが示唆される。内容の改善においては、この視点からの十分な吟味も不可欠であると考えられる。

さらに、教員からの学生に対する問いかけについても、養育、保育実践に結びついた子ども理解を核としたものにならなければならないと考えられる。

総じて、学生の問題意識や期待、ニーズを念頭において授業内容をさらに吟味し、授業中の討論の時間における学生への望ましい働きかけ方についてさらに工夫していく必要があるものと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

主なコメントとしては「パソコンを使ったプレゼンを経験できたことは役だった」、「乳幼児の心理面の理解は今後役立つと思ったため」、「専門的知識を取得でき、内容が専門的だったので有意義だった」、「高校教員である自分が高校生に対しても生かせる心理が学べたから」、「保育所や幼稚園で役立つ内容であった」であった。

授業の中で、パワーポイントを用いた研究発表を課したことから、その経験が今後の教員としての技術として役立つとのコメントが得られたことから、今後も学生自らが学び、伝えるという活動経験を取り入れることが大切であると考えられる。

実際の保育・教育活動にとつた役立つというコメントからは、本授業の内容が概ね保育・教育実践に結びつくものであったことを裏付けるものであり、ある程度は受講生の期待やニーズに答えていたものであったことが示唆される。今後の授業でもこのスタンスを維持しつつ、さらに内容や学生への働きかけ方についても十分に吟味し、より洗練されたものにあるようと力することが大切であると考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

主なコメントは「一つ一つの事について詳しく説明してもらえたのがよかった」、「授業内容について学生同士で討論するという形は、他の専攻学生の意見が聞けてよかった」、「討論はとても勉強になった」、「発表に関してはもっと早めに決定して、準備期間に余裕がある方がよかった」であった。

一つ一つの内容については、できるだけ学生の理解とを確かめながら授業を進めたので、よかった点として評価を受けたことは、ある程度教員の意図が達成されたことを示している。今後もこのスタンスで授業内容を説明していくことを心がけたい。

本授業では、教員の講義の後、その内容について学生同士で討論する形を取っているが、この討論では、様々な専攻の学生が様々な視点からコメントすることから、授業内容についての理解、またその内容を現場でどう生かすか、について深く考えたり、新しい視点が生まれたりすることから、学生にとっては学びの深まりが経験でき、肯定的評価が目立ったのではないかと考えられる。今後も教員の授業の後に討論をする形をとり、さらに学生の中で学びが深まることを目指した指導を心がけたい。

研究発表についての準備期間が短かったことは反省すべきである。あらかじめ発表内容は決まっていたため、もっと早めに準備をすることも可能であった。今後の授業では、研究発表について決めるべきことは、もっと早い段階で決めておく必要がある。

本質問では、肯定的評価が目立ったので、基本的にこの形式を維持しつつ、さらに具体的内容や討論の仕方について、より理想的なものを目指す努力を怠らないことが大切であると考えられる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業では、アンケート [1] の項目ほとんどのにおいて、受講生全員が「かなりそう思う」の4、もしくは、「まったくそう思う」の5の評定値を示したため、授業に求められる基本的な課題は概ねクリアしていると考えられる。さらに、討論という受講生自らが自発的に研究を深める形をとっているという点でも、受講生の多くから肯定的な意見が寄せられ、演習としての目的は達成されたと捉えられる。加えて、教育実践に役立つという面でも、受講生1人1人に研究発表を科したことから、授業の技術的な面、子ども理解の面で役立ったとの意見が挙げられたことから、教育実践力の育成についても少なからず役立ったことが窺える。総じて、受講生のほとんどが良かった点を挙げていることから、受講生にとっては有意義に感じられた授業であったことが示唆され、望ましい成果が得られたものと思われる。

今後の課題としては、授業で用いたテキストの発表に関して、そのあり方をさらに吟味する必要がある。内容的に難しい点が目立ったとの意見が出されたので、理解を助ける補足資料を加えるとか、発表の順序を、基礎的なものから応用的なものへと、順を追って理解しやすいように工夫していくといったことが必要になると思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|--------------------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 7 月 18 日 | | |
| 授業科目名 | 幼年発達と幼児教育内容論 | 学期・曜日・時限 | 前 期 金 曜 日 4 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 塩路 晶子 | 回答者数 | 2 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 | | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | | 2 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 1 | 1 | | | | |

<分 析>

2名の受講生によるものではあるが、概ね良い評価をいただくことができた。
 項目(7)(11)(12)(13)にあるように、受講生は、講義中に配布した資料・文献、視聴覚教材等を通して内容理解を深めることができたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の授業への期待は、修士論文作成も見通した幼年期の「発達」理解、保育の概要理解、というようなことである。

今後も、幅の広い受講生の期待にこたえることができるような授業構成を工夫していきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

歴史的な流れを踏まえた上での現在の保育内容の状況を理解できたこと、また受講生（現職教員）の問題意識をかきたてることができたことが、実践力の育成につながったと考えられる。

今後はさらに、日本の（小学校との連携も含めた）幼児教育や諸外国の幼児教育の保育内容についての具体的事例や理論を提示するにあたって、受講生自身が自ら課題を持ち、考えることができるようなものを工夫していきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

・良かった点

「視聴覚教材なども見ることができて理解しやすかった」といった意見が挙げられた。また、教員の授業への積極的な取り組みの姿勢についての評価もあった。

・改善点及びアイデア

受講生の意見を引き出そうとするあまり、授業内容の強調点があいまいになるところがあったとのことである。大変有意義な指摘なので今後の改善につなげていきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義がめざしていた「子どもの生活や遊びを中心にした保育」の日本と諸外国（主にアメリカ）の保育内容を歴史的・現代的な観点から学ぶ、という目的は概ね達成されたと考えている。特にそれが受講生の問題意識を揺さぶることができたのは、この授業としての成果であると評価できよう。

本講義の今後の課題としては、基本的には講義のスタイルをとりつつも、幅の広いニーズをもつ受講生がより主体的に講義に参加できるように、授業方法上の工夫をしていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|--|------------------|------|----------|
| | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 31 日 | | |
| 授業科目名 | 臨床心理学研究 I | 学期・曜日・時限 | 前期 | 木曜日 1 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | 吉井 健治 ・ 久米 禎子 | | 回答者数 | 51 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|----|----|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 12 | 33 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 15 | 21 | 10 | 1 | 2 | 2 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 14 | 21 | 11 | 2 | 1 | 2 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 16 | 11 | 15 | 6 | 1 | 2 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 12 | 27 | 6 | 2 | 2 | 2 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 23 | 17 | 7 | 2 | 0 | 2 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 21 | 22 | 4 | 2 | 0 | 2 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 14 | 25 | 7 | 2 | 1 | 2 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 14 | 20 | 12 | 2 | 1 | 2 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 5 | 25 | 16 | 2 | 1 | 2 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | 15 | 21 | 7 | 2 | 2 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 14 | 24 | 10 | 0 | 1 | 2 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 18 | 27 | 3 | 0 | 1 | 2 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | 16 | 16 | 9 | 4 | 2 |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 18 | 20 | 9 | 2 | 0 | 2 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 20 | 23 | 7 | 0 | 0 | 1 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 21 | 26 | 3 | 0 | 0 | 1 |

<分 析>

17項目のうち、9項目が平均値4.00以上、6項目が平均値3.50以上4.00未満だった。また、平均値3.00以下の項目はなかった。このことから、本講義は全体的に高い評価が得られたといえよう。

平均値が最も高かったのは、「17.この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」（平均値4.36）だった。この項目は、授業に対する総合的な評価を意味しており、この項目で高い評価が得られたことは、受講生にとって意義のある授業だったといえよう。

ただし、「11.視聴覚機器の使用は適切であった」（平均値3.24）、「14.教員の声は聞き取りやすかった」（平均値3.14）は、比較的低い値だったので、今後の改善点として検討したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答は、以下の3点に分類された。

①専門知識の習得：「自己心理学、自己愛について学びたい」、「遊戯療法について学びたい」、「臨床心理学の基本を学びたい」など、専門的知識の習得に関すること。

②自己成長：「心理臨床家としていかに自分を高めるか」、「自分を成長させたい」、「自分の意識改革のため」など、自己成長に関すること。

③心理臨床家の実践力：「カウンセラーとして役立つ知識を得たい」、「心理臨床家の実践において役立つ視点をもちたい」など、心理臨床の実践力に関すること。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本講義は、教師の実践力の育成よりも心理臨床家の実践力の育成が主目的である。そのため回答には、「教師ではなく、臨床心理士養成に役立つ内容だった」などとあった。しかし、「教師の実践力にも役立つ内容だった」、「たくさんを感じ、学ぶことができた」、「子ども理解に役だった」、「視点が広がった」など、教師の実践力の育成にも役立つという回答があった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「とても分かりやすい授業だった」、「具体例があったので分かりやすかった」、「体験的に勉強できた」など肯定的な回答がほとんどだった。

5 本授業の成果と今後の課題について

評価項目の「17.この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」（平均値 4.36）は、全項目の中で最も高い平均値を示した。これは、授業に対する総合的な評価を意味しており、この項目で高い評価が得られたことは、受講生にとって意義のある授業だったといえよう。

受講生の本講義に対する期待は、①専門知識の習得、②自己成長、③心理臨床家の実践力、の3つに分類された。これらは、本授業担当教員が目指しているものと同じであり、教員と受講生が授業目標を共有できていることが確認された。

今後も、こうした3つの側面について、さらに充実した授業となるよう取り組んでいきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|---------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20年 7月 25日 | | |
| 授業科目名 | 臨床心理面接研究Ⅱ | 学期・曜日・時限 | 前期 金曜日 1時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 粟飯原 良造 | 回答者数 | 35名 | | |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|----|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 25 | 8 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 27 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 24 | 8 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 19 | 9 | 7 | 0 | 0 | 0 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 24 | 5 | 4 | 1 | 1 | 0 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 30 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 18 | 13 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 22 | 7 | 6 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 21 | 13 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 21 | 7 | 6 | 0 | 0 | 1 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 25 | 7 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 27 | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 27 | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 20 | 8 | 4 | 3 | 0 | 0 |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 22 | 5 | 7 | 1 | 0 | 0 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 18 | 15 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 24 | 7 | 3 | 0 | 0 | 1 |

＜分 析＞ 受講生の回答からすべての質問項目で平均4.3以上であり、回答者35名中31名がほぼ講義に満足しており、とくに際立って改善すべき点はないと考えられる。

評価1～3である質問項目を検討すると「教師の実践力の育成に役立った」「板書の文字は見やすかった」について「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」「教科書や参考書の使い方は適切であった」がどちらとも言えないが他の質問項目より3が多く、「授業開始時や途中の成績評価は具体的であった」「教員の声は聞き取りやすかった」「板書の文字は見やすかった」に1, 2の評価があった。

「教師の実践力の育成に役立った」では、本講義の直接的な目標ではないが、受講生が学んだことを教師としてどう個人的にアレンジするかが問われることであると思う。「板書の文字は見やすかった」についてはパワーポイントを使って講義をしていること、「授業開始時や途中の成績評価は具体的であった」はシラバスに表記し、また実技試験に関しては具体的評価をフィードバックしていること、「教員の声は聞き取りやすかった」に関しては、受講生に指摘するように本講義開始時に依頼したが授業中に指摘がなかったことが受講生に通じなくて残念である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析> 受講動機は、「面接で利用する理論および技術を学びたい」「面接の実践力を高めたい」「カウンセラーとクライアントとの関係性を学びたい」がアンケートに回答した31名全員の希望であった。これは、本授業の目標と一致しており、受講生の期待と問題意識に応えることができたと思う。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析> 35名中回答があった27名では、「教師以外の視点からの授業であった」4名、「教師になる予定がない」1名に対して、「教育とカウンセリングは同じである」「教師としても十分役立つ内容であった」「具体的な例があり教師としても応用できる」など22名であった。本講義はストレートマスターが主体で現職教師も受講していたが、現職教師の中でも意見が分かれたと思う。カウンセリングも教育も人を育てるという共通性、教師としての技法を“砂糖”に、カウンセリング技法を隠し味の“塩”に使って、おいしい善哉を作ろうと講師から伝えたが、受講生のなかに伝わらなかった人がいた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析> アンケートに20名が回答した。「厳しさが苦しい時もあったがよかった」「レジメが充実していた」「講師の熱さが伝わってきた」「パワーポイントがわかりやすかった」「具体例がありわかりやすかった」「実際にやり取りをして参考になった」など良かった点を18名が指摘した。「実践的で役立つと思うが教師に対する個人的な感情が授業全体に感じて不快であった」1名、レジメと実際の授業の順番が違っていたので一致させてほしい」1名の指摘があった。本講義は、講師の失敗談、教師の失敗談および成功談も交えて講義を行ったので、アンケート回答から不快に感じた受講生が1名いたが、講師の受講生に対する厳しさがある反面熱心さも伝わる授業であったと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、カウンセリング理論・技法の初歩から実践までをわかりやすく講義し、ワークを取り入れ実践に近い体験も大事にして、講師と受講生との間でのミニワークを行ったことが、受講生の期待に添えたことが明らかになった。

ただし一部受講生には、講師の真意が伝わらなかったことに、今後どう対応するかが課題である。また、板書、講師の声に関しては、その場でフィードバックできるように、くり返し確認する必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|----------------|-----|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 29 日 | | |
| 授業科目名 | 特別支援教育学研究論 I | 学期・曜日・時限 | 前期 火 曜日 4 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 八幡 ゆかり | | 回答者数 | 7 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 6 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 7 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 7 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 7 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 7 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 5 | 2 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 7 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 6 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | 3 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 5 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 7 | | | | | |

<分 析>

全ての項目にわたって、5の評価が最も多く占めていた。そして、本学で重視している4の項目「教師の実践力の育成に役立つ」について全員が5の評価をしていた。また、17の項目「授業への満足度」についても全員が5の評価をしていた。さらに、授業者が目的においた「受講生が主体的に授業に取り組む」に関連した16の項目についても7人中5人が5の評価、2人が4の評価であり、各人が主体的・積極的に取り組んだという意識が窺えた。これらの結果から、本授業の進め方は適切であったと考えられた。

上記の結果について、8の項目「受講生の理解度の確認」や9「受講生に授業への参加を促す」といったことに取り組んだことが大きく影響していたと考えられた。本授業の受講生は、特別支援教育に関する経験や知識レベルが様々であり、各人の理解度を常に確認して授業を進めた。そして、授業内容について実践例を多く取り上げたり、配付資料で補足するなど工夫した。また、受講生同士で話し合いをさせてお互いの理解度を高めたり、疑問点を出させて授業者がそれについて説明した。このような工夫を行ったことが受講者の主体性を促し、本授業に対する満足度の高さにつながったといえよう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

本授業に関する問題意識や期待について、以下の理由に分かれた。

1. 幅広い知識を得たい。
2. 学校現場の経験から、現在の特別支援教育の問題について考えたい。
3. 障害児を取り巻く問題に関する変遷過程を知りたい。

上記のうち、3の「歴史」に関する回答が多かった。これは、シラバスに問題史としてのアプローチを示し、歴史を過去のものとして捉えるのではなく、特別支援教育の現状や問題を把握するために必要である、と記述したためと考えられた。また、受講生のうち、知識や経験レベルが様々であったため、三通りの回答になったと考えられた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

実践力育成に役立った、という理由について以下の回答がみられた。

1. 学校現場では、特別支援教育に関する実践力の必要性が高い。現在の特別支援教育の姿がよく分かり、現場でどうすべきか、よく理解できた。
2. 障害児教育の歴史や法制度を学んだり、障害児観を考えることができ、今後の特別支援教育の手がかりを学べ、とても役立つ内容であった。
3. 自分自身の体験的学び以外の、知識や制度面について学ぶことができ、現場に出てからも活かせると思った。
4. 歴史から、現在の障害児教育における課題を学ぶ意味についてよくわかった。

上記のことから、特別支援教育の実践力に必要な内容として、理念(障害児観や教育観)、現行の法制度とその運用、特殊教育から特別支援教育の変遷過程に見られる問題と現在の問題との因果関係について、講義を進めたことが受講生から評価されたと考えられた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業のよかった点として、以下の回答がみられた。

1. 毎回、とても楽しい授業内容であった。また、障害児教育を考えることができるように、沢山の資料を出してもらったので、大変有意義な授業であった。
2. 受講生が参加しやすい授業だった。
3. 毎回、出された課題について一人ひとりが意見を発表し、それをもとに先生が話をする、というスタイルがとてもよかった。

改善点等については、以下の回答がみられた。

1. 学部の授業で障害のある子どもの親から話を聞くことを行っていると聞いた。大学院でも、取り入れてほしい。
2. 黒板の字を見やすくしてほしい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の成果については、次の4項目全てにおいて高い評価が得られた。1. 授業内容、2. 授業の進め方、3. 受講生の授業への取り組み、4. 授業全体の満足度。その中で、も本学が求める「実践力を育成に役立つ内容」について回答者全員が5の評価をしていた。また、授業者が意図した「受講者同士で積極的な意見交換を行い、自ら考える力を引き出したい」ということについて、「主体的・積極的に取り組んだ」と自己評価した学生が5の評価が5人、4の評価が2人であった。また、本授業の良かった点にも挙げられていた。これらのことから、授業内容や授業の方法が適切であったと考えられた。

今後の課題については、板書の工夫に努めたい。なお、学部の授業と大学院の授業の受講者が重なることが多いため、保護者に来てもらうことについては検討課題としたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|-----------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 8 月 1 日 | | |
| 授業科目名 | 発達障害児生理・発達学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 金 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 津田芳見 | 回答者数 | 15 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

- [5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|----|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 5 | 9 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | 5 | 8 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | 10 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 7 | 6 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 5 | 5 | 5 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 7 | 4 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 7 | 5 | 2 | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 6 | 6 | 2 | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | 2 | 8 | 2 | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 2 | 8 | | | 3 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | 8 | 1 | 2 | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 5 | 7 | 3 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 4 | 5 | 2 | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | 4 | 6 | 1 | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | 4 | 6 | 1 | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 4 | 5 | 4 | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 6 | 5 | 1 | | |

<分 析>

授業内容が医学であるので、全く異分野の学生に、教育に生かせる知識として伝えることの困難さを聞いている。できるだけ、パワーポイントを用い、ビデオやDVDなどビジュアルにわかりやすくを心がけている。しかし、一方的な講義になりやすいため、もっと学生を参加させる工夫が必要かと思う。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

障害についての知識を学びたいという意見が多かった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

講義のない洋画、即教育の実践力にむすびつくようなものではないので、あまり満足度はきたいできないが、子どもの生理的発達と障害の関係を基礎的にしっかり学ぶことを重要と考えている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

視聴覚をとりいれたのは、よかったと思うが、やはり、教職の学生に医学的知識を伝える困難さを感じる。できるだけ、ビデオや、DVDを取り入れたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

教職を目指す学生に特別支援教育に行かせる医学的知識を伝えるのは、なかなか困難を感じるが、小児科医としての視点で、できるだけ伝えて生きたいと考える。教科書や、参考書などで、授業に使いやすい者を探してみたいと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|-----------|-----------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 21年 2 月 22 日 | | |
| 授業科目名 | 特別支援教育コーディネーター実践論 | 学期・曜日・時限 | 後 期 木曜日 2 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 井上とも子 | 回答者数 | 5 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|-----------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。4.6 | 3 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。4.25 | 2 | 1 | 1 | | | 1 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。5 | 5 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。5 | 5 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。4.4 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。4.4 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。4.4 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。4.6 | 4 | | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。4.8 | 4 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。4 | 1 | | 1 | | | 3 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。5 | 3 | | | | | 2 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。4 | 2 | 1 | | 1 | | 1 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。4.6 | 4 | | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。4.8 | 4 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。4.25 | 2 | 1 | 1 | | | 1 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。4.8 | 4 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。4.6 | 3 | 2 | | | | |

<分 析>

子どもを見る実態把握の力を高め、その実態把握を指導計画につなげる実践力を発達障害児の就学前指導という教育実践をおしながら、学ぶ授業であった。実践論として「理論の学び」は授業をおしてつかみにくかったことがわかる。今後は、実態の分析や指導案を立てるときなどに参考文献を提示しながら根拠を示す等、理論の裏付け面にも力を注ぐ必要があると考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

ソーシャルスキルトレーニングの考え方や実践の仕方を身につけたい、勤務校以外の教育現場の実態と発達障害児等の抱える問題を理解したいとの希望を持って授業に臨んでおり、授業へのモチベーションは高いものであった。事前にこの授業の主旨を伝え、前期の院生2年の実践を見学するなど、授業の進め方のオリエンテーションを丁寧に行ったため、授業を進めるのにとまどいはなかったものとする。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

実際の教育現場に役立つと述べており、全員評価点5を付け、実践力が身についたことには満足ができる。また、ビデオ分析等、指導の振り返りを指導の後に行い、次の指導に役立てるなど指導への取り組みに関しても勉強になった、集団の中のソーシャルトレーニングの必要性が理解できたと記述しており、特別支援教育の基本的な取り組み方が学べたものと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

5人中1名が、参考書などが示されなかったことや授業の進め方には「どちらともいえない」評価が多かった。「実践論」として講義ではなく実践をおして学ぶ形式をとったため、「教えられた」感じが希薄であったのかもしれない。指導案等の点検、実態分析等、スーパーバイズによって指導を展開したために、自身の教育活動が印象として残ったのではないかと推測する。

5 本授業の成果と今後の課題について

実践をおして、直接実践論を学ぶ形をとっているため、「論」を学んだとの印象が受講生に希薄であったと思われる。しかし、どの受講生も実践力が身についたことを感じており、指導法や様々な実践論を実際の指導に活用することを肌で感じ取ったことについては、成果が得られたと考える。実態の分析や指導計画立案に関する論理的内容については、指導法という形で講義をする時間をとる必要があり、今後の課題である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|------------------|------|-------|-------|
| | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 7 月 29 日 | | | |
| 授業科目名 | 現代日本語研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 | 火 曜 日 | 1 時 限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 茂木 俊伸 | | 回答者数 | 10 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 8 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 9 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 8 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | 5 | 2 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 9 | | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 10 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 9 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 9 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 7 | 2 | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 8 | 2 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 9 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 10 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 10 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 9 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 7 | 2 | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 8 | 1 | 1 | | | |

<分 析>

本授業では、現代日本語の語彙・文法などに関する諸問題を題材としながら、ことばの分析・研究において必要となる視点や技術に対する理解を深め、これらを獲得することを主な目標とし、講義を行った。受講者数は 10 名であった。

授業評価の全体の平均値は 4.79 である。評価項目のうち平均値が高かったのは項目 6・13・14 (5.0) および項目 2・7・8・12・15 (4.9) であり、授業の方法については概ね評価されたと考えられる。一方、最も平均値が低かったのは項目 4 (4.1) である。この点の分析については、分析項目 3 で後述する。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答者 10 名全員の記入があった。記述をまとめると、受講の動機は概ね 3 種類に分けられる。それぞれの具体例と人数（重複を含む）、記述例を示す。

(1) 研究方法の習得（4 名）：

- ・ ことばの研究の方法を知るため

(2) 論文の書き方の習得（5 名）：

- ・ シラバスを見て、論文の書き方についてとあったので、修士論文の勉強になると思い受講した

(3) 日本語そのものへの関心（2 名）：

- ・ 現代日本語についていろいろな角度から考えることができると思ったため

これらはすべてシラバスに示した内容であり、具体的な関心の異なりはあれ、受講者の目的意識は高かったものと思われる。項目 17 の平均値が 4.7 であったことから、この授業のねらいと方向性は、評価されたものと考えている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

項目 4 の評価の平均値は 4.1 である。回答者 10 名のうち、8 名の記入があった。具体的な記述の一部を、次に挙げる。

- ・ 授業のメインは論文を書く上での思考とその表し方だったと思います。これをそのまま学校で生かすかどうかは別として、ものを考える上でとても役に立ったと考えたからです。
- ・ ものごとを客観的にとらえ、論理性の大切さを教わるのができた。自分の中の考え方に大きく影響を与えた。
- ・ 教師と研究者のジレンマがあるから

授業では、研究や「分析的に捉える」ことにおいて求められる論理的な思考法を常に意識できるよう内容を構成し、同時にそれが日常生活や教育の場において、例えばテキストを批判的に読むことなどにもつながっていくということも確認した。しかし、このような「ものの考え方」が具体的な実践の中でどのように生きるかについては、受講者自身の問題意識に沿って考えてもらわざるをえない面があり、評価が割れる結果につながったものと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答者 10 名のうち、6 名の記入があった。

「良かった点」に関する記述と考えられるものの一部を次に挙げる。

- ・ 具体的な方法を知ることができたこともよかったです。抽象的な考え方についての話がおもしろかったです。論文を書く上での物の見方を意識できたように思います。
- ・ 論文のいろいろについて教えていただいて、とても役立つと思います。
- ・ 論文の書き方が詳しくわかってよかった。

この種のアカデミックスキルに関する授業では、論文の「書き方」といった技術的な側面がクローズアップされることが多いが、その背景にある思考法についても評価するコメントが得られたことは、授業担当者としてうれしいかぎりである。

なお、この他に「特になし」とする回答が 2 名あり、「改善すべき点」に関する記述と考えられるものはなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

今年度は、昨年度までの国語学の講義から内容を変更し、よりアカデミックスキルに重点を置いた授業を行った。これは、今までの研究指導において、(実践者としての)問題意識と大学院における「研究」や「論文」とのギャップに戸惑う学生や、論理的な議論を苦手とする学生が少なからずおり、専門的な内容だけでなく、より一般的な研究の方法論や思考法を学ぶ場を用意する必要があると感じていたためである。

このような問題意識に基づく授業が「教師の実践力の育成に役立つ」かどうかは判断の分かれるところであろうが、(技術論はさておき)特に思考法や視点に関する検討が、いわゆる「批判的読み」や「メディアリテラシー」にも必要なものであるということについては、概ね受講者の理解を得られたのではないかとと思われる。

アンケートの集計結果およびコメントの分析からも、シラバスに提示した本授業の目標のうち「修士論文等の研究活動の基盤となる日本語の研究能力を涵養する」という点はおおよそ達成できたと判断している。

課題としては、試行段階ということもあり、やや抽象的な講義内容が多くなってしまい、「ことばの面白さ」をじっくりと考える時間が多く取れなかったことが挙げられる。受講者の興味関心に注意を払いつつ、より魅力ある授業作りを心がけていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|-----------------|-----|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20年 7 月 31 日 | | |
| 授業科目名 | 言語教育基礎論 I | 学期・曜日・時限 | 前 期 木 曜日 3 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 原 卓志 ・ 茂木 俊伸 | | 回答者数 | 5 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | | 2 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 3 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 5 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 3 | | 2 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | | 1 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | | 2 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 2 | | | | |

<分 析>

本授業は、言語系コース（英語）教員の担当する言語教育基礎論Ⅱとの合同授業である。授業は、担当教員全員（5名）と特別参加教員（1名）が同席し、教員による1コマ（90分）の話題提供を受け、翌週に受講生および参加教員でディスカッションするという方式で進め、全体の平均として、4.6という高い評価を受けた。

特に、各教員の話題提供において、話題選定や話題提供の仕方について入念な準備を行ったことが、評価項目6、9の評価5に現れ、受講生参加型の話題提供に加えて、ディスカッションや期末に行った受講生によるプレゼンテーションが、項目16の評価が4.8であったように、受講生の積極的・主体的な取り組みを促したと考えられる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からは、次のような回答があった。

- 言語に関する知識を深める。
- 言葉について様々な角度から考えることに興味を持ったから。
- 日本語学と英語学の相違点について興味を持つようになりました。(本ママ)
- 小学校で言語教育の充実が叫ばれている中、自分自身が言語について知らないので、少しでも知りたいと思ったから。
- 他の受講生の紹介により聴講した。「あなたにピッタリの内容だから」と言われた通り、言語についての問題意識(語彙・文法・方言・敬語・英語表現など)をより明確に持てる授業であった。

このように、言語に関する興味・関心から受講していることがわかる。本授業では、6名の教員が自らの専門に基づいた話題提供を行うことで、言語を多角的に捉えることができた。また、国語コースと英語コースの教員がそれぞれの立場からコメントを行うことで、両言語についての理解を深めることができた。これらのことを通して、上記のような受講生のニーズに応えることができたと考える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からは、次のような回答があった。

- 国語の教師が普段授業で話している内容が絶対的なものではなく、言葉は常に変化しているものであるということを実感した。生徒に話せる内容の幅が広くなり、ふくらんだ。《評価5》
- 様々な分野から考えられた。《評価5》
- 言語について多様な知識が得られたので。《評価4》
- 問題を取り上げ、ディスカッションする授業は初めてなので、いい勉強になった。《評価4》

上記の回答を見ると、本授業の特長である「ことばに対する多様な観点からのアプローチ」が受講生に明確に意識されていることがわかる。また、ディスカッションや受講生自身によるプレゼンテーションを積極的に取り入れるなど、本授業では受講生が主体的にことばについて考えることを促したが、これらのことも、ことばについての理解を深める上で、有効であったと言える。

ことばの教育に携わる者として、ことばそのものに関する様々な知識を身につけ、ことばに関わる問題点を色々な角度から分析・考察することの大切さをこの授業から学べたとしたら、担当者としては、喜ばしいことである。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

本評価は、5人の受講生からの評価を受けているが、単位を取得しようとする受講生は1名である。そのほかは、授業内容に興味を持ち、聴講を希望した学生であった。

いかにすれば、受講生を増やすことができるか。これが、本授業を担当する教員にとって、一番の課題である。ここでは、受講した学生に、この問題についての意見を求めた。

○授業内容はとても面白いので、それをもっと表に出したら良いと思います。

○こんなに多くの先生が集まる授業に参加したことはありません。先生の議論を聞いているだけでも相当勉強になります。これをウリにすれば（受講生が）集まるように思います。

○「言葉の世界の広がりを感じられる！」「学校での言葉の使い方が変わる！」「言葉と文化、言葉と社会の関係を知ることができる！」なんて宣伝文句を入れてみてはどうでしょう。

○授業のタイトルから想像すると、カタイイメージがあります。英語と日本語を比較しながら考える方向に持って行くか（国語系は去っていくと思います）、現在のようにそれぞれの立場から私はいいと思いますが、受講生をふやすには方向性をピシッと出した方が良いでしょう。現在は谷間的な存在になっているので。

以上の意見から、授業を受講した学生は本授業の特徴を理解し、高い評価を行っていることがわかる。上記の意見を参考にして、今後は授業の目的や内容について、これまでよりもっと具体的にシラバス上に示すなど、本授業についてPRしていくことの必要性が見出せる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、これまでも学生による授業評価において高い評価を受けてきたが（平成19年度は全体の評価平均4.6であった）、本年度も全体として高い評価を得ることができた。これは、異なる専門を持つ複数の教員の参加およびディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れ、主体的な学びを促すという本授業の特長が「ことばを様々な角度から見直したい」という受講者のニーズに応えるものであったためと考えられる。このような授業形態によって、ことばを多角的かつ主体的に捉える視点を受講生に培うことができた点は本授業の大きな成果であると言えよう。

その一方で、本授業では年々受講生が減少し、本年度は1名（他に聴講生数名）という事態に立ち至った。授業を受けた受講生からは、高い評価を受けるのに、受講生が少ないという悩みから、質問〔4〕ではあえて「いかにすれば受講生を増やすことができるか」ということについて、意見を求めた。受講生からは多くの具体的なコメントが得られたが、そこに出された意見を参考にして、今後は授業のPRに努めることが課題となる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|-----------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 8 月 5 日 | | |
| 授業科目名 | 日本語教育学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 火 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 小野由美子 | 回答者数 | 9 名 | | |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 6 | 3 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | 2 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 4 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 6 | 3 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 8 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 6 | 2 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 6 | 2 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 7 | 2 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 7 | 2 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 6 | 1 | 1 | | | 1 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 7 | 2 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 7 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 7 | 2 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 8 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 6 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 3 | | | | |

<分 析>

どの項目においても1, 2の回答がなく、今期の授業は概ね受講生の満足を得られたと言える。「4 教師の実践力の育成」の評価は4, 5が拮抗しており、より一層工夫を重ねたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

問題意識

- ・日本人の子どもに対する教授法と日本語学習者に対する教授法はどの点で違いや同じ点があるか
- ・英語教育に活かせる発見をしたい

期待

- ・日本語教育の幅広い知識が身に付く
- ・日本語教育について学ぶ、知る (2)
- ・日本語教育に関する専門的な知識を身に付けたい

<分析>

開講意図にそった問題意識・期待をもって受講していた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

- ・ 4 教授法や教授に役立つ知識や情報は得ることができたが、実際の実践はしていないので。
- ・ 5 歴史、現状と問題点、教授法について学ぶことができ、大変参考になった。
- ・ 5 教師の体験談や特別講師の方のお話しが興味深かった。
- ・ 5 授業の中でいろいろな活動があって、色々なことを考えさせられた。
- ・ 5 たくさんの講師の方からいろいろな立場で日本語教育について教えていただいた。日本語教師にだけでなく、どの教科、校種の教師にも、必要な資質や教授法も知ることができた。

<分析>

後期に予定している教室実践に先立ち、日本語教育についての幅広い知識・観点を養う事が前期の目的でもあった。記述を見る限りではその意図が達成できた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

良かった点

- ・説明が分かりやすい。表現力がある。
- ・日本語教育について一から勉強することができた。グループやペア活動が入っていたことで、より深く学習・理解ができた。
- ・たくさんの知識を得ることができた。
- ・出張の際、さまざまなゲストティーチャーが来てくださり、この先生方の授業も内容が濃く刺激を受け、大いに役立った。先生方に個性があり、すばらしさを感じた。(3)

改善してほしい点

- ・課題をもう少し少なくしてほしい。日本語専攻はともかく副専攻の学生にはかなり重い(中身の濃い)課題だった。

<分 析>

概ね意図通りの回答が得られた。課題の多少は受講生によって受け止め方が異なる。すべての受講生にとって過重であったとは思われない。

5 本授業の成果と今後の課題について

今後、直接には後期の教室実践、の基礎作りができ、今期の授業の意図は達成された。
今期に得た知識を受講者が実践に結びつけられるように指導することが、今後の課題である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|-------|--|-----------|------------|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成20年7月25日 |
| 授業科目名 | 日本語音声表現研究 | 学期・曜日・時限 | 前期・金曜日・2時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 永田良太 | 回答者数 | 14名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 9 | 4 | 1 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 9 | 5 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 13 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 10 | 3 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 9 | 4 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 13 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 12 | 2 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 13 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 12 | 2 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 9 | 3 | 2 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 12 | 2 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 13 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 13 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 11 | 3 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 9 | 4 | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 12 | 1 | 1 | | | |

<分 析>

本授業においては、日本語教育の実践を視野に入れつつ、日本語の音声に関する網羅的かつ体系的な知識を身につけることを第一の目標として授業を行ったが、③や④を見ると、この点については概ね達成されたと言える。特に、授業の内容と教育実践とを結びつけることは前年度の課題であったが、この点が改善されたことは本授業の成果であると言える。

今後の改善点としては、まず、授業に際して、授業の流れや目標を受講生に意識化させることが挙げられる。③を見ると、授業で扱われた各項目のつながりは受講生に理解されているが、①や⑤が示すように、それらの関係を事前に理解させ、授業に臨ませることに關しては、十分に達成できているとは言えない。学習効果をさらに高めるために、この点については改善する必要がある。また、⑩が示すように、視聴覚機器のより効果的な使用についても、さらに工夫したい。

今回のアンケートによって、本授業で達成できた点と改善すべき点とが明らかになったが、⑩が示すように、全体としては受講生にとって有意義な授業を展開できたと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答は以下のようにまとめられる。

- (1) 日常、無意識に発している日本語の音を客観的に見つめ直すため。
- (2) 正確な発音を学ぶため。
- (3) 今後の教育実践に役立てるため。

上記のように、本授業における受講生の問題意識は三つに大別されるが、ここでは(1)と(2)について分析を行い、(3)に関しては次項において分析を行う。

まず、(1)に関して、本授業においては、日本語の音がどのように作られるのかについて説明を行うとともに、聴解の練習を行い、産出と聴解の両面から、それぞれの音の特徴について考えた。これらを通して、受講生は普段無意識に発している日本語の音について、意識化することができたと思われる。また、本クラスには留学生が参加していたが、他言語の音と日本語の音とを対照することで、日本語の音の特徴をより明らかにすることが出来た。このように他の言語と対照することが出来たことも、日本語の音を意識化する上で有効であった。これらを通して、(1)のような受講生のニーズに応えることができたと考える。

次に、(2)に関して、日本語の音の特徴を知識として理解するだけでなく、各人が実際に音を産出することを通して、正確な調音法を身につけるように心がけた。これにより、(2)にも応えることができたと考えるが、調音法の指導については、視覚的な説明方法を工夫するなど、さらに改善に努めたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答は以下のようにまとめられる。

- 日本語の音声の仕組みがわかり、実践に役立つ授業であった。
- 日本語教育だけでなく、学校教育における音声指導にも役立つ内容であった。
- 授業の導入や展開の仕方が自分自身の授業の参考になった。
- 指導法について、もう少し説明があると良かった。

音声指導を行う上で重要なことは、教師自身が日本語の音声に関する正確な知識を身につけておくということである。受講生の回答を見ると、本授業の中で、この点は概ね達成されたと言える。また、単に音声的知識の獲得にとどまらず、各自が実践を意識して学ぶことができたと思われる。但し、授業の中では、日本語の音声に関する知識の獲得に主眼を置いたため、具体的な指導法について十分に議論を深めることができなかった。本授業の展開の仕方それ自体が自らの教育実践力の育成に役立つものであったという回答もあったが、今後はこの点について、受講生の実践力を育成するための授業をさらに追究していきたい。

また、本授業の特徴の一つに、留学生や現職教員など、様々なコースからの多様な受講生の参加が得られたということがある。授業では主として日本語教育を念頭に置いて授業を行ったが、それぞれの立場、領域から意見を出し合うことで、日本語教育における音声指導上の問題点や学校教育における母語話者を対象とした音声指導の必要性など、重要な問題を具体的に確認することが出来た。このように教育実践上の問題点について、受講生が具体的に認識できたことは、本授業の成果の一つとして挙げられる。受講生の特性を生かした学びの深化については、今後も引き続き行っていきたい。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生からの回答は以下の通りであった。

- 授業中に発言しやすい雰囲気であった。
- 聴解の練習問題に取り組んだのが良かった。
- 積極的に発言が促され、様々な意見を聞くことが出来てよかった。
- 説明が分かりやすく、理解しやすかった。

本授業では、日本語の音声についての理解を深めるために、個々の音がどのように作られるのかを自らの調音器官を使って確認するとともに、聴解練習を行うなど、様々な活動を行った。その際、これらの活動に参加しやすい雰囲気作りに努めたが、上記の感想を見ると、この点については達成できたと言える。

また、項目3で述べたように、様々なコースから多様な属性を持った受講生が参加するという本授業の特性を生かすために、受講生からの発言を促したおかげで、音声指導に関する様々な問題や各領域における取り組みを授業の中で共有することができた。今回の感想で評価された、活動への参加や発言しやすい教室の雰囲気作りについては、今後もさらに取り組んでいきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業における目標は、普段無意識に発している日本語の音を意識化してその特徴を客観的に捉えること、そしてそのような特徴を理解した上で日本語教育における音声指導上の問題点を理解することという2点であった。

1点目に関して、自らの音を意識化して客観的に捉えることに、当初は難しさを覚える受講生もいたが、日本語の音同士を比較することや他の言語の音と比較・対照することを通して、その特徴を捉えることが出来たようであった。これに際しては留学生の存在が大きかったように思われる。留学生の参加によって、様々な言語と日本語の音を比較することが出来た。また、母音の無声化やアクセントなど、地域差がある事項に関しては、様々な地域出身の受講生に実際に発音してもらうことで理解を深めることができた。

2点目の日本語教育における音声指導について考える上でも、留学生の存在が大きかったように思われる。日本語を学習する上で難しかった点や現在難しいと感じている点を聞くことで、音声指導上の留意点について考えることが出来た。但し、今回の結果を踏まえ、今後は具体的な指導法について考える時間をもつようにしたい。

このように、本授業における二つの目標は達成することが出来た。これに加えて、本年度の授業では、様々なコースの受講者の参加を得ることで、学校教育の現場にも音声指導を必要とする多くの子ども達が存在することを確認することが出来た。即ち、日本語の音に関する知識は、日本語教育のみならず、学校教育にとっても重要であるということである。本授業において、それぞれの立場から、学習者の問題点と今後の指導のあり方について意見交換が行われたことは、本授業における成果の一つである。今後は音声学的な知識がそれぞれの実践にどのような形で生かすことが出来るのかを探っていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 18 日 | | |
| 授業科目名 | 英語学研究 I (英文法理論) | 学期・曜日・時限 | 前 期 金 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 藪下 克彦 | 回答者数 | 3 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 3 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 1 | | | | |

<分 析>

3つの評価項目[2], [5], [7]を除いた項目において、評価が5または4であったのでおおむね良好な評価をもらったと思っている。

上の3つの評価項目の内容に留意して、来年度は授業を準備、実践していく。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的な書きください。

<分 析>

実際の回答として次の3点があった。

「苦手な文法の理解」

「英文法を生徒に教える時に役立つ知識を得たかった。」

「英文の構造に興味があった。」

本授業は、いわゆる「学校文法」や「受験文法」そのものの内容ではないが、現場での文法指導の時に重要になる文法観、「応用力」とも呼ぶべき知見なり能力の育成には役に立つ内容であった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

実際の回答として次の2点があった。

「文の構造がわかると、生徒に楽しく教える時に、ウソを言う可能性がへるとおもった。」

「当たり前と思っていた文法（特にDeep structure）を論理的に考えれるようになったから。」

現行の中学校、高等学校学習指導要領において英語教育の目標が「実践的コミュニケーション能力」（具体的には、英会話能力）の育成とさだめられたことと、伝統的な指導方法である文法訳読方式への反動として、最近の英語教育では、「言語活動」と称する模擬英会話活動が授業の活動の中心となった。そのような授業においては、本来、母語でもない、第二言語でもない、外国語である英語の学習に必要な不可欠であるはずの文法が軽視され、文の構造などを「論理的」に解説、学習する活動などがなおざりにされている。そのような英語教育の結果は、広く周知のように、目標とされている英会話も前の世代では少しはできた文法もできない生徒・学生の大量生産ということである。英会話をしなければならない境遇になったときに依って立つべき「文法力」をしっかり指導する英語教育のほうが、効果的ではないかと思われる。そのような英語教育を行うことのできる教員の育成に本授業が少しでも貢献することができることを願っている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

特に、意見はなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の目的は、受講生がこれまで「文法」として接してきた「学校文法」や「受験文法」ではなく学問、科学としての「文法」、文法理論の入門であった。受講生は、文法理論の有意義性また現場での文法指導における関連性、有用性を理解してくれたと思う。しかし、なにしろ、3でも述べたように、現在、英語教育（界）において、文法を忌避、敬遠する傾向があり、今回の受講者数も3人であった。次回からは、前の受講者に本授業の「宣伝」をお願いしたりして、受講者数を増やさなければならないと思っている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-----|------|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 31 日 | | |
| 授業科目名 | 言語教育基礎論Ⅱ | 学期・曜日・時限 | 前期 | 木曜日 | 3 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 太田垣・藪下・夫 | 回答者数 | 2 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | 1 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 1 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | | 2 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 1 | | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 1 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | 2 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 1 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 1 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 1 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | | | | | |

<分 析>

まず、評価番号が2以下の評価科目はなく、全般的には良い評価を得たと思っている。特に、評価項目17番の「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」において、回答者の両名が5の評価をしていることにこちらとしても満足している。

しかし、いくつかの項目に関して3の評価がされており、改善の余地があるのも確かである。例えば、教科書や参考書の使い方、また、成績評価の方法の周知などは課題である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

まず、実際のコメントを記す。

「ディスカッションがあるので、集団討論の訓練になるかなあと考えて受けました。」

「「ことば」について多面的にとらえたかったため。日本語と英語に共通な役割の部分やそうでない部分をコミュニケーションを通して考えてみたかった。」

上のコメントは別々の人のものであるが、一人は、ディスカッションの良い訓練になると思い受講し、もう一人は、「ことば」に対するコミュニケーションも中心視点においた多面的アプローチに興味を持って受講してくれた。どちらもこの授業の重要な側面であるので、シラバスによって授業の趣旨が伝わっていたと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

一人のコメント：「同じテーマについて、さまざまなジャンルの研究者が集まって議論しあう学際的な場は、鳴教の中では唯一の授業で大変刺激的でした。」

もう一人のコメント：「具体的に現場ではこんな風に授業すればいいという情報を与えて下さったりしました。」

毎年、「言語教育基礎論」というタイトルを聞く受講生の何人かは、授業にすぐに役立つテクニック、授業案、教材例を学ぶことを期待し、そのような授業でないことを知りがっかりするのであるが、今回の受講生にはそのような者はおらず、授業の趣旨をしっかりと理解してくれていた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

一人のコメント：（前質問の3の自分のコメント）「同じテーマについて、さまざまなジャンルの研究者が集まって議論しあう学際的な場は、鳴教の中では唯一の授業で大変刺激的でした。」（を受けて）、「このような1つの課題に対して複眼的にとらえようとする考え方は、現代の教育課題をとらえる上で重要なことであり、教職大学院の理念とも共通する部分。→ したがって教職大学院の必修科目にする。」

もう一人のコメント：「木曜の午後は、徳島県内の公立学校は研修があります。小学校などで授業を見学に行けるのが木曜日なので、ちょっと困りました。曜日を変えて欲しいです。」

教職大学院の必修科目にすべきと言うまで本授業を評価する受講生がいたことは光栄であり、次年度以降の受講生にもそのように思ってもらえるべく一生懸命受領を行っていくつもりである。授業時間割に関しては、本授業は複数担当で、さらに、全員の教員が全ての授業に出席するという形態上、全員の教員に都合がよい授業時間は限られてくるので、受講生全員に都合の良い時限を設定するのは困難であると考えられる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の授業形態である複数の授業担当者による話題提供と質疑、その次の週に前の週の内容に関して、受講生が思うこと、調べたこと、疑問に思ったことに基づく、受講生と授業担当者によるディスカッション、また、学期末のプレゼンテーションは、本授業の目的である「人間にとっての言語の意味」を考え、「言語の本質に迫ろうとする態度」を培うという目的のためには有効であることが分かった。

しかし、複数の教員が担当すると言うことと、授業活動が話題提供の講義を聞く、感想・疑問点をレポートに書く、ディスカッションに参加する、期末レポートを書きプレゼンテーションを行うなど多岐にわたることなどから、受講生にとっては、成績評価の方法が必ずしも明らかではなかったかもしれない、さらなる周知を徹底するつもりである。教科書や参考書に関しては、複数教員による話題提供という形態上、教科書や参考書ではなく、パワーポイントなどによるプレゼンテーション資料、ハンドアウトなどの資料をつかうので、教科書や参考書などに関する質問事項は次回から除外するつもりである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | | | |
|-------|--|----------|------------------|-----|----|---|----|
| | | 評価実施日 | 平成 21 年 2 月 16 日 | | | | |
| 授業科目名 | 歴史学研究 I | 学期・曜日・時限 | 後 期 | 月 | 曜日 | 2 | 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ○4. 専門科目 | | | | | | |
| 担当教員名 | 大石 雅章 | | 回答者数 | 7 名 | | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 4 | 1 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 5 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 5 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 5 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 3 | 4 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 3 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | 3 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 3 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 4 | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 3 | 3 | 1 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | 7 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | 2 | 1 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 2 | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | 3 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | 3 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 4 | | | | 1 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 3 | | | | 1 |

<分 析>

視聴覚機器を使用しなかったため番号 11 をアンケート項目から外した。
 1 人の受講生が番号 16・17 の記入欄に誤って 16・17 と記入したため、無の評価が出た。マークシートであれば、このような誤りは発生しないであろう。
 評価はおおむね 5・4 であり、受講生から授業としては一応満足のいくものであったと判断できる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「歴史研究の方法について、先生の具体的な研究内容から講義していただけた貴重な機会でしたので受講させていただきました」「日本史の教科書には載っていない歴史的事実を学びたと思った」「中世の日本における仏教について、教科書以外の専門性を見付けるため」「日本の仏教に興味を持って受講しました」など、教科書の記述内容を超えた歴史学を学ぶことを期待した受講生が多いことがわかった。とくに講義のテーマである日本中世の仏教や寺院に関する教科書の記載は、当該の国家や社会とくに民衆生活との関連で説かれたものはほとんどなく、僧侶名や文化財の作品名などの説明にとどまっている。このような教科書の記述内容のレベルが反映しているものと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「随所に教科書の記述についての紹介を入れてくださったのでたいへん役に立つ内容でした。一時間一時間のテーマの設定も明確で、さらに全体として一つのまとまった内容になっていたと思います」「歴史の教科書には事実が書かれているが、なぜそうなったのかとか原因など深いところまで考えるきっかけを与えてくれて良かったと思います」「歴史的事実において、出来事の結果だけを生徒に教えるのではなく、それまでの経緯や人々の考え方、生き方をも伝えられるよう授業を面白くできる工夫が大事だと思った」「先生は毎回たくさん資料を配ってくださってとてもわかりやすいと思いました。今後授業するときは、必ずこのように授業したいと思いました」など、教科書の専門性を高めることによって、教科書の記述内容を深く豊に理解し、はじめててわかりやすい授業ができることを受講生は学びえたようである。教科書の専門的能力が教師の実践力に深く関わることを示したことは、実践力の育成に役立つものであったといえよう。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この質問についてはほとんど記述がなかった。少ない記述では「徳島城博物館の本願寺展につれてくださり、学芸員の方の話とあわせて、先生に解説していただいたので、歴史をさらに身近なものとして感じることができました」「良かった点、先生のご研究について熱意が感じられました」であった。授業内容に関わる展覧会などの催し物があるときには、有効に授業に組み込みながらすすめることが受講生にとっても良き刺激になるようであり、今後可能な限り組み込めるよう努めたい。また教員が研究を踏まえ、生き生きと受講し語りかけることが、受講生にとってよい授業環境となったようである。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生の知的好奇心を常に引き出しながら、授業を進めることが重要である。そのためには学術的な内容についても、教科書との関連で説明することにより、受講生の関心を高めることができると同時に、学校現場での授業を行うにあたっては、教科の専門的な能力や知識が欠くことのできないものであることが理解できる。その観点からさらに授業作りに努める。また身近な題材を有効に活用しながら受講生が興味ある授業作りに心がけたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|------------------|-----------------|--|--|
| | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 7 月 24 日 | | | |
| 授業科目名 | 歴史学演習Ⅱ | 学期・曜日・時限 | 前 期 木 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 町田 哲 | 回答者数 | 5 名 | | |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 3 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 2 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | 2 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | | | | | |

<分 析>

多くの受講生が、この演習について満足できる内容であったと受け止めていることがわかった。一方で、「4教師の実践力育成」について若干点数が低い。これは、演習内容から直接的に実践力育成には役立たないという判断の結果であると考えられる。また、8理解度の確認や9授業への参加という点が他に比して若干低い点は、今後の課題としてうけとめたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答者は1名のみ。「歴史学研究の方法について具体的に身につけたいと考えて受講しました。」というコメントが寄せられた。演習の意図をよく理解したコメントであると考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

回答者は1名。「論文を読解する力、要約する力が身に付くと思います。発表など相手に内容を伝える力も身につけることができると思います。」というコメントが寄せられた。実践力育成については、全体としては比較的点が低いですが、このコメントのように演習の意図を十二分に理解すれば、迅速なようでありながら、実践力育成にも当然反映してくるという点がみえてくる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答者は1名。「各研究論文を読んでいくと、最終的に一つの歴史像が形成されていく構成になっていた点がとても良かったです。」「難解な論文もあったのですが、先生の適切なアドバイスでポイントが明確になった点が良かったです。」というありがたいコメントを得た。

5 本授業の成果と今後の課題について

本演習では、日本近世の社会構造に関する主要論文をとりあげて、検討することを主たる目的としている。本年は、近年の身分的周縁研究に関する論文を検討し、議論しながら、近世社会の理解をめざした。前半は、宗教者および宗教的勲進者層（陰陽師、道心者、神職者、山伏、六斎念仏等）についての論文、後半には、市民的知識人層（儒者、藩医、絵師、読者層等）についての論文を精読した。

これらを通じて、日本近世における身分の問題、あるいはこうした諸身分が都市や地域においてどのように構造的に存立していたのかについて議論することができた。受講生についても、演習の目的をよく理解し、近世社会の理解について、一程度の理解を深めることができたと考える。

また、論文の読解力という点でも、3のコメントにあるように、目標に達したものと考える。

演習の中では、できるだけ発言を求めたが、今後も受講生の自発的な発言を切り口に演習を進めることができるよう、努力したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-----|------|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 25 日 | | |
| 授業科目名 | 歴史学研究Ⅲ | 学期・曜日・時限 | 前期 | 金曜日 | 4 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 原田 昌博 | 回答者数 | 11 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 10 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 10 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 10 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 6 | 4 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 8 | 3 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 11 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 8 | 1 | 2 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 7 | 3 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 8 | 3 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 9 | 2 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 8 | 2 | 1 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 9 | 2 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 10 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 10 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 9 | 2 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 7 | 3 | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 11 | | | | | |

<分 析>

全体的に見て、各質問項目とも「5」の評価が最も多く、「4」を含めるとほぼすべての評価となる。この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。とりわけ、回答した11名中、質問6では全員、質問1、2、3、13、14では10名が「5」と評価しており、授業の計画性、授業中に使用・紹介したテキストや参考書、授業の一貫性、教員の熱意、教員の説明の分かりやすさ、および教員の声の聞き取りやすさについてはとりわけ満足度が高い。その他の質問でも回答者11名中、6～9名が「5」の評価をしている。最後に、質問17で全員が「5」と評価している点からも、学生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

(受講者の回答)

- ・ナチス時代のドイツの歴史（ホロコースト）に興味があったから（6名）。
- ・ドイツの歴史と日本の歴史を比較したいと思ったから。
- ・歴史を捉える概念・視点について学びたかったから。
- ・ナチズム研究と歴史教科書の記述の関係がどうなっているか知りたかったから。
- ・ナチズム研究について知りたかったから（2名）。
- ・歴史の解釈・方法論について考えたかったから（2名）。

上記の回答から、受講者の問題意識や期待は、大きく3種類に分類されるであろう。第1に、歴史の内容そのものに関心があり、それを知るために受講したものである。その際、本講義が対象としたドイツ史あるいはナチズムは題材としても関心が高いことが読み取れる。第2に、歴史の研究（方法）に関心があるというものである。第3に、歴史教育への関心からであるが、このグループは全体の中では少数のようである。アンケート結果から見る限り、これらの学生の問題意識・期待に対して、本講義は概ね応えることができたのではないかと考えられる。

この授業は「ナチズム」という現代史の1つの歴史事象をテーマに取り上げているが、その際には専門的で難解なまた殊更に細かい内容に深入りするのではなく、高等学校の教科書記述を入り口にナチズムを事例に関する研究史・研究状況が現場で使われる教科書にどのように影響を与えているのかという点を受講者が掴むことを目標とし、その旨をシラバスに記載した。教員養成大学の大学院での西洋史の授業という性格を考慮した場合、西洋史専攻の学生だけが受講するとは考えにくく、よってこのような配慮は学生の本授業に対する問題意識の涵養には不可欠ではないかと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の回答

- ・授業の構成がきちんとできており、高度な研究成果を学生に分かりやすいように伝えていた。
- ・教師にとって重要な多面的な解釈・アプローチ方法が提示されていた（3名）。
- ・現在の教科書記述について具体的に説明されていた。
- ・授業をする上での引き出しが増えた。
- ・教材研究の方法として参考になった（2名）。
- ・担当教員の授業の仕方が参考になる。
- ・教師の実践力の育成に役立つかは判断しにくいと感じた。

本講義は歴史学の専門的分野を扱っているため、1件だけとはいえ「教師の実践力の育成に役立つかは判断しにくい」という回答が見られた。確かに、内容面から言うならば、一つの時代・地域をここまで詳しく扱うことは学校現場ではまずないだろう。しかし、本講義が目指したのは、「ナチズム」を事例（入り口）にして、一つの歴史事象には「複数の解釈」があり、現場に立つ教員にはこの多様なものの見方・考え方が必要とされる点を実感させることであり、このように授業を捉えたほとんどの受講者からの評価は高かったようである。大多数の回答がそれを実践力として役立つと評価してくれたこと、また本授業の進め方自体が参考になるとのコメントは授業者として大変うれしい限りである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者の回答

(良かった点)

- ・内容の組み立てが非常に工夫されて、捉えなおしやすかった。
- ・授業計画が決まっていたのでいつ何をやるか分かった。
- ・適切に前時の復習をした。
- ・発表前に講読する論文を全員に配布していた。
- ・歴史事象に多角的なアプローチが取られていた。
- ・広くもの見方・考え方を提起し、学生への細やかな配慮が感じられた。

(改善すべき点)

- ・ディスカッションの時間がもっとあったらよかった (2名)。
- ・もう少し質問の時間があればよかった。
- ・外国語を講読して外国史を研究する講座がほしい。

講義に関しては好意的な評価が多かった。世界史・ドイツ史・ナチズムに関してまったく知識を持たなくても理解できる講義を目指していたが、この点は概ね達成されているのではないと思う。良かった点については、5段階評価の結果を忠実に反映しているといえる。本授業は講義として開講されているため、ディスカッションの時間が必ずしも十分に取れなかった。質問時間の少なさと併せて、今後改善していきたい。また、外国語を用いた授業も可能ならば行いたいところである。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義の内容は次の3点に要約できる。

- ①現在の高等学校の世界史教科書の「ナチズム」に関する記述を10年前の教科書と比較し、その変化を確認する。
- ②この変化の背景にある研究の進展を最新の著書・研究から明らかにする。
- ③この作業とともに、講義での概説を通じて西洋現代史についての知見を深める。

本講義はこの3つの目標を達成するため、授業担当者による概説（講義）と受講者による報告を織り交ぜ、また受講者各人の積極的な意見発表を取り入れながら進められた。アンケートの諸結果からこの目標は概ね達成できたものと考えられる。また、講義の理解を促進するために事前に30頁のレジュメ集を作成・配布し、さらに各講義において補足資料を追加した。

授業の進め方としては世界史の内容を通史的に概説する授業も考えられるが、本講義は来年度以降も今年度と同様に特定の「歴史事象」に対してそれを多様な見方で捉えていく形で進めていきたい。今後の課題としては、レジュメおよび配布資料の改良、視覚資料の更なる充実を図ること、質問・討議の時間を増加させることであり、さらに歴史教育実践者として歴史教科書記述の背景に至る広範な理解を促すような授業作りを意識的に行っていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | |
|-------|---------------------------------------|----------------------|
| | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 31 日 |
| 授業科目名 | 地理学研究Ⅰ | 学期・曜日・時限 前期 木曜日 2 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | |
| 担当教員名 | 木原 克司 | 回答者数 4 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 2 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | 1 | 2 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 2 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 | 1 | 2 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 3 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 1 | 2 | 1 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | 2 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 1 | 2 | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 1 | 2 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 2 | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 2 | | | | |

<分 析>受講生は4名と少なかったが、もう1名昨年同授業を履修した学生が特別に授業に参加していた。特別聴講の1名（日本史）を除いた4名のうち2名が日本史、1名が地理学、1名が社会学を専攻する学生であった。授業内容が歴史地理学、考古学、日本古代史にわたるものであったため、日本史分野・地理学分野の学生にとっては授業内容を理解しやすかったと考えている。各質問項目で4以上の評価を与えた学生は日本史・地理学の学生であったと思われる。3の評価が目立ったものとして、実践力育成・授業への参加・板書の文字があるが、実践力については2名が4以上の評価を与えている。この2名は日本史専攻の学生と考えられ、専門分野の違いで評価が異なるようである。授業への参加については、授業の開始にあたって質問を歓迎することを伝えたはずであり、授業の終了時に何度か質問がないかこちらから提示したので、こうした評価が出された理由がわからない。板書については、もう少し丁寧に行う必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析> 4名中3名が日本の古代都市の構造や条坊制都市の成立に関する研究史を学べることを期待していたと記述しており、シラバスの内容を理解した上で受講したことがわかる。もう1名は、授業終了後の飛鳥巡検に大きな期待を持っていたようである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析> 2名が専門性が高すぎるという指摘を行っているのに対して、他の2名は「古代の歴史地理を学ぶことで子供に教えるにあたって、さらに詳しく根拠づけて教えることができると思う。実際に飛鳥に見学に行けることも大きい。」「研究内容を学生に理解しやすいように工夫していただいていた」という意見を述べている。こうした評価の相違は、やはり受講生の専門性と大きく関わっているように思われる。歴史や地理を専攻する学生は、講義の内容を授業実践に応用できると捉えているように思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析> 4名のうち3名から回答があった。その内容を以下に記述する。
良かった点としては、「精密な研究と具体的な教授・レベルの高い内容で刺激を受けた」、「講義を受けるのが待ちどおしく感じた」、「学生への配慮・心づかいに感動した」、「日本の古代の制度と都市の問題点を知れたことが良かった」のような指摘があり、改善すべき点としては、「配布資料に通し番号を付けて整理しやすいようにしてほしい」という意見があった。

なお、シラバスにも明記していたとおり、授業終了後の8月末に、1泊2日の飛鳥・藤原・平城地区への巡検を行い、発掘調査現場の見学も含めた現地講義を実施した。これには受講生以外の特別参加もあったが、参加者全員が授業内容の理解に大いに役に立ったとか、室内講義だけでは得られない体験を味わえたとか高い評価をしていた。こうした巡検終了後に授業評価のアンケートを実施すれば、評価の内容は大きく変わっていたと考えられる。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生の全員が、授業内容について満足できるものであったと評価しており、板書の方法など改善すべき点も少なからずあるが、授業全体としては自分自身も満足できるものであったと評価している。この授業については、毎年授業内容と関連させた現地巡検を実施し、学生に授業内容を復習させる目的で、発掘調査現場の見学も含めた現地講義を行っている。こうした方法は、強制的なものではないが、参加した学生からは毎回極めて高い評価を得ている。今後もこうした試みは継続していく必要がある。授業アンケートも提出時期は若干遅くなるが、こうした現地巡検終了後に実施したほうが正しい評価が出るように思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|-------|--|-----------|-------------------------|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 15日 |
| 授業科目名 | 法学・政治学研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 火曜日 5時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 麻生多聞 | 回答者数 | 3 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番 号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|--------|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | | 1 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 1 | | 1 | | | 1 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | | | | 1 | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 1 | | | | |

<分 析>

話し方の速度、板書の文字について、反省すべきことを認識した。
 学生はきわめて主体的に講義に臨んでくれたように思う。その熱意に
 負けないよう、こちらもしっかりと講義を担当していきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

興味がある分野だったので、わかってやろう！！という問題意識で取り組んだ。

新聞などで報道されている内容をきちんと理解して読めるようになる手がかりになると思い、結果、期待通りの成果が見られた。

法学・政治学について、今までしっかり勉強することがなかったために、教員採用試験で出るかもしれない一般的な法・政治について、一度じっくり勉強したかった。また、現在の政治がどのようになっているのか知ることが重要であり、社会人としての自分に欠けていると思われたので、この授業をとりました。

アメリカの民主主義における諸問題について

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

アメリカの政治事情を学ぶことで、ユダヤ、イスラエルを学ぶことができ、実践力の面においては、かなり役立つ。

まず第1に、教師の実践力として知識があるということが前提になるので、その事に対する用語、その背景にある事に対する知識について教材研究として役立つ。第2に、授業の流れで生徒が自分に当てられたところを時間内に発表する方法がとられ、時間内で自分が相手に伝えたい事をまとめる力を育成するものだと思う。最後に、しっかりその日するところを学習しないと、先生からの質問に答えることができないので、しっかり勉強できたことである。討論と発表、質問と、しっかりとした思考力の育成につながった。

アメリカの歴史や法、社会システム全体についての考えをまとめなければ説明しづらいと思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

非常に良い授業で、受けてよかったと思えた。また内容も個人的に良かった。一点、受ける生徒が少ないとレジュメをきったり発表の回数が増える方式なので、受ける生徒の人数にあわせて考えてほしい。1年生に良い授業であると思います。

もう少しアメリカ社会の全体的問題についても話が聞きたかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|---------------|-----|------|
| | | 評価実施日 | 平成 20年 7月 25日 | | |
| 授業科目名 | 哲学・倫理学研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 金曜日 | 2 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 齋木哲郎 | 回答者数 | 11 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 5 | 6 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 5 | 2 | | 1 | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 9 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | 3 | 4 | 1 | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 4 | 3 | 4 | 1 | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 6 | 5 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 8 | 3 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | 6 | 2 | | 1 | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 3 | 2 | 2 | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 4 | 3 | 4 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | 2 | 3 | 1 | 1 | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 7 | 1 | 3 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 5 | 6 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | 7 | | 1 | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 6 | 4 | | 1 | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 4 | 3 | 1 | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 2 | 3 | | | |

<分 析>

ほぼ例年並みかと思う。哲学・倫理学というのはいかに筋道を立てて講じたとしても、それ自体常日頃の生活裡で意識されることがない分、分かりにくいというのが通評である。それにも拘わらず、大方の受講生にとって満足が行くものであったこと、成果であった認めてよいであろう。以下いくつか気になる点を挙げる。2) 8) 11) の項目で「1」が一人づついたが、これには各々の事情が考えられる。まず2) については実際に学生が参考書等を手にして確認しての判断であって、その成果が「1」というのは学生自身それらの書を見なかったということではないか。8) については、この授業では聴講生も含めて中国からの留学生も居たことからかなり注意を払った点であるが、私自身の配慮に偏りがあったということかもしれない。11) については、今回視聴覚資料を用いた授業を2回行っているが、その際に休んでいたということではないか、事実と異なる。

この外、14) の項目で「2」が一人いたが、私には意外な結果である。ここでの「2」は恐らくは中国の留学生の意見で「听不懂（聞いて分からない）」の意味ではないか。思い当たる点を指摘した。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「哲学・倫理学に触れる機会を得たいと思った」「過去の哲学・倫理学を今に活かせる方法を考えたいと思った」「倫理について学びたい」「日本人がどの様にして中国の思想を受容したか」「哲学・倫理学を学ぶことの必要性に鑑んで」「中国人の思想を知りたくて」といった意見に集約できる。各人の問題意識で受講されたんであろうこと、再確認した次第である。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

回答いただいたのは8名。内6名が肯定的、2名が否定的であった。肯定的な方の意見は「思考力が身についた」「歴史の授業のまために使えると思った」「考えることの基本となることを知った」「具体的な活かし方は今は不明だが、哲学的な思考は活かす必要がある」「授業が細やかで、難解な思想も学生レベルに合わせて平易に聞くことが出来た」「自分が勤務する校種の教科に活かすには高度で専門的であったが、探求の姿勢は大いに参考になった」等であり、否定的な方の意見は「中学校や高校の国語の教員を目指す者にとっては有益かも知れないが、他の教科の教員を目指す者には実践力の養成に繋がらない」「心の教育には非常に役立つが、説明するのが難しい」であった。

哲学・倫理学というのは事物で説明できない分教えるのは難しいとは、私も思う。それにも拘わらず教えてそれを学生に理解させなければならないのが、この科目の難しさであろう。開校時、最初に申し上げたことであるが哲学・倫理学を教えるというのは、教える側がまず教える内容を確実に分かっていることが何よりも大事であって、その次にそれを分からせる工夫をすることである。この点を自己の問題として、ないし自分にも為しえることとしてこの授業を受けたのが肯定的な6名であって、自己の立場で捉えることができなかつたか、哲学的思考に不慣れな点を恐懼したのが否定的な2名の意見であったと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

全体は授業が広範囲にわたって興味を持てたとの感謝の表明であった。その内、改善を求める意見として2点指摘されていた。1)「話すスピードがもう少しゆっくりだったらいい」2)「道家思想をもう少し聞きたかった」がそれである。もっとも、2)の意見には「授業全体のバランスを考えれば今のままで仕方がない」の文が附載していた。私が当面考えなければならないのは1)の要望であるが、この文章の表現は留学生がよく使う言い回しであることから留学生からの要望であろうと思われる。留学生に対してはその都度理解度を確認しながら授業を進めたのであるが、やはり授業を進める上では特段の配慮が要るということか。

5 本授業の成果と今後の課題について

全体として、これまででよいであろう。ただ1と4の項目でも指摘したように留学生に対する配慮についてはよくよく考える必要があり、今後の課題として残る。以前、授業中に区切りを入れ、中国語で簡単に説明を加えたことがあるが、そのやり方の再導入も考える必要があるだろう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-----|------|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 31 日 | | |
| 授業科目名 | 代数学研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 木曜日 | 3 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 平野 康之 | 回答者数 | 12 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 7 | 2 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 7 | 2 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | 5 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | 8 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 4 | 7 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 6 | 5 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 7 | 2 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 6 | 2 | 1 | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 7 | 3 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 4 | 4 | 4 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | 3 | 4 | 1 | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | 4 | 4 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | 8 | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 8 | 4 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 5 | 6 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 9 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 9 | 1 | | | |

<分 析>

整数論について講義し、学生が積極的に参加し授業内容を理解できるように演習の時間を多く設ける授業を行った。国外（タイ、ラオス）から来た2名の学生も受講していたので、英語で書かれた教科書を用いた。また、日本の学生、国外から来た学生のために、英語と日本語の両方で説明したので、授業内容についてはある程度理解してもらえたと考える。受講生全員に理解してもらえるような教材を選び、常に受講生に問題を解かせ、受講生の理解度を確認しながら授業を進めたつもりである。しかし、授業中に受講生に発表させるなどはしなかったため、受講生が積極的に関与したことをあまり感じなかったについては反省すべきかも知れない。すべての項目で評価が概ね5、4、3に集中していることからある程度、適切な内容であったと考える。特に、「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」という項目17が5と4に集中したことから、受講者が概ね満足してくれたものと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からは、次のような意見が述べられた：

- ・ 代数学は苦手なので、不安であった。
- ・ 代数の知識を高めるため。
- ・ 数学の専門的知識の向上。
- ・ この授業により、数学的内容が理解できるようになることを期待した。

これらの意見から受講生達は代数学研究を通して、代数学の専門的知識を身に付け、苦手意識を克服することを期待したことが窺える。学生自身が時間をかけて問題を解くようにし、授業が消化不良にはならないようにした。代数を理解し、代数の知識を増やし、代数が好きになってもらえれば幸いである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からは、次のような意見が述べられた：

- ・ 現場でも使えそうな面白い話もあった。
- ・ 高等学校数学のバックグラウンドとして大変有効な内容だった。
- ・ 代数の内容がより理解できた。

講義の教材として選んだ整数論の話題が受講生の興味を引いたことは喜ばしい。学生自らが様々な教材を理解し自らのものとし、教育現場で役立つ方法を理解してもらえたとすれば幸いである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生からは、次のような意見が述べられた：

- ・ 特にありません。
- ・ この授業では問題を解くことができた。

受講生の能力、経験にあった講義をし、学生が積極的に参加できる授業になるよう改善を重ねていくつもりである。

5 本授業の成果と今後の課題について

教材として整数論を選び、丁寧に説明し、問題を解くことにより学生が積極的に参加することを促したので、この授業は概ね好評であったように思う。2名の留学生も授業に積極的に参加してくれたし、日本の学生も留学生と積極的にコミュニケーションをとってくれたことは感謝したい。受講者達の能力や個性に合わせ、実践力の育成に役立つ内容の授業になるように今後も改善していくつもりである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-----|-----|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 31 日 | | |
| 授業科目名 | 代数学演習 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 木曜日 | 4時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 平野 康之 | 回答者数 | 11 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 7 | 3 | | | | 1 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 5 | 4 | 1 | | 1 | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 5 | 4 | 2 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 7 | 4 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 6 | 5 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 6 | 4 | | | 1 | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 8 | 3 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 6 | 4 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 7 | 4 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 4 | 5 | 1 | | 1 | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 5 | 2 | 3 | | 1 | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 5 | 4 | 1 | | 1 | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 5 | 5 | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 8 | 3 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 6 | 5 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 9 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 9 | 2 | | | | |

<分 析>

研究結果を学生自身が発表し、受講者全員が、発表についての質問、コメントを述べるという授業を行った。すべての項目で評価が概ね5、4、3に集中していることからある程度、適切な内容であったと考える。国外（タイ、ラオス）から来た2名の学生も受講していたが、彼らは積極的に発表したし、また日本の学生も発表に際しては、英語と日本語を混ぜて説明するなどしたので、十分な意思疎通ができたと思われる。発表する学生は受講生全員が参加できるような教材を選んだので、受講生は主体的・積極的に取り組むことができ、理解度を確認しながら授業を進めることができた。しかし、発表は学生に任せたので、時には遊びの要素の強いものになったことについては反省すべきかも知れない。「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」という項目17が5と4に集中した事から、受講者が概ね満足してくれたものと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

まず、受講生からは、次のような意見が述べられた：

- ・ 演習が初めてで、どんな授業になるか不安だったが楽しく学習できた。
- ・ 数学の幅広い知識を得たいと考えた。
- ・ 数学の新しい知識を得ることを期待して受講した。

これらの意見から受講生達は代数学の演習を通して、新しく、幅広い知識を身に付けることを期待したことが窺える。学生自身による発表を中心に考えたため、多少専門性に欠けるところはあったかも知れないが、お互いが考えていることを理解できたと思われるので、多少でも受講者達の期待にそえていれば幸いである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からは、次のような意見が述べられた：

- ・ この授業は自らの発表を中心としており、自主的に参加する態度を育成する方法について考えさせられた。

受講生自らが、自主的に参加する態度を育成する方法について考えたことは、概ね、実践力の育成に役立ったと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生からは、次のような意見が述べられた：

- ・ この授業では、受講者全員が自らのアイデアや知識を皆の前で発表したことは、大変良かった。
- ・ 自らのテーマで発表できたので、大変良かった。

受講生自らテーマを選び発表できたことが好評であったようである。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生自らが課題を選択し、調査研究を行い、発表するという形式の授業は、授業受講者が自分の能力、個性に応じた発表ができるので、概ね好評であった。また2名の留学生も積極的に発表してくれたので、授業は活気のあるものとなった。欲を言えば、もう少し代数的専門性を持たせた発表になるようにアドバイスできれば、良かったように思う。やはり、代数的専門性を持たせた授業にすることと受講者達の能力・個性のとバランスを考えることが今後の課題であると思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|---------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 21年 2月 21日 | | |
| 授業科目名 | 幾何学研究 | 学期・曜日・時限 | 後期 火曜日 3時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 松岡 隆 | 回答者数 | 8名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | — | — | — | — | — | — |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | 2 | 2 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | 4 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法の説明は、具体的であった。 | 3 | 3 | 2 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | 3 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 5 | 2 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 4 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 7 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | — | — | — | — | — | — |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | — | — | — | — | — | — |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 6 | 2 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 4 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 6 | 2 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | 4 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 5 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | 3 | | | | |

<分 析>

各項目の評価平均値は、4.1から4.9の間に分布しており、受講生からの評価は概ね良好であると考えられる。

平均値が低かった項目（4.3以下）は、項目3、4、5、8であった。項目4については、アンケート[3]に記入された回答は、すべて授業が実践的であったことを表すものであり、特に問題点はないと思われる。項目5については、今後演習とレポートの配点の割合を示すことを考えたい。項目8に関しては受講生各自の理解の程度をより丁寧に確認し、項目3については、授業の流れをより明確に説明するようしていきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

以下の回答があった。

- ・現場で活かせるようなもの
- ・数学と日常生活との関連や、数学の内容について、もう一度じっくりと学びたいと思い、受講した。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

以下の回答があった。各回答の末尾の数字は、選択した評点を示す。

- ・もう少し理解を深めていけば、将来授業でも使えると思った。 5
- ・教材開発をする上で、教師自身が数学を楽しむ必要があり、専門性を身につける上でとても役に立つ内容であった。 5
- ・実例が多かったので、実践的でした。 4
- ・大変わかりやすく興味を引かれる教材であり、数学的にも深みのあるものだった。 4
- ・折り紙を使ったものはわかりやすく、おもしろいので、生徒の興味関心をひけるものだったから。 4
- ・中学・高等学校の授業はドリル的で単調なので、本授業の内容はとても利用できそうだった。 3

いずれの回答も、講義内容が実際の授業で有効なものであることや、教材開発のための専門性が得られることなどを示しており、実践力の育成に役立つものと評価されたと考える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

以下の回答があった。

- ・今回のように幾何学の楽しさや、専門性を身につける内容の授業を続けていただければと思う。
- ・実際に見て学ぶ感じだったのでおもしろかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の主な目的は、折り紙やモアレ模様など、身の回りに潜む数学の実例を紹介することにより、数学に関する視野を広げ、数学という学問のもつ意義・有用性を理解してもらうことであったが、ここ数年の改善により目的はかなり達成されていると感じる。より高い目標は、受講性が自らの力で身の回りに数学が現れている現象を発見・分析し、教材化できるような力を身に付けることである。困難な課題であるが、このような力の育成に資する方法を今後考えていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|------------------|-----------------|--|--|
| | 評価実施日 | 平成 21 年 2 月 27 日 | | | |
| 授業科目名 | 解析学研究 | 学期・曜日・時限 | 後 期 金 曜 日 4 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 成川 公昭 | 回答者数 | 3 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | — | — | — | — | — | — |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

<分 析>

受講生が3人だけであったため、統計的には意味がないものではあるが、ほとんどの項目で、5の評価がつけられており満足できる講義であったと思われる。少人数であったため、学生の理解度を完全に把握して講義を進めることが可能であったし、全員が完全に理解できるように徹底することもできた。このように少人数の授業では、受講生に対し十分行き届いた配慮をすることができるが、多人数になったときにどう工夫して授業を進めるかが一つの課題である。

授業内容はあまり専門的なところには深入りせず、学校数学で現れる問題を取り上げ実際に問題にぶつかったときに自らの力でどのように工夫して解決できるか、といったところに観点を於いて授業を進めた。自ら考えることを取り入れ、そのことに重きを置いたが、そのことが好評であったように思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

記述無し

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・基礎を高める良い授業だったと思ったので。
- ・中学校や高校の内容から発展させてかんがえることができたので自分のためになった。

との記述があった。

学校数学の内容を取り上げ、それを題材にいろいろな角度からその問題を捉え直すことにより新たな発展をすることを解説した、これらの重要性が伝わったと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

・いろいろな問題をやっていくことで今までやったものを使って考えていかないとできなかつたりして，一つのつながりを感じながら授業を受けることができました。

との記述があった。

学校数学に於いても，大学あるいは大学院で学ぶ数学と深いつながりがあり，その根底にはしっかりとした基盤があることが十分に伝わったと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

記述無し

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 28 日 | | |
| 授業科目名 | エネルギー・物質と環境特論 | 学期・曜日・時限 | 前 期 月 曜日 2 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 栗田 高明 | 回答者数 | 3 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 3 | | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 3 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 3 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | | | | | |

<分 析>

本年度は、留学生1名を含む3名が受講した。そのため講義に関しては主として日本語で行い、その後適宜、要旨について英語を用いて説明した。ほぼすべての項目において、高評価を得た。エネルギー問題は近年喫緊の課題であるため、はじめに「エネルギー」概念、エネルギー利用の移り変わり、これからのエネルギー問題等、順を追って講義を重ねた。また講義の合間には、太陽エネルギー利用による簡単な実験・観察を行った。加えて原子力・放射線の理解のための教材を用いて、放射線を観察した。以上のように、授業構成を、学問的基礎、日常での具体例、簡単な実験・観察等を幅広く構成したため、高評価を得たと考えている。次年度も、統計データの更新等を含め、改良に務めたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「エネルギー、放射線に関係する基礎的知識を得たい。」「出身国の生徒に教えることができるエネルギーに関するトピックスを習いたい。」といった意見があった。これらの意見に答えられる授業にしたと考えている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「実験を通して科学（エネルギー）を知る工夫を教わったから。」「新しい内容より、なぜ、どうして、を解決できたから。」「教師としての実践的で役立つ内容を勉強したから。」といった意見があった。生徒がみずから考えて行える実験を主に行ったので、原理から工夫する点に関して理解してもらったと考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

簡単な実験を取り入れたことが、内容を理解する上で重要であるという指摘があった。また受講人数の増加を求むという意見があった。これは新カリキュラムになり、選択科目の自由度が著しく落ちたことも原因と考えられる。大学院の授業は、自由選択科目が多いから良いのであって、課題研究以外の必修科目を設定することは極めて合理性に欠けるし、自由度もない。早期のカリキュラム改正を願う。加えて、英語を用いて授業を行った点も評価された。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業構成および内容は、質問回答の分析から高評価が得られたので次年度以降も続けて行いたい。また授業で配布する資料は、年度を追う毎に古くなるため、適宜更新したい。実験・観察は時間を見つけて改良を行いたいし、それを授業に活かしていきたい。留学生の受講者も続けて見込まれるので、講義内容だけでなく、資料等の英語版もできれば用意していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | |
|-------|--|----------------------|
| | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 25日 |
| 授業科目名 | 電磁気学特論 | 学期・曜日・時限 前期 金曜日 3 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | |
| 担当教員名 | 松川徳雄 | 回答者数 2名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 1 | | 1 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | | | | | |

<分 析>

当初留学生1名だけの予定で、事前に受講予定者に受講目的と希望を詳しく聞いて講義（ゼミナール）予定を準備していたところに、是非受講したいという高校理科の現職教師院生の依頼があった。予定内容の内容と目的を詳しく説明したところ、是非ゼミに参加するだけで良いというので受講を認めた。

兩人ともゼミの目的・限界を了解しているはずであったが、異なった問題意識を持つ受講生を満足させるのは苦勞を要する。

特定個人の期待にそえる指導展開しても一方では決まり切った話として退屈させてしまう。その旨を説明して始め、授業内容に関して毎回質疑応答、自由な討論で問題点を提起してそれに応じて講義内容も適時変えて話しをすすめた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

留学生は母国の理科教育の現状に不満を感じて、初心者教育のレベルアップの方策を求めているようであったが、何が不足なのか具体的に指摘出来ない様子であった。

一方の現職高校教師の院生は大学で電子工学を履修しているが、高校の下位レベルの生徒を指導する参考としたいようであった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

アンケート [2] の分析結果から伺えるように、この期待に沿えるように講義は授業（ゼミ）内容を意識的に重点を変えて話を進めた。少なくともこの点は理解してもらえたと思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

留学生、現職教師院生両者の希望を満たすような内容であったと思う。指導法については万国共通の話題となるようにおもわれる、物理初学生が直面する難点について重点に置き説明した。日本でも高校生がどこに抵抗を感じるかなどに話を広げたのが良かったと思われる。

ただし、留学生と日本人混在授業体制にはまだ十分な対応がなされていないと思う。それぞれに教育歴、国情に違いが大きい留学生を対象とするとき、今のところ本学では対応が難しいと思わざるをえない。留学生でも履修歴、教育体制などが大きく異なり、授業に当たっては受講希望者各自の希望を事前に細かく聞き取るようにするのがよい。特に小人数クラスでは不可欠と思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

事前に受講希望の目的・希望の殿聞き取りをして授業方法の説明を丁寧にしておいたのが良かったと思う。一方現職教師院生には初歩物理で教えること背景にあることを、大学レベルでは何のためにどう考えるか背景について説明したのも良かったと自負している。

受講生が小人数であることと、各人が全く違った履修歴、経歴、目的を持っている場合、単にシラバスの充実で済ませる訳にはいかない。授業内容について、事前の希望聞き取り調査に基づいた予定内容を説明しておくのが必要であろう。

大学院レベルできわめて小人数で親密なディスカッションをすすめると正直な評価はし難くなり、この種の調査は形式的無意味である。実際の授業で質疑応答を繰り返すことで、教師は正当な評価が感じられるはずである。

一方、大学院レベルでの少人数のゼミナール形式では親密度が増し、ますます正当な評価がし難くなるようである。

評価4ではかろうじてOK、評価3では不満と解釈すべき結果であろう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-----|------|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 23 日 | | |
| 授業科目名 | 物性物理学特論 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 水曜日 | 1 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 本田 亮 | 回答者数 | 1 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 1 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 1 | | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 1 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の活用は適切であった。 | | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 1 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 1 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 1 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 1 | | | | | |

<分 析>

留学生一人が受講生の全てであったため、個人的な対応はうまくできた。受講者の既得知識を確認しながら、また、受講者の希望を入れながら、授業内容が決められその説明が行われた。しかし、そのために授業本来が受け持つべき内容を十分に述べることはできず、その前段階の物理を説明することが多くあった。“院生と教育課程とのミスマッチング”というこの種の問題は、今のシステムでは今後も続くであろう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析>

受講生は「物性物理が重要な物理学の分野である」と認識して、この授業を受講したようだ。彼は「この分野の概念理解は物理学を理解するうえにも欠かせない。」と判断しており、帰国後の自国での教育スキルにも役立つと述べている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析>

「物理に対する多様な知識を得ることができ、実際に物理学を教えるための糧になった。」と受講者は述べている。授業担当者は「知識の記述だけにとどまらず、自然現象を説明するためにはいろいろな事項を理解し論理を展開していくその過程」を意識して授業を行ったつもりである。受講者はこの活動に対して、かなり苦勞したようであったが、前向きに取り組んでいた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的に書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

この授業は英語のテキストと英語の議論とで構成された。受講者は正直にも「日本語で勉強することは困難である」と述べており、使用言語が英語であったことが理解への大きな手助けになった。

5 本授業の成果と今後の課題について

過去にも記載したことであるが、今まで受講生の物理に関する既得知識を考慮し、その年度毎に授業内容を柔軟に変えてきた。匾い文句と授業内容とが合わないことを承知で、今後も同様な方法をとることが必要であろう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|--|------------------|--------|-----|
| | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 28 日 | | |
| 授業科目名 | 地球惑星物質学特論 | 学期・曜日・時限 | 前期 月曜日 | 3時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | 西村 宏, 村田 守, 香西 武 | | 回答者数 | 2 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 1 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | | 2 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | | 2 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 1 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | | 1 | 1 | | | |

<分 析> 受講者数2人の授業であり、統計的な処理にはまったく意味はないので、全設問に対する平均値を算出することはせず、評価された点について、次回以降の授業に関して注意すべき点などをかいつまんで述べる。ただ、設問17の1項目で3の評価が見られる以外はすべて4以上となっているので、全体的にはほぼ授業の目的を達することができているものと思われる。

授業はやや一貫性が欠けているように感じているものと判断できるが、物質の基礎をなしている原子や元素の話を導入として、それが宇宙とりわけ星の内部でどのようにして原子核として存在するようになったかという内容につなぎ、途中で歴史的背景をもちこむという講義の構造化を図ってはいるが、詳細に話を進めた場合には15時間では完結できないため、大学時代に既に受講していると思われる部分などは詳細な話を避けていることが飛躍と感じられるのかも知れない。また、授業はパワーポイント提示主体で講義を進め、一区切りごとに既に話した部分の資料を印刷物として配付しているが、これも、その時間ごとの理解を遅らせる原因となっているのかもしれない。資料を授業前に配付するか授業後に配付するかは、実際の授業中に話に熱中できるか否かに関係すると思われるので、今後検討はするが、受講後にその資料を配付する授業のやり方は維持したい。

授業は満足できるものであったかどうかに関しては、相対的に高評価とはなっていないが、この科目は選択科目であるので、途中で満足できない授業であると感じるようになれば、無理矢理受講を続ける必要はなく、受講を取りやめ、その内容について自分が役立つと思う専門的な書物を選んで情報を得るようにすればよい。学部の授業ならともかく、大学院の授業については手取り足取りの内容はあり得ないと考えてほしいものである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析>

受講者が2人であるので、まず、学生の提出した用紙に書かれた内容を、そのまま記載する。

※地学分野が苦手であったので知識を増やすため

※地学分野の知識を得るため

確かに、地学分野に関する内容は、高等学校時代から大学に至るまで、個人的興味を持って自学自習をしない限りは、ほとんど系統的な授業が展開されていないという現状がある。さらに、内容的な面で、教科として理科に分類されているが、その実、物理・化学・生物等の分野の理解の上に成り立つ総合科学の側面を有する。この点で、大学学部時代にはほとんどの学生がいわゆる総合科学である地学関連分野の授業を選択する機会がないのが一般的となっている。特に本授業「地球惑星物質学特論」は、一般的な認識で言う「地学」とは少々ずれていて、もう少し精密にいうとすれば宇宙物理学・地球物理学の内容に言及する内容となっているので、受講者にとっては少し期待はずれだったかもしれない。ただ、普通に言う「地学」的な内容の科目については、学部授業の「地学Ⅰ」「地学Ⅱ」「地学Ⅲ」および大学院授業の「地球科学特論Ⅰ」および「同Ⅱ」において十分な基礎的内容を含む授業が行われているので、それらの授業と同一の内容を避けることも念頭においた授業構成としているため、いわゆる「地学」からは少々離れたように感じられたのかもしれない。今後、理科地学教室の教員とも相談しつつ、授業の方向性についてやや調整を図ることを試みるつもりである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析>

受講生によって指摘されている点を列記する。

※授業内での話は、日常のものに関連づけを行うような説明で科学的思考を促す方法も分かったから

※中学校理科の授業で利用できる内容であったため

受講者2人のうち1人は「5」、1人は「4」という評価を与えている。

これを見ると、授業の構造と内容は比較的意図したとおりに受け取られているものと判断できる。敢えて言うとすれば、実践力とは何かということについて、教科専門的な立場で検討し、もう少し、私が総合コースで行っている「環境分野」の講義との関連性を追及してみたい。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生2人による意見は記入されていなかった。

したがって、これに対する私の考え方などは記載できない。

今後も、もちろん授業改善はするが、ほぼ今までどおりの筋書きを続けた授業としていくつもりである。

5 本授業の成果と今後の課題について

いつも受講生には言っていたことなのだが、大学院での授業は、既に学部で基礎的な内容を習得しているという前提のもとに、その構造を考え指導案を構築している。したがって、少なくとも高等学校程度の基礎は学習できている、或いは自学自習で納得していることが本授業を受講する際には必要であった。しかし、大学院の中にいわゆる長期履修制度が導入されたことが引き金になり、宇宙地球科学にほとんど接していなかった院生も見られる事態となったので、今後本授業構築に際して注意すべき点として心にとどめ、準備作業をすることとしたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|--|---------------|--------|-----|
| | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 31日 | | |
| 授業科目名 | 地球科学特論Ⅱ | 学期・曜日・時限 | 前期 木曜日 | 5時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ○4. 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | ○村田 守, 香西 武, 西村 宏 | 回答者数 | 4名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 3 | | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | | | | 4 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | | | | | | 4 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 4 | | | | | |

<分 析>

受講5名中アンケート回答者4名は、全て専門職学位課程の院生であった。本講義は、従来から理科コース以外のコースの院生の受講が多かった。彼等は自然科学の研究の仕方、論理の組み立て方に興味を抱き、修士課題研究にその方法論を適用したいと刺激を受けていた。ところが、同じ現職教員であっても、専門職学位課程の院生は、講義の底流にある科学的思考には興味がなく、表面上の知識のみを求める座学研修を期待しているようだ。今後は、修士課程と専門職学位課程の2本立ての講義が必要であろう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- 中学校理科の地学分野で扱う内容なので、特に興味があった。
- プレートテクトニクス説について詳しく知りたいと思って受講した。
- 理科教師なので、知識を深めようと思い受講した。
- 最新の地震についての理論やプレートテクトニクスの理論を知りたいと思ったので。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- 自分の教材解釈力の向上に役立った。
- 小学校教員であるので、内容が直接役立つということはないが、専門的な知識をもって指導することができる。
- 理科教師として教養の素地を深めるのに役立った。
- 教科書では分からない部分もたくさん教えていただいたので、より教科内容を適切に教えられる。教師の教材に対する知識をふやすことができたので。ただ、小学校では、なかなか直接教える内容はないので。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- もともと自分が興味ある内容について、自分の意志で選択した授業なので、すべてにおいて申し分ありません。
- 残念ではあるが、少人数での授業なので、ゼミを受けているような雰囲気を受講できた。

5 本授業の成果と今後の課題について

例年通り、受講生の満足する講義であった。

大学院の授業と学部の授業の違いは、学部の授業では正しいと教えたことが、大学院の授業では実は正しいものではなく、ここにこのような問題があることを指摘することにある。そのことにより、大学院生は科学の真の姿を捉えることができる。ところが、専門職学位課程の院生は、講義の底流にある科学的思考には興味がなく、表面上の知識のみを求める座学研修を期待しているようだ。これは学部の授業内容であるので、今後は、専門職学位課程の院生には学部の授業を受けさせ、大学院の単位として認定する方策を考える必要があるであろう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|-----------|-----------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 29日 | | |
| 授業科目名 | 声乐発声法 | 学期・曜日・時限 | 前 期 火 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 (4.) 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 頃安 利秀 | 回答者数 | 18名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 17 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 6 | 9 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 17 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 15 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 13 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 14 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 12 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 16 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 10 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 6 | 7 | 2 | 0 | 0 | 3 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 16 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 12 | 4 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 16 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 17 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | プレゼンテーションは見やすかった。 | 13 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 17 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 18 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

<分 析>評価項目1（授業計画）、同3（授業内容）ともに平均値4.94と高い評価を受けており、授業の中身については問題なしと認められる。授業方法に関しては、項目10（教科書、参考書の使用）に関して平均値3.56となっているが、もともと教科書は使っておらず、参考書も紹介をただけで、授業の中では使っていないため、未記入の受講生がいたためと思われる。項目13（授業の説明）、同14（声の聞き取りやすさ）は平均値4.89と4.94とやはり高い評価が出ている。項目17（授業に対する満足度）では、全員が評価点5をつけていることにより、この授業が成功したことを認めることができる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析> 「発声方法を学んで自分がうまく歌えるようになりたい」、「発声のしくみや体のことについて、より深く知りたい」と考えて受講した場合が最も多い。その次に「小学生や中学生への発声指導や合唱指導を学びたい」という人も何人かいた。

教師として子どもへの発声指導を考える前に、まず自分自身が正しく自然な発声ができることを求めるのは当然のことと考えられる。その点においても、この授業が満足のいくものであったことは、項目17の結果からも推測される。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析> 「自然で無理のない歌い方を子どもたちに教える必要があると感じた」、「このような発声法を使うともっともっと表現力豊かな子どもたちが増えると思った」、「実際に身体を動かして体操したりすることで、子どもへの指導の道筋を習うことができた」、「指導する際に教師が身に付けておくと望ましい内容が学べた」、「余分な力を抜いて、自分の状態を知ることは、すべての教育活動につながると考えられる」等々の意見があった。項目4の評価平均値は4.83と高く、授業の内容が教師の実践力の育成に十分役立つものであったと考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析> 「楽しく取り組み自分の能力向上にもつながった」、「きめ細やかに指導していただけて感謝しています」、「少人数での練習があったので良かった」、「基礎を学び実践に生かすことで自分の中により一層入ってきたと思う」という意見のほかに、「個別指導をしていただけるとうれしいです」、「もう少し歌いたかったです」という意見もあった。

声楽実技は本来個別に行うことが望ましいが、受講生の数と時間を考えるとなかなか十分にはできないのが現状である。しかし今回も行ったが、少人数のグループに分け、できるだけ個人々々の声を聴きながら指導を行うことにより、そのあたりを補うことにしている。

5 本授業の成果と今後の課題について

このアンケートでは、全体の平均値が4.75あり、とくに項目17（学生の満足度）では「5」という評価が出ており、この授業が十分な成果を得られたものと考えている。

今後の課題は、4にもあるように、声楽実技に関して個別指導をどこまで行うことができるか、というところにある。しかしこの授業はあくまでも講義が中心で、人間の発声についての正しい考え方やその方法について学ぶことを目的にしている。その中で最低限、自分のからだで実感する必要があるもので、実際に歌ってもらうことにしている。個別にさらに歌うことを学びたい学生には、後期の授業「歌唱表現演習」において、実際に歌うことを中心に声楽を学べるようにしている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | |
|-------|---|------------------------------|
| | 評 価 実 施 日 | 平成20年7月29日 |
| 授業科目名 | 音楽劇総合演習 | 学期・曜日・時限 前期 火曜日 5時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | |
| 担当教員名 | 草下 實 | 回答者数 9名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 7 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 6 | 2 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 9 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 7 | 2 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 6 | 2 | | | | 1 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 8 | | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 6 | 1 | 2 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 7 | 1 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 9 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 5 | | 4 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 7 | 1 | 1 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 7 | 1 | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 8 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 7 | 1 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 6 | 2 | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 7 | 2 | | | | |

<分 析>

授業評価結果から、授業の趣旨を履修者が良く理解し、授業準備、授業内容、授業展開、学生の授業への積極的参加を促すなど総合的に良い評価を得ている。設問10「教科書や参考書の使用は適切であった」に関しては、「全くそう思う」が5、「どちらともいえない」が4と評価が分かれているが、当該授業では参考図書を掲げているが、教科書は使用していない。授業にあたっては授業概要資料（基礎演技・基礎舞踏等）、音楽劇オリジナル作品脚本及びオリジナル音楽作品の三分冊を配布し、授業を展開している。その点は設問12の評価からも適切な対応をしていると判断できる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

この設問に係る学生からの受講事由を以下に掲げる。(マ)

- 音楽劇（ミュージカル・演劇・オペラ等）に興味がある、または体験してみたかった。
- 表現力及びことばの伝え方を学びたかった。
- 劇だけではなく、音楽をどのように劇に取り入れ完成へと導くかを知りたかった。
- 協力して作品を創りあげる過程を学びたかったから。
- 表現力の育成についてとても興味があり、劇活動が面白そうだったから。
- 学校現場で音楽表現力を児童に育成する方法を学びたかった。

上に掲げたこの授業に対する問題意識や期待は、音楽劇に対する個人的興味や体験、表現力に係る自己の育成及び方法、音楽劇想像のプロセス、学校現場における音楽表現育成法等の課題意識や期待を以て、受講していることが理解できる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この設問に係る学生からの意見を以下に掲げる。(マ)

- 歌唱・セリフなど、分かり易く教えていただき、とても役立ちました。
- 小学校で子どもたちに返していけるものをたくさん頂いた。また、歌・劇以外でも、ちょっとした仕草、声の調子等、先生がやってみせてくださったこと、評価してくださったこと、とても有り難かった。
- 本格的に実践することがパーフェクトと思いました。
- 自分の表現力を育てるためには良かった。
- 声の出し方、抑揚、体の使い方、すべてが現場で役立つものでした。
- 度胸、協力、努力
- 児童に指導する上でも自分が体験した上で伝えることは意味がある。

教師の実践力の育成に当該授業が役立っている点は、歌唱や演技の技能的側面、表現法的側面、教育指導法においても役だっていると判断できる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この設問に係る学生からの意見を以下に掲げる。(マ)

- 最高でした。改善点なし。
- 通年の授業にして欲しい。半年では短すぎる。
- セリフが難しかった。長い芝居であるが、大人向き、品格のある内容であった。
- 大変すばらしい経験をさせていただいた。
- とても達成感の得られる授業でした。楽しかったです。
- 120点、本当に草下先生に出会えてよかった。人生のキラリと輝く一瞬と出会えました。
- 受講した中で、一番楽しい授業であった。心も体も開放された。
- とても充実した時間でした。丁寧には指導いただき、ありがとうございました。大変、勉強になりました。

履修学生の当該授業の評価は、上掲した意見を集約すれば、極めて充実し、満足するものと判断できる。今回の授業評価では授業の改善点はみられない。

5 本授業の成果と今後の課題について

当該授業の評価結果から、学生の授業に係る個々の期待や教師の実践力を育成する内容、学生の授業への取り組み等、オリジナル音楽劇作品の創造過程での多様な実践知の獲得がなされ、協働して創られる音楽劇総合演習を芸術的創造活動と発表会における美的表現への達成感を履修生が体現したことは、大きな成果といえる。

今後の課題としては授業で扱う音楽劇作品を更に高いレベルのものとして創作すること、また、授業の展開に関しては、より緻密で分かり易いものとする、歌唱や演技に関わる基本的技能指導のあり方について、更に工夫、改善する必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|-------|---|-----------|----------------|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 24 日 |
| 授業科目名 | ピアノ演奏基礎演習 | 学期・曜日・時限 | 前期 木曜日 2時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 村澤 由利子、森 正 | 回答者数 | 7 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 2 | 1 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | 1 | 2 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | 3 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 6 | | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 4 | 2 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 3 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | 3 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | 3 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | | 3 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 5 | | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 2 | 2 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | 2 | | | | |

<分 析>

概ね受講した学生から評価された授業であると考えるが、修了演奏試験の準備として受講した学生もいれば、教育現場において少しでも役に立つピアノの演奏方法を身につけることを目的に受講した学生、教員採用試験の対策のために受講した学生、このような受講生の立場の違いから多少の評価のばらつきがあったと思われる。設問9の授業への参加状況を問う設問では「どちらともいえない」と答えた受講生が約半数の3名いたが、実技指導における授業への参加の実態を理解していない受講生がいたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分 析>

学校現場でも役に立つ基礎技能を習得する、または以前に学習した内容を基礎から再確認し、より高い技術を習得することを期待するなど、多様な受講生が多かったが、いずれもピアノと自分との関係を考え直す機会としたかったようである。その点では個人レッスンやグループ・レッスンが中心となるので、各受講生の状況に応じた授業を行うことができた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分 析>

いずれの受講生も、教育現場で必要とされるピアノの演奏技術や楽器に対する知識等を高めることを希望して受講していた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

演奏技術や表現技術を高めるために、受講生の演奏に対する指導が授業の中心になるのは当然のことであるが、自らが指導する立場になったときにどのようにしたら良いのか、指導者としてどのようなことが必要になるのかについても授業で取り上げることが希望した受講生がいた。この点については、今後検討し、このような受講生の要望に応えられるようにしたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

個人の状況に応じた指導が高く評価された授業であった。修了演奏試験の準備として受講した学生もいれば、教員採用試験を目指して受講した学生もいたが、いずれも、これまで受けて来たピアノの実技指導や、ピアノと自分との関係を見直すことを希望していた。そのためにも、まずはピアノをきちんと弾く、ということから考えさせることにし、これは教員試験を目指した今後の学習に通じるものであると思う。

学生ひとりひとりの日頃の練習が、授業を進める際には非常に重要な要点となるので、今後はこのような状況も踏まえて授業を計画、実行する必要があると考える。また授業概要の段階でも、その点を考慮した記述を行いたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|---------------------------------------|------------------|---------------|--|
| | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 28 日 | | |
| 授業科目名 | 指揮法基礎演習 | 学期・曜日・時限 | 前 期 月 曜日 2 時限 | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | 小田 啓明 | 回答者数 | 0 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 2 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 3 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | | 1 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | | | | | |

<分析>

授業そのものが好評だったと考える。シラバスの書き方を今後工夫したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

指揮の実践的力を身につけたいというモチベーションの高さがわかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

全員がアンケート [1] で 5 をつけてくれたこともあり、実践力を身につけたいという学生の希望が込められていると思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

今年は予想外に少から3人という軽受請者数だったため、ピアノを弾く際の何となく負担が大きくなったところがあった。

5 本授業の成果と今後の課題について

例年、多数の受講生がおりた。今年何故このように受講者数が少なかったのか。その理由がいろいろある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|--------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 21年 2月 5日 | | |
| 授業科目名 | 油画制作演習 | 学期・曜日・時限 | 後期 木曜日 5時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 鈴木久人 | 回答者数 | 10名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 10 | | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 5 | 1 | 3 | 1 | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 7 | 2 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 3 | 2 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 7 | 3 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 8 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 9 | | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 7 | 3 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | 5 | 2 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | - | - | - | - | - | - |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 9 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 10 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 5 | 2 | 1 | | | 2 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 6 | 2 | | 2 | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 3 | 1 | | | |

<分 析>

概ね、好意的評価と言える。評価項目は2と15については本授業は制作研究に対しての個別指導や討議を中心としたもので教科書はなく、板書も少なかった結果と思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ もっと実験的にする。
- ・ 今までしたことがないことがしたかった。
- ・ 油絵が好きだったので。
- ・ 絵が描きたい。
- ・ 制作している自身の技術向上を目指して。
- ・ 美術について今までほとんど指導を受けたことがなかったので、自分が気付かなかった点や基礎を学ぶため。
- ・ 絵の心、楽しさ。
- ・ 新しい発見、自分が何がしたいのか。
- ・ 新しいことをしようとして。
- ・ 普段やらないことをやってみようと思った。

(以上はすべての記述内容を原文のまま記載)

例年言えることであるが、普段とは違う描画材による絵画制作や技法体験を受講目的にあげている。また絵画制作自体を動機としている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 専門でない人にとっては美術の基礎的な技術に関して学べる機会だったのでと感じて。
- ・ 美術以外の人も参加したので、とても参考になりました。
- ・ 絵の心がわかった気がする。
- ・ 学生の熱意に応じて熱心に指導してくださった先生の姿勢。
- ・ 指摘されたことがためになった。
- ・ 私は将来、保育さんをめざしているので、絵画の授業を通して絵について学べたので。
- ・ 美術を教える上での知識が身に付いた。
- ・ よくわからない。
- ・ 普段と違うことをやることで、新しい考え、意識を持つことができた。

(以上はすべての記述内容を原文のまま記載)

授業を履修する動機が絵画制作であるため学生はこの質問に戸惑っている面もあるようである。授業内容の現場での展開の可能性や方法について意識して取り扱ってきたが、今後ともよりこのことについては意識して取り扱っていきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ かく時間もあったのでよかった。
- ・ 先生が熱心に指導して下さい、とても良かったです。ありがとうございます。
- ・ 人物のモデルを描きたい。
- ・ 具体的に指導して下さったので自分の技術向上に役立ちました。
- ・ 今のままで良いと思います。

(以上はすべての記述内容を原文のまま記載)

「人物のモデルを描きたい。」との記述がある。前年度は人物をモチーフとし、受講生から好意的評価を得たが、生身の人物を週一度開講する授業で扱うリスクやモデルの負担が存在することから今年度は見送った。今後、リスクやモデルの負担を軽減しながらこれを授業に取り入れる方法を模索したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の履修者は、例年、授業期間の前半は紙を支持体とした制作、後半はタブローを支持体としたものとし、履修学生にその希望などを聞き、なるべく個々の学生のニーズに応えることを基本とした。しかし、こうしたことから授業内での個々の学生の制作内容が違ったものになり過ぎ、他の学生の制作から学ぶ面が希薄になった感がある。モデルを含めてモチーフ使用等も検討し、改善したい。また今後とも引き続き本授業内容の現場での展開の可能性や方法、児童・生徒の作品の鑑賞方法や評価法についてもより学生とディスカッションなどを通して深めていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|---------------|-----|-----|
| | | 評価実施日 | 平成 20年 7月 22日 | | |
| 授業科目名 | 版画制作演習 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 月曜日 | 2時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 武市 勝 | 回答者数 | 6 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 1 | 1 | | | 1 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 5 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 4 | 1 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 5 | | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 1 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 2 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 2 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 1 | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | | 3 | | | 1 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | | 2 | | | 2 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | | 2 | | | 1 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 1 | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 5 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 3 | | | | |

<分 析> 5が受講生の半数以下の項について記す。

2 授業内容に関するテキスト・参考書は日本にはまだない。ただ、前年度までは「課題探究」に割り当てられたコマの中で版画の概要を話していたが、今年度から科目がなくなったため、概要説明をかなり簡略にしながら演習を進めた。これが一部の学生の意欲を高めなかったことも考えられる。

7 進度の差は学生によるが、出席を前提とした予定のため欠席すると進行が遅れるのは仕方がない。

8 これはそのつもりだったが、初めて体験する凹版のため、わかりにくい点はあったかもしれない。

10 この問いは消すべきだったと思われる。

11 これも「課題探究」のような講義の中では視聴覚機器を使ったが、この授業では使っていない。

12 参考作品はかなり紹介したが、資料配付は概要程度である。したがって学生には答えにくい質問だったろうと思われる。

16 かなり積極的だったと思われる学生は三名であったが、その他の学生もまじめに取り組んでいた。

17 やはり学生のモチベーションを高めることがこの答えをあげることにつながるのはわかる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分 析>

15回の演習を通じて、美術教育コース外の学生でも、教員養成を経て現場の美術教師になっているものや美術を専門としてきたものということがわかった。つまり受講生は全員が学部ではなんらかの形で美術または美術教育を専門としてきたわけである。

この問いに対する答えには、「基礎知識、技術を学ぶため」と「教育現場で役立て、自分の制作にも生かしたい」に二分された。前者は（版画をあまり学ぶ機会がなかった）美術系大学からの学生であり、後者は小中学校現場を経て現職教員となったもの、あるいは教員養成を経て院生となったものであることが推察される。

今回の場合、教材内容ともからむが、現職院生・教員養成系の院生にはかなり歓迎された内容になったようだ。課題提出と批評会にあきたらず、学内画廊で版画の個展まで開いた学生までいたし、2人ほどの院生からは「修論そっちのけではまってしまいました」という言葉も聞いた。

これに比べると、美術系大学から来た院生には、やや受け身的になり、自分の制作ベースを最後までつかみにくそうでもあった。現職院生に振り回されたきらいもなくはないが、モチベーションを上げることを考えるとすれば、授業のシフトを「教材研究とは限らない」ことをもう少し理解させる必要があったかもしれない。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分 析>

「素材の持つ特性を生かした表現とそれらを生かすための技法を学ぶことができた」、「いくつかの技法は自分にとって初めてのもので、これまでの版画のイメージをがらりと変えることができ、いくつかの試みもすることができた。子どもへの指導に活用していきたいし、何より自分自身の制作意欲を高めることができた。」等の書き込みが見られた。

教師の実践力の育成をどうとらえるかについては、教材研究や模擬授業からのアプローチもあるが、領域専門としてのあり方を考えれば、即現場で使える内容や技術よりも専門内容体験を味わわせることに意味があることと考えた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

「最後に『納涼版画展』を開催し、多くの学友に見ていただくことができた。児童生徒の作品を最後まで大切に次への制作欲求意欲を育てるようにしていきたい。」「受講生の積極性を先生がきちんと受けとめてくれた点が良かったです。」など。

以前にもあった「プレス機をもう一台ほしい」があったが、6名程度の受講生では一台で適当と感じている。さらに、「他の授業での受講生の後片づけや制作中の態度があまり良くなく、その点が残念」というのもあった。

5 本授業の成果と今後の課題について

題材選択について

コラグラフと木版凹版という二種の題材による作品制作を数年にわたって続けている。

基本的にこの二種の題材を変える必要は感じられない。今年度の場合の受講生は、とくに小学校担当の現職教員と、美術系大学よりの現役院生が同居した授業だったため、少しのとまどいはあったが、

- ・ 従来行っていた課題探究の講義内容を本演習の最初に組み入れて、意欲を高めさせる
- ・ コラグラフの凸版刷り、紙による凹版の水溶性顔料刷りなどを組み入れて、小学校現場でも活用可能なものを示唆する
- ・ 必ずしも教材研究にシフトした内容ではなく、かつまた作家育成のそれでもないことを学生に周知させる

等のことによって解決できるものと考えられた。

ただ、今回あらためて考えさせられたのは、未知の制作体験に対する学生のモチベーションの相違である。

どのような学生も、「うまくいきそうだ」と感じれば、他のことを犠牲にして時間を割き、作品作りに没頭する。これは美術という教科の特徴であろうが、全員がそう感じられることはまず無いと言っていい。かなりうまく運んだ授業でも、「内容に乗ろうとしてうまくいかない→自分にはこの題材は向いていないのではと思う→やる気が少なくなっていく」学生は必ずいると思われる。

学生にモチベーションを持たせるためには、教師が学生のやろうとする内容を理解し、その延長にある可能性に教師自身がのめり込む必要があるのではないかと考える。学生の作るオリジナリティを発見し、評価してやることで、それは確かなものになっていくと思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|---|------------------|--------------|--|
| | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 28 日 | | |
| 授業科目名 | 塑造制作演習 | 学期・曜日・時限 | 前 期 月 曜日 3時限 | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | 長 岡 強 | 回答者数 | 7 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 5 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 6 | | | | 1 | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 7 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 4 | 2 | | | 1 | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 7 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 6 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 7 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 7 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 7 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 5 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 1 | | | | |

<分 析>

本授業は実技制作の授業のため、講義形式の授業に関する調査項目は削除した。（調査項目 9, 10, 11, 15）

本授業は、わずか5名の受講生のため十分なコミュニケーションが取れ、指導も徹底したためか授業に関して概ね肯定的な評価が多かった。

7名の内3名が、本来は学部時代に体験しなければならない人体彫刻を履修していなくて、本授業が全く初めてということで指導の面では大変苦慮した。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生は7名なので、全ての回答を列記すると以下の通りである。

- ・FRPという自分自身にとって未知の素材を使用するという授業において、どのような形で具体的に理解のし易い教え方をして戴けるのだろうかと注目していた。期待を非常に良い意味で裏切られるほど、理解のし易い内容としていただけた。
- ・塑造を作るのは初めてだったので、この授業を経験できて良かった。
- ・FRPを使った技法についても学べたので良かった。
- ・塑造の技術を学びたい。
- ・彫塑は児童の自己実現の課題を造形的に三次元に解決できるし、心身全力で完結できる芸術性を持っている。
- ・ダイナミックに表現する喜びが存在する。こうした喜びを児童生徒と共に味わいたいと思う。
- ・人間の形について狂いがないよう意識し、その意識に自分のタッチが乱されぬように心がけた。
- ・人体の美についての研究

受講生は、塑造の基礎的な技術を習得することを目的としている。本来あるべきはずの彫刻の本質や立体感覚にまで問題意識高まることが理想的だ。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生は7名なので、全ての回答を列記すると以下の通りである。

- ・生徒に対して未知の素材を使用する際、その危険性、特徴等に関して、どのように授業中に説明すればよいのか等、非常に為になったと感じた。
- ・技法についての説明や人体のとらえ方など分かりやすく教えてもらったので良かった。
- ・授業に使う材料や道具の準備も仕事がスムーズに行えるようになって良かった。
- ・役に立つだろう。
- ・かなり専門性の知識を必要とすると同時に技能面も先生ならではの教授法で楽しく取り組める工夫があった。
- ・人間の形、人間は自分たちの形を曖昧に見ていることを教わり、人間の形の見方という点で実践に役立つと思った。
- ・人体の美は地球の美、宇宙の美に通ずる。

この授業は、きわめて専門性の高い人体彫刻の授業である。そのため教育現場では扱いにくい内容となっている。

この授業においては、教師の実践力とは直接繋がりにくい面はあるのだけれども、人体彫刻を通して立体造形に必要な知識や技術を習得させたいと考えている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生は4名なので、全ての回答を列記すると以下の通りである。

- ・自らの制作に手助けがあったことで、本来よりも良い物が完成したように思う。達成感と共に、次にまた更に発展したものに挑戦したいという意欲をかき立てられたように思う。
- ・とても楽しく取り組めた。
- ・教師を志す人に、広く体験する機会があればと思う。
- ・時間、やはり、もう少し時間があれば良いと思った。

受講生から授業改善についての具体的な要望や提案はなかった。
過重な制作を強いるけれども、仕方がないことかと思っている。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では、粘土による原型の制作を終えても、型どり作業やFRPによる成型作業など多岐にわたる制作過程が待っている。

従って、とうてい授業時間だけでは作品は完成しない。

例年のことではあるが、制作時間は、授業時間以外に授業時間の倍以上に及ぶ。受講生には強い根気と体力を必要とする。本授業の受講生7名のうち3名は、初めて人体具象彫刻を経験することもあって想像以上にきつい授業であったようだ。

本授業では、単に彫刻作品が完成したという喜びを得るだけでなく、図画工作・美術教育の根幹となるべき新鮮な感動、創造の喜び、作品に対する情熱や心情、仕事への責任など多くのことを学ばせることをねらいとしている。

この授業では、強靱な精神力と体力を必要とする。本授業において、授業のねらいは十分達成出来たように思っている。

今後においても、意欲的に取り組んでくれる受講生に期待を寄せながら塑造分野の充実した授業として展開していきたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|-------|--|-----------|---------------|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 25日 |
| 授業科目名 | 石彫制作演習 | 学期・曜日・時限 | 前期 金曜日 2時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 野 崎 窮 | 回答者数 | 4 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | — | — | — | — | — | — |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 3 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | — | — | — | — | — | — |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | — | — | — | — | — | — |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 1 | | | | 1 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 4 | | | | | |

<分 析>

上記の結果は、この授業においてかってないほど良い評価になっている。その主な理由をあげるならば、ここ数年10人前後の受講生により授業を行ってきたが、きめ細かく指導するには力量不足のため人数的に難しい面があった。実技指導はマンツーマンが基本であり、その意味で今回、4人の受講生ということで個別指導に余裕ができ、個々に十分な指導ができたからと考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

石彫制作、特に素材である大理石に興味をもって授業に臨んだとの回答があった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

具体的に電動工具の使い方やその留意点を指導したことに対して役だったとの回答や教材研究として直接的ではないが、基層的に役に立つとの回答を得た。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

かって制作時間の不足、つまり課題の軽減がこの授業の問題であった。それは受講生の多くがそれをアンケートに回答していたからである。本年はまだ残念ながら一人の院生がこれを回答したが、担当教員としてはこれ以上、課題におけるボリューム（石材の種類、その大きさ、彫刻工具等に関すること）を減じることは考えていない。他の院生がこの程度の課題で十分に良い成果を出していることと、魅力ある課題としてこれが限界と考えるからである。

5 本授業の成果と今後の課題について

ものづくりの大切さや教育的意義をとらえる教育関係者が多い中で実際の教育現場は、その醍醐味を感じさせる教材が少ないように思う。石彫は平面的な制作に比べ、制作に対する覚悟、つまり強い意志と体力を要求する。その意味で受講生は石彫の授業を通して、美術・図画工作における立体表現の魅力と特性に、このような観点から気づいてくれたと思う。

今後の課題は、受講生が10人以上になった場合でも本年のような結果をだせるよう、授業方法を工夫することである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|------------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 7 月 31 日 | | |
| 授業科目名 | 視覚デザイン演習 | 学期・曜日・時限 | 前 期 木 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 松島 正矩 | 回答者数 | 9 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 4 | 1 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | - | - | - | - | - | - |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 7 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 1 | 3 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 6 | 1 | 2 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | 3 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 5 | 3 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 6 | 2 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 1 | 2 | 2 | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 7 | 2 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | 4 | 2 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | 3 | 3 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | 2 | 3 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | 3 | 3 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 7 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 2 | 1 | | | |

<分 析>

この授業は、マルチメディア教育実習室のコンピュータを利用して行っている。美術コースの学生が9名、他コースの学生が3名の計12名であった。出席率は平均85%から90%くらいで、例年どおりの水準であった。残念なことであるが、欠席しがちな1名が途中で脱落してしまった。

今回のアンケート結果で気になるのは、9番の項目である。まるで学生の理解度を無視して一方的に授業を進めているように見られるかもしれないが、実際には随時質問を受け付け、学生の席まで足を運んで個別に対応している。授業内容、量を気にして、授業のスピードを上げ過ぎたため、このような結果になってしまったものと思われる。また、毎回積み上げていく授業内容であるため、欠席者への対応が大変難しく、きめ細かな指導に欠けてしまったのが原因と思われる。17番の項目からは、大部分の学生がこの授業に満足してくれた様子がうかがえるので、概ね良好な評価をしてもらえたと感じている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<学生の声>

- ・教材作りに役立つ技術を学ぼうと思って参加した。
- ・学校現場で制作される広報物（パンフレット、広報誌）作成に必要な基本的スキルを身につけることができたと受講した。
- ・コンピュータグラフィックの知識、技能を身につけ、図工の時間や総合的な学習の時間に、子どもたちがコンピュータを使ったグラフィックに親しんだり楽しんだりできたらよいなあという希望で受講した。

<分 析>

この授業で使用したドロー系の図形制作ソフトは、グラフィックデザインの代表的なアプリケーションであるため、初めての学生も経験ある学生も、より理解を深めようと意欲的に取り組んでくれた。デザインを学ぶというよりは、コンピュータ上で図形や文字を扱うことに興味があり、自分の関わる分野に応用できるだろうと考えて受講してきた学生も多かったように思われる。ただし、全く初めてという学生が数人いたため、コンピュータの概説からスタートし、アプリケーションの基礎的な理解と操作に多くの時間を割くことになった。より高度な応用力を期待して受講してきた学生には、少しもの足りない内容であったかもしれない。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<学生の声>

- ・コンピュータグラフィックについて様々なことを学び、自分なりに技能が向上した。ただ、ソフトが公立小学校にはないものなので、直結的には授業に役立つかどうかはわからないけれども、授業の進め方や評価の仕方、指導の仕方などは、そのまま使うことができるように思う。
- ・プライズ用にシールを作ったり、学級のシンボルマークを作ったりすることができるのではないかと考えた。
- ・ドロー系のソフトを身につけると、ワープロソフトのみの時よりもかなり表現の幅が広がる。この授業では、ドロー系のツールを扱う方法を身につけることができたため。

<分 析>

利用したアプリケーションは、グラフィックデザインの代表的、専門的なアプリケーションであり、他のアプリケーションに比べると、初心者にとっては理解と操作がかなり難しいと思われる。それでも美術コース以外の学生も受講してくれたのは、教育現場でコンピュータを利用した授業が増えていることから、早くコンピュータに慣れて自由自在に扱えるようになりたいという意識が強かったためと思われる。それが自然に実践力の向上につながっていくと考えてくれていたようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<学生の声>

- ・受講者には、初めて取り組む人もいれば経験者もいる。10人前後の受講者数であれば、ある程度、進捗度で分けて課題を出してもいいのではないかと思う。
- ・いろいろな操作方法のコツを教えていただけたと思う。できれば全ての端末室の機器に、グラフィック・アプリケーションをインストールしていただけると、授業の課題や準備をする時に助かります。
- ・授業の進み具合が良かったし、教え方も良かった。できれば、テキストが欲しかったです。

<分析>

初心者がいることから、基礎的な部分に多くの時間を割き、個別の対応も行ってきたのであるが、経験者にとっては、もの足りない内容になってしまっていたかもしれないと反省している。課題のレベルを2段階設定して、学生の能力に応じて選択させることも考えてみたい。ただし、評価を公正に行わなければならない点が問題として残る。

使用しているグラフィック・アプリケーションは大変高価であり、学生の希望するままに設置することは困難であること、教室、端末室の性格に応じたアプリケーションがインストールされていることを、話題として取り上げることも必要であると感じさせられた。

テキストが欲しいという学生がいるため、数年前までは、苦勞して作成したものを配付していたのであるが、アプリケーションがバージョンアップする度に大幅な改定作業が発生してしまうため、現在は中止している。この授業は、マルチメディア教育実習室の2台のプロジェクタをフル活用して、教卓のモニタ画面を前後に投影しながら行っており、テキストに依存しないで教授できる快適な環境になっていると思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

従来は、デザインを専攻する学生だけがコンピュータを使用した制作を行うという傾向が強かったのであるが、最近では、美術の他の分野の学生も、自分の個展やグループ展を告知するポスターや案内ハガキをコンピュータで制作するようになってきている。また、他コースの学生たちも、教育現場でコンピュータを使用した授業が多くなっていることから、コンピュータの操作に習熟しようと熱意を持って受講してくるようになってきている。今後この傾向が続き、もっとコンピュータによるデザイン表現に興味をもってくれる学生が増えることを期待している。

この授業では、出席が完璧な熱意のある学生が多かった反面、出席の悪い学生も見られた。この授業は毎回の積み重ねで成り立っていて、時間的な余裕もないため、欠席者を次回にどう扱うかが大変難しい状況にある。肝心なことではできるだけ次回にもくり返して全員に理解してもらうように努めているのであるが、欠席が重なった場合には対処できなくなってしまう。この点は多くの教員が苦慮していると思われるが、なるべく欠席者にも連続性が保たれるような工夫を考えなければならないと感じている。また、グラフィック・アプリケーションの初心者と経験者が混在する状況にあって、どのように両者を満足させることができるよう授業を組み立てていけばよいのか、試行錯誤している段階にある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|-------|--|-----------|---------------|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 29日 |
| 授業科目名 | スポーツ人間学研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 火曜日 4時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 綿引勝美 | 回答者数 | 4 名 |

1 アンケート【1】の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | | 2 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | | 1 | 1 | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 1 | | | | |

<分 析>

概ね肯定的な評価といえるが、内容的に時間をかけて説明することが必要な事項とそうでない事項との峻別にこころがけることが必要である。とくに、本講義の内容がこれまでの知識や経験ではとらえることのむずかしい、新しい分野の内容であるだけに、準備的な知識学習や補助学習課題を提示するなど、理解を促進するための手だての工夫が急務である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>シラバスに紹介した内容に対応したもので、「ドイツのトレーニング科学を学びたい」というものが主であった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

トレーニング科学はおおに競技選手を育成することを狙いにするものであるが、本講義では、学校体育を意識して、そうした観点からどのような点を学ぶことができるか、という考え方にもとづいて、内容を精選した。したがって、とりわけ、発達の著しい子ども期、思春期に対応する体育指導上の問題にも、参考となったという感想がみられた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

とくに日本のトレーニング科学との違いを鮮明にするという比較の対照をはっきりさせる、という提案があった。

5 本授業の成果と今後の課題について

競技スポーツのトレーニング科学に関するドイツの研究資料を参考に講義をすすめた。ドイツにおけるトレーニング科学を体系的に紹介するために、翻訳原稿を用意した。周辺の知識を得るためには補助学習が必要であるが、この分野の日本語でよめる書籍の紹介などを事前におこなっておくこと、並びに、それについての解説などを授業の合間にさしはさむなど、前提となる知識、補助情報の提供に心がけることが必要である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 29 日 | | |
| 授業科目名 | 学校体育経営研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 火 曜 日 1 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ○4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 藤田 雅文 | 回答者数 | 4 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | 2 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | | 1 | 1 | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 1 | 2 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 3 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | 2 | | | 2 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 1 | 2 | 1 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 1 | 2 | 1 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 3 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 1 | | | | |

<分 析>

17項目の満足度の平均点は4.8で、総平均は4.2であることから、高い評価を得たと考えている。テキストを紹介したが、高価であるため購入する者がいなかったため、テキストに沿った授業は行わなかった。今年度は、現職教員が受講しなかったため、現場の生の声が聞けなくて残念であった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

講義のねらいに添った問題意識をもつ意欲的な受講生であった。具体的な回答は以下の通りである。

- 1) 現場で役立つ体育経営について知りたいと思った。
- 2) 体育経営についてもっと知りたかった。
- 3) スポーツ指導者や運動部顧問の取り組み方について知りたかった。
- 4) 体育授業や運動部活動の経営について学びたかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この項目の評価は、5が3名、3が1名であった。具体的な回答は以下の通りである。

- 1) 具体的な例があったり、必要なことが学べた。(評価5)
- 2) 他県の生徒の話も聞けて知見が広がった。(評価5)
- 3) 運動部顧問のあり方についての知識が得られて満足だった。(評価5)
- 4) 現場に行ってすぐ使える知識だと思った。(評価3)

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

4名中1名の回答があった。具体的な回答は以下の通りである。

- 1) 専門的に学ぶことができたのでよかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

本年度の受講生は，学部卒院生4名であったため，採用試験を念頭において，小・中学校の体育経営に関する講義を進めた。新学習指導要領の改訂点，年間学習指導計画の作成上の留意点，運動部活動のあり方など，学校体育現場に直結する内容を取り上げた結果が，満足度「4.8」という高い評価の要因になっていると考えている。今後もビデオ教材などを準備し，よりよい講義に改善して行きたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-----|-----|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 31 日 | | |
| 授業科目名 | スポーツ・トレーニング研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 木曜日 | 3時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 南 隆尚 | 回答者数 | 5 名 | | |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | 3 | 2 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 3 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 4 | | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 3 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | | 2 | | | 2 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | 2 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | 2 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 2 | 2 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 4 | 1 | | | | |

＜分 析＞

本授業は、受講生が5名と少人数であったことから、『（7）授業の進む速さは適切であった。』や『（9）受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。』、『（13）受講生に分かりやすく説明した。』などは高い評価得られた。『（2）授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。』や『（10）教科書や参考書の使い方は適切であった。』、『（15）板書の文字は見やすかった。』は比較的低い評価であった。これは授業大半をPCによるプレゼンテーションを中心に授業を進めたため、計画的な板書の活用が出来なかったためと考えられる。しかし場合によっては補足説明で板書を使用することもあり、もっと的確な配慮が必要であった。また『（2）授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。』の評価が低く、自学自習のためにも、より適切な文献などの紹介もしたい。

『（17）この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。』のように、全体的には概ね良好な評価であった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

全員が『スポーツトレーニングについて専門的知識の習得』を目的として掲げていた。本授業は、昨今の競技力向上に伴うトレーニング科学の最新の知見を得ようとする要望が高いと考えられた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生から下記のような感想が挙げられた。

- ・ これまで知らなかった知識を得ることが出来た。
- ・ 具体的な話があったので、理解しやすかった。
- ・ 発表なのでは、皆の理解度を見ながら発表できた。
- ・ 理論的なところが多かったが、知識としては現場で使える内容でした。
- ・ 自分が教師（コーチ等）の指導者の立場として子どもたちに教えるための知識となった。

等の意見があり、設問『（４）教師の実践力の育成に役立つ内容であった。』の評価5が4名、の概ね良好な評価であった。評価3になった受講生の感想からは、「専門的知見が多いこと。」が、そのハードルとなったように考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「少人数であったため、ゼミのようで質問等がしやすかった。」との意見があった。

例年は、保健体育コース以外の受講生も多かったが、時間割の都合上木曜3限に変更されたこともあり、例年より少人数で授業を実施できた。座席も円卓にするなどの工夫を行った。

多様な意見交換の面からは、討議として不足する感もあったが、受講生一人一人の発言時間を十分とることが出来たことが良い点としてあげられたものと考えられる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、スポーツトレーニングに関わる多様な観点を取り上げており、授業の目的等が曖昧になること危惧される。また本学出身者と他学からの入学者での、知識量の差も考慮した授業の展開が必要である。

なにより、本授業はスポーツトレーニング研究という題目であり、学生からはトレーニングの実践的な方法論を期待する向きがある。しかし内容的には生理学・心理学・スポーツ医学諸学とのつながりを鑑みながら、学生に理論的背景を授業の中心におき、基本知識の習得を促す動機付けが必要である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|-----------------|-----|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 15日 | | |
| 授業科目名 | 学校保健学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 火 曜 日 5 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 吉本佐雅子 | | 回答者数 | 5 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | | 5 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | 4 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 2 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 1 | 2 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 1 | 4 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 2 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 3 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | 3 | 1 | | | 1 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | 3 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 3 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | 2 | 1 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 4 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 1 | 4 | | | | |

<分 析>

昨年度よりは健康教育の具体的内容、例を取り入れたためか、全体的評価は上がっており、概ね高い評価を得たと考える。反省点としては、板書の文字が拙かったことである。文字を見やすく書くということに加え、書いた後、理解を促すためにも、確認をする時間を入れたほうがよいと考えた。

質問番号16、17の評価に関しては、5点評価は1名のみであり、授業方法などには評価が得られた一方、最終的狙いである授業への興味、関心を十分引き出せていなかったことがわかった。ひとつの内容をさらに詳しく学習するほうが関心を引き出すためにはよいのかも知れないが、それでは、学習内容量が少なくなることが危惧される。来年度はこれらのバランスを考えて授業進めていきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的な書きください。

<分 析>

○学校保健について現場での実態との関連性を詳しく学びたかった。(1名)

全体として学校保健研究という授業自体への問題意識や期待は薄く、学校で行う保健活動への無関心さがうかがえる。本年殿受講者はストレート学生のみで、問題意識の高い現場教員がいなかったためと考えられる。よって、この授業で学校保健への関心を引き出すことが重要な狙いだと考えた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

○ 評価3点を回答した学生2名：理論的なところが多かった。具体的な提示がもう少しほしかった。

○ 評価5点を回答した学生2名のうち1名：一次予防が学校保健では大切だということがわかった。

本授業では、学校保健の考え方、進め方を中心に講義した。学校保健活動の内容は多岐に渡るが、どのような意義、視点で実践するのが本質的に実践方法に関わってくる。理論と実践との関係をさらに理解させることが必要であると考えた。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

○ 1名：ホワイトボードの字が薄くて見えにくかった。

全体的に高い評価が得られたためか，本質問への回答を記載しているものは上記1名のみであった。このことは学習，授業，指導教員への無関心さによるためとも考えられ，もっと印象深い授業ができるよう努力したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | |
|-------|---|-----------------|
| | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7 月 25 日 |
| 授業科目名 | 健康科学研究 | 学期・曜日・時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | |
| 担当教員名 | 廣瀬 政雄 | 回答者数 |
| | | 5 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | 2 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 3 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 2 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 2 | | 1 | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 3 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | 1 | 2 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 3 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | | 2 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 5 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | | 1 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 1 | 2 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | | 1 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 1 | 1 | 1 | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 1 | 1 | | | |

<分 析>

配布資料、機器の使用、授業の進行などには肯定的な評価をしている。一方、授業計画、授業内容の分かりやすさおよび理解度の確認あるいは板書の見易さなどにおいて低い評価が見られる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

授業を選択した学生は、健康や医学的知識を得ることを目的としている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

教師の実践力に有用かを問う設問には肯定する評価が多かった。
授業に取り入れた体験的な事柄に強い印象を受けたことが分かる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

学生からの意見は特になかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

医学的な内容になりがちな授業に対して、いかに興味を持ってもらうかということに尽きるが、

- ・ 分かりやすく、納得できる
- ・ 自分のためになる
- ・ 面白い

などがキーワードになると思われる。

血圧測定、心音・呼吸音の聴診、AEDの使用体験などは強い印象をもってもらえたようなので、授業を印象深いものにするひとつのヒントになった。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-------|-------|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 28 日 | | |
| 授業科目名 | 運動生理学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 | 月 曜 日 | 1 時 限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 田 中 弘 之 | | 回答者数 | 7 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | - | - | - | - | - | - |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | 3 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 1 | 5 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 5 | 2 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 6 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 7 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | - | - | - | - | - | - |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 6 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 7 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | 3 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 5 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 1 | | | | |

<分 析>

平均値の概観から、評価が低かった項目は、『5. 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。』及び『15. 板書の文字は見やすかった。』であり、総平均値は4.7と、概ね高い評価が得られたものと考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分 析>

- ・ 生理学的な知識について、もっと知りたいと思い、受講した。
- ・ 体の仕組みや機能、反応を学ぶことで専門性が高まるのではないか。
- ・ 専門的な知識を学ぶため。
- ・ 身体の構造などを知り、知識を増やし、修論だけでなく、自分の競技力向上につなげたかったから。
- ・ トレーニングを指導する上で、生理学を知る必要があった。生理学を学ぶことで、より高いトレーニング指導ができるようになるという期待をもっていた。

上記のような要旨の自由記述が得られたが、評価結果を勘案して、受講目的は概ね達成されたと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分 析>

- ・ 常に、教員になった時のことを考え、講義が進められていた。
- ・ 体の仕組みや子どもと大人の体の違いを知ること、教師としての危機管理能力の重要性を認識することができた。
- ・ 教師として、子どもの安全を守ることは大変重要なことだと思うので、自分が実際に現場に出た時に気をつけたい。
- ・ 指導する面で、自分がどのようなことに注意していかなければいけないかわかった。
- ・ 生理学の内容だけでなく幅広い事柄を調べることによって、幅広い知見が得られた。
- ・ 教師を目指していないので評価しづらいが、幅広い知見をもつことができた。

上記のような要旨の自由記述が得られ、評価結果を勘案して、所期の講義目的は概ね達成されたと考えられる。

4 アンケート【4】の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ 特にない。
- ・ 特にありません。
- ・ スライドの文字が背景の色とかぶって見えにくい時があった。

上記のような要旨の自由記述が得られ、その他の3名は未記入であり、授業改善に関する強い要望は認められなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

昨年よりも評価は高まったが、今年度は現職教員の受講生がなく、講義の展開が理論化傾向に偏りがちであったかも知れないという反省がある。授業のより実践的で、効率的な運営については今後も継続して検討を重ねたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|-------|---|----------|-----------------|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 8 月 1 日 |
| 授業科目名 | エネルギー工学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 金 曜 日 2 時 限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 木 下 凱 文 | 回答者数 | 3 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 1 | | | | |

<分 析>

評価点の単純平均値は5点満点中4.71点であった。この値は昨年度の4.86点と比べて若干低下したが、過去の平均点4.6点を上回る結果となった。この結果は概ね満足できるものと考えられる。

3. 授業の内容に一貫性があったとの質問に対し、3の評価点をした院生がいたが、授業を一貫して受講しておればこのような回答にはならなかったと思われる。

2 アンケート〔2〕の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答

1. 今後の自然環境の保全や、エネルギー利用の問題をどのように児童生徒につたえていけばよいか。
2. エネルギーについての日本、世界の情勢を知りたいと感じた。
3. エネルギー教育というものを1から理解しようと思い、受講した。

分析

エネルギーとはどういうものか、日本、世界のエネルギー事情はどうか、またエネルギー教育をどうすればいいか、といったテーマを持って受講していることが判る。本研究ではエネルギーの基礎的な概念からエネルギーの将来予測、小中学生や高校生に対しどのようなエネルギー教育を行えばいいかを一貫して取り上げ、同演習で太陽炉（ソーラークッカー）等を製作し、実験を行って教育実践を行った。このような内容が受講生から高い評価が得られたものと考えられる。

3 アンケート〔3〕の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答

1. 化石燃料の問題や環境に与える影響に関する知識や現状を知ることができ、教育現場でも活かせると思う。また、太陽を利用した機材を製作、利用し、目的を達成することができたことから教材として十分に活用できると感じたため。
2. 具体的（パラボラ、クッキングヒーター）等を扱い大変よい授業であった。是非来年も受講したい。
3. 実験等、自らで活動する内容も含まれていたため。

分析

これらの回答を見ると本研究が教師の実践力の育成に役立っていることが判る。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生からの回答

1. 知識と技術が融合した良い授業であった。
2. このアンケートをどのような目的で使用するのか、またしているのか、明らかにすべきである。―――>学務
3. すべてよかった。

分析

このような評価を頂いたが、謙虚に受け止め、今後ともよりよい講義を行えるよう努力したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業評価の結果が示すように、本研究（講義）の目的と成果が十分得られていると考えられる。今後は最新のデータを収集し、さらに練り上げられた研究内容と教材開発、教育実践に磨きをかけたいと思っている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|---------|---|------------------|-----------------|
| | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 7 月 25 日 | |
| 授業科目名 | 木質材料加工法演習 | 学 期 ・ 曜 日 ・ 時 限 | 前 期 金 曜 日 4 時 限 |
| 授 業 区 分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 米延仁志 | 回 答 者 数 | 7 名 |

- 1 アンケート [1] の集計と分析について
 [5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番 号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|-----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 5 | 1 | 1 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 1 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 5 | 2 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 5 | 2 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 5 | 1 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 6 | | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 5 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | 2 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 6 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 1 | | | | |
| 18 | 機会があれば今後も木材を使った制作に取り組みたい。 | 7 | | | | | |

<分 析>高い評価を得たと考えている。しかし、本演習では受講生ひとりひとりが全て異なる制作を行うことにしているため、ものづくりの技能が高い受講生については細やかな指導がおろそかになった点については反省している。演習室(技術棟木工室)の環境に関して、工作機械空調設備の必要性、制作品の保管場所が狭いことが指摘された。この点については、木工室を講義で使用する教員全てが長年苦慮している問題でもあり、今後も引き続き演習環境の向上を実現するための努力を続けていきたい。質問項目18は独自に付け加えたものである。受講者全員が評価5を与えたことは担当教員としては喜ばしい限りである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、いかがでしたか？ 具体的にお書きください。

<分 析> 木材加工の基礎や機械の使用法の習得など、本演習の目標と合致する回答が得られた。興味深い回答としては、「学校現場と違った高級な機械があるかと思っていたが、そうでは無かった」というものがある。これに関して、そもそも木工機械に新しいものは無いため、安全面の指導だけでなく、性能面に踏み込んだ説明を行えば、よかったと考えている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析> 本演習では、受講生が、教師の実践力ではなく、ものづくりを楽しみながら、技能の習得を向上させることに主な関心が寄せられている。各自がばらばらの製作演習を行うため、「技能の習得においてはばらつきがあると思う」との回答が寄せられた。この点については、それぞれの制作課題で最低限の要求基準を、個々に伝えるようにしている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析> 空調設備の必要性が指摘された。今後も、施設改善のための努力を続けたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生の評価はおおむね高く、今後も同じ方針で本演習を行おうと考えている。ただし、受講生全員にたいして演習での評価の観点を明確に伝えるようにしたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|--|---------------|--------|-----|
| | 評価実施日 | 平成 21年 2月 26日 | | |
| 授業科目名 | 画像情報処理研究 | 学期・曜日・時限 | 後期 木曜日 | 3時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | 伊藤陽介 | 回答者数 | 1名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[
5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない
]
2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 1 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 1 | | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 1 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 1 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 1 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 1 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 1 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 1 | | | | | |

<分 析>

今年度は受講者数が1名と少なく客観的な授業評価は難しいが、画像情報処理の理論的な側面と実習用プログラムならびに画像処理システムを用いて具体的な処理例を示すことにより、授業概要に示した目的を達成できたと推測できる。平成20年度に導入したC++による画像処理プログラム・ライブラリ教材については、実習用プログラムに組み込んで有効活用できた。

しかし、主体的・積極的に授業に取り組んだ点についてやや評価が低く、今後授業方法ならびに教材などにおいて改良が必要である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答は、修士研究で役に立つため受講した、とあり本授業の目的である画像情報処理に関する基本事項の理解と合致している。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答は、GIMP 2 は、中学校でもあつかえる無料ソフトだが、その説明書を授業の中で作成することがあったので今後役立つと思う、であった。

本授業では、画像情報の加工に関する操作方法を取り扱うのではなく、画像情報の本質的な特徴や処理方法の原理を踏まえたうえで、「無償で利用できる画像処理ソフトウェアを中学校の授業で使えるような説明書を作成する」という演習課題を行うことによって、高い評価を得ている。講義では、主に画像情報処理の本質を取り扱い、教師としての実践力がつくことをねらいとする演習課題を受講者に与えることが今後も必要とされる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

とくに改善点に関する指摘はなく授業内容ならびに授業方法について問題は少ないと考えられる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業によって，画像情報処理に関する基礎的な知識とアルゴリズムを授業と演習などを通して，受講生は画像情報の基礎とその処理方法に関して概ね修得できたと考えられる。しかし，画像情報を取り扱うためのC++などのプログラム言語に関する予備知識がない受講生にとっては，概念をかなり詳細に解説したとしても，実習内容を深く理解し修得することが難しかったという側面もある。今後とも，身近になった画像情報の構成と処理方法に関する課題を中心にして，教師としての実践力を育成するという観点から，単に画像情報に関する専門的な知識のみを教授するにとどまらず，教育活動を念頭においた演習課題などを積極的に導入する必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|-------|--|-----------|---------------|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 21年 2月 17日 |
| 授業科目名 | プログラミング演習 | 学期・曜日・時限 | 後期 火曜日 4時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 林 秀彦 | 回答者数 | 2名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 1 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | | | | | |

<分 析>

全ての評価項目について、評点4または5の高い値となった。ただし、17の評価項目の中で評価項目15「板書の文字は見やすかった。」は、本授業では該当しないので除外してある。これは本授業では板書がなかったためであるが、授業中はコンピュータとプロジェクタを活用して、板書と同様の役割を果たすことができた。そのため、評価項目11「視聴覚機器の使用は適切であった。」に評価項目15の内容が反映されていると考えられる。評価項目15は高い評点であったので、本授業ではコンピュータやプロジェクタなどのICT機器の活用は有用であったと考察できる。

残りの15項目についても高い値となった。これは、本年度の受講生が少ないことや、受講生の全員が専門に直接関係のあるコースに所属する大学院1年生であったことなどから、本授業の主旨が比較的わかりやすく伝わったためであると考察している。受講人数が少ないため、統計的な分析は十分にはできないが、個々の受講生は主体的に授業に取り組むことで有意義な授業になったと推察される。授業は教える側と教わる側の相互作用で形成されることを、あらためて実感することができた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的な書きください。

<分 析>

アンケート[2]の質問に対しては、下記の回答があった。

・高等学校情報科の現職教員として日々の授業を行ってきた中で、日々のテクノロジー、情報技術の進歩を実感し、日々新しい情報を学んでいく必要性を実感していた。本授業では、最先端の情報を取り入れながら実習を伴った講義を受けられると思い、受講した。

・高等学校の情報科の教員を目指しているが、プログラミングなどの知識は難易度が高い。また具体的な作業経験を積まなければなかなか知識を得ることが難しく、書籍などでの独学は難しい。プログラミング作成を行いながら、経験的なノウハウなどについても学ぶことができるのではないかと思い、受講した。

本年度の受講生は、情報分野を専門としているので、本授業に関連する問題意識や期待も比較的高いことがわかる。授業の前半は共通の課題に取り組んだが、授業の後半は、それぞれの問題意識に対応した課題に取り組んだため、それぞれの問題意識や期待に応える授業ができたと考察できる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分 析>

アンケート[3]の質問に対しては、下記の回答があった。

・高等学校の教科書にはまだ載っていないような新たな技術や情報を取り入れ、具体的な操作方法を交えながら実習を行ったことで、今後の高等学校での授業においても参考にできる知識、技能が習得できた。

・プログラミングの基礎的な内容から講義を行っていただけだったので、わかりやすかった。高校生など、プログラミングになじみのない生徒に将来教えることになったときにも、この授業での経験、教材が役に立つのではないかと思った。

本授業は、必ずしも直接的に教師の実践力の育成に役立つことが主目的ではない授業構成であったが、間接的に教師の実践力につながる要素があることがわかった。受講者の中には、既に教師の実践力を十分に備えた現職教員が含まれていることから、授業担当者の立場よりも実践につながる要素を見つけやすいことが考えられる。今後の授業を計画するうえで参考にしていきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

アンケート[4]の質問に対しては，受講者の記述はなかった。回答時間に十分な時間を取れなかったためかもしれない。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業では，個々の受講生が主体的に授業に取り組むことで有意義な授業となり，授業は教える側と教わる側の相互作用で形成されることを実感できた。本年度は，受講人数が少なかったこともあり，個々の状況に応じて主体的に取り組む授業を実施しやすいといった側面があった。しかし，同様の状況が今後も続くとは限らないため，さまざまな学生の状況も十分に把握しながら事前の準備をしっかりと進めることが必要になることが考えられる。しかし，さまざまな業務があるなかで授業準備・教材開発に充てられる時間も限られてくるため，いかに時間を確保して効率的に多様な業務を遂行していくことができるかが，今後の課題となっている状況である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|------------|-------|-------|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成21年2月27日 | | |
| 授業科目名 | 情報応用演習 | 学期・曜日・時限 | 後 期 | 金 曜 日 | 3 時 限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 曾根 直人 | 回答者数 | 2 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | | | | | |

<分 析>

少ないサンプルではあるが、受講者からは高い評価を得られた。特に今年からは授業で利用する機材を変更し、受講者にネットワーク機器を触ってもらいながらネットワーク構築などを行えるように工夫した事が評価につながったと考える。今後も実際に機器を使った演習を取り入れられるようにしたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・学校でネットワーク設計、運用するのに必要だと思ったから。
- ・ネットワーク技術ってどんなだろう。

学生はネットワークに関する知識を得ようと受講している事が分かる。LAN管理者にはネットワークの基本的な考えに加えて、実際の機材の設定やトラブル解決のための問題切り分け方法など様々な知識が必要になるため、うまくバランスを取りながら授業で扱っていきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・実習も多く、実際に役立つようであった。
- ・現場で必要とされる能力を教えてくれたから。

ネットワーク分野では、様々な技術が開発されており、数年前では技術的に不可能であったことが新しい技術の開発により、可能になっていることも多い。この授業では学校現場で実際に役立つ新技術を紹介したことが評価されたと考える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

具体的な記述がないが、今年度からは市販小型ルータを使ってのネットワーク構築演習を取り入れ、実際にネットワークを構築する作業を行った。

5 本授業の成果と今後の課題について

ネットワークの管理を行うために必要な能力は、様々なトラブルの経験や基本的な技術を十分理解し、知識を構築する必要がある。この授業だけでは十分な能力を身につけることは難しいが、問題が発生したときの判断やネットワーク構築のための基本的な考え方は理解されたのではないかと考える。

基本的な知識と応用のバランスが難しいが、本年度からは以前受講生からの提案にもあった・仮想のネットワーク構築を考え、それに基づいて必要な知識を習得できるような授業構成を実現すべく、ルータを用いたネットワーク構築演習を取り入れた。今回のアンケート結果を見る限り、学生からも好評のようである。今後、さらに授業構成を検討し、より効果的な演習となるよう工夫していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|-----------|------------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 21 年 2 月 24 日 | | |
| 授業科目名 | 情報技術研究 | 学期・曜日・時限 | 後 期 月 曜日 2 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 (4) 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 菊地 章 | 回答者数 | 3 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 3 | | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 3 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 3 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 1 | | | | |

<分 析>

概ね反応が良かったが、病気や就職活動等で一人だけ欠席が多く、アンケート回答にもその結果が少し表れた。実際の授業では内容を理解できていたようであり、毎回出席であれば問題なかったと思える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者からは、「ネットワークに興味があったから」、「UNIXやネットワークの仕組みが疑問であったから」、「学校のネットワーク環境やサーバー環境を具体的に構築したかったから」の回答であり、授業内容が受講者の要望に合致したと思われる。ただ、すべてのサーバー環境やネットワーク環境の授業をするためには6単位程度の時間数となり、すべてを紹介することはできなかった。受講者の要望を聞きながら授業内容を選定して授業を行ったことにより、ある程度は受講者の要望に応えることができたと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者からは、「教員にとっての必要な能力が何かの具体的な説明があり必要な能力が向上したから」、「情報担当教員になる場合はコンピュータの管理方法を知っておく必要があり、その方法を具体的に実習できたから」、「実習形式で順序立てて授業を進めて貰ったため、実際の学校現場で実践しやすくなった」の回答があり、学校現場におけるネットワーク管理やサーバー類の管理能力が身に付き、受講者からの反応も好意的であったと思える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答がなかったためコメントできないが、前述の回答と関連させると概ね授業内容が受け入れられているものと思える。

5 本授業の成果と今後の課題について

全体的に好意的な反応であるため、授業内容を大幅に改善する必要はないものと思える。途中欠席した関係で、アンケート回答では3名中1名のみ少し授業に付いていけない状況も発生したが、全体的には3名とも授業の理解は良かったと思える。なお、実習主体での授業は受講生にとって満足感が出るが、将来に亘って普遍的な知識と技術が身に付くかは疑問のあるところである。学生の反応のみでなく、10年、20年先まで授業内容が記憶に残るように心がけたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | |
|-------|--|-----------|-------------|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成20年 7月28日 |
| 授業科目名 | 生活経営学研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 月曜日 4時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | |
| 担当教員名 | 渡邊 廣二 | 回答者数 | 5名 |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 3 | 1 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | 2 | 2 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 1 | 4 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | 3 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | | 2 | 3 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 1 | 3 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | | 3 | 1 | 1 | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | | 4 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 | 2 | 2 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 3 | 1 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | - | - | - | - | - | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 1 | 4 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 1 | 2 | 1 | 1 | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 1 | 3 | 1 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 3 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 1 | 3 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 1 | 1 | 3 | | | |

<分 析>

生活経営学研究の授業では、昨年と同じく生活経営の本質と方法、家計や家事労働に関する家庭管理、および消費者問題等の現代的課題という3つの内容について説明した。

昨年度の経験から、用意した内容を減らして、ゆとりを持って授業に望んだつもりであったが、実際には、やはり授業中に質問したり受講生の発言を促すなど、受講生に授業への参加を促す点で不十分であった。授業の進む速度も速すぎると思われた。また、説明がわかりにくいという意見もあった。

次年度は、説明する内容をさらに減らし、わかりやすく説明するように心がけるとともに、受講生との質疑応答を増やして、受講生が満足できる授業にしたいと思う。

2 アンケート〔2〕の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

昨年度のアンケート結果によると、受講生は、本授業に対して、生活経営のうち消費者問題と消費者教育に関する内容を期待していた。そこで、本年度は、消費者問題と消費者教育の内容のウェイトをやや高めたシラバスを作成した。

本年度の受講生の受講理由をみると、たとえば「消費者問題の現状を理解し、知識を定着させ、学校教育においてどのように生かしていけばよいかということを知りたいから」とか、「消費生活や消費者教育に対する知識があまりないので今後の役に立つと思ったから」と記述してあるように、消費者問題と消費者教育に対する期待が大きい。来年度も、今年度に引き続いて消費者問題と消費者教育に関する内容を重視した授業をしたい。

3 アンケート〔3〕の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

教師の実践力育成に関する評価は5が1名、4が3名、3が1名というように評価が分かれた。

5の評価の理由は、「直接的には実践力に結びつかないかもしれないが、知識体系がしっかりしていないと授業はできない。したがって実践する上での知識として重要であり、とても役立った。」

4の評価をした3名のうち一人は、「消費者教育において重要である消費者教育の意義・目的を理解することができ、現場において生かせるように身についた。」別の一人は、「『価値』をキーワードに、消費者教育に対する先生の考えに触れることで、自らの考え方が広がったように思う。」最後の一人は、「内容は難しかったが、今後役立つ内容だと感じた。」

3の評価の理由は、「教師としてどのように実践するかという視点での内容ではなかった。」

最後の点について一言触れると、この授業は講義科目なので授業の内容は理論を中心においている。消費者教育の授業実践の側面については、後期に開講される演習科目において、教材開発に関する実践的な内容が用意されているので、そちらで補いたい。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「資料や板書を用い、わかりやすい授業でした。授業における言い回しがもう少しわかりやすいとよかった。」という記述があった。

わかりやすい説明に心がけたいし、またわかりにくいことがあれば、質問できるような授業にしたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の目的は、家庭科の教員に必要な生活経営に関する専門的知識を深めることである。本授業では、第1に生活経営の本質、その対象および方法等の生活経営の方法論、第2に家計、家事労働および生活時間に関する家庭管理論、そして第3に消費者問題等の現代的課題という3次元で生活経営論を説明した。本授業を受講することにより、生活経営に関する家庭科の授業を行うのに必要な専門的知識を習得することができたと思う。

昨年度のアンケートにあった受講生の要望に応じて、今年度は消費者問題と消費者教育の内容を少し増やすことができた。今後の課題としては、一つは、昨年と同じく、各授業時間内に説明する事項を精選し、ゆとりのある授業を構成することにより、受講生が授業に参加することができるようにすることである。そしてもう一つは、わかりやすい授業に心がけることである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|-----------|------------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 7 月 29 日 | | |
| 授業科目名 | 衣生活学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 火 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 福井 典代 | 回答者数 | 4 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | 3 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | | 2 | 2 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | | 4 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | | 3 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | | 3 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 3 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | | 4 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | | 4 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | 2 | 2 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | | 4 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | | 4 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | 2 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 3 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | | 4 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | | 4 | | | | |

<分 析>

今年度の衣生活学研究は、学生の要望により被服に関する基礎的な知識の習得を目的とした。そのため、被服に関連した実験や実習を授業中に積極的に取り入れて、教員からの一方的な講義に終わらないように努力した。

その結果、教師の実践力の育成に役立つ内容であったが、授業内容の一貫性については学生の評価が低く、授業内容を再考する必要性が認められた。また、教科書を用いた授業を実施しなかったため、その評価が低い。授業の進度や教員の声の大きさ、板書の文字の見やすさなどは評価が高かったため、このまま継続して分かりやすい授業をめざして努力したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 児童・生徒に対して興味を持ってくれるような教材を自身で体験し、その目的を考えてもらえるような授業展開を身につけたいと思いました。
- ・ 私は被服分野が苦手なので、少しでも苦手を克服するために授業しようと思った。
- ・ 被服分野に要求される技術・知識を身につけようと思った。
- ・ 被服（衣生活）分野の授業が少なかったため、どのようなことを実践につなげることができるかを学ぼうと思った。

学生の期待として、被服分野に関連する技術と知識の習得希望が多い。そのため、本年度の「衣生活学研究」では、被服に関する基礎的な知識の習得をめざして、実験や実習を授業中に多く取り入れた。この点では、学生の希望に添った授業内容であった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 分かりやすい教材を自身で体験し、より改善し、工夫ができるような授業展開でした。
- ・ 実習、実験を実践することで、自分が教師として授業においてどういった点に注目、注意したらよいか、考えながら講義を受けることができたため。
- ・ 実習の方法がわかったし、知識もある程度身についたから

今年度の授業では、学生の要望により講義と実験・実習を組み合わせた授業を行った。講義のみでは教員側からの一方通行的な知識の教授になってしまい、学生の知識として深まらないと思ったからである。上記の学生の記述をみると、その点が好意的に受け止められた結果となっている。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ アットホームな少人数での授業で楽しく取り組みことができ、意欲もわきました。
- ・ 特にありません。とても楽しい講義でした。
- ・ 学生の意見を取り入れてシラバスを作ったところがよかった。

今年度の受講生は4名であり、少人数の良さを生かして、学生の理解状況に合わせた授業を実施することができた。

5 本授業の成果と今後の課題について

アンケート〔1〕の分析で述べたように、今年度の授業は、学生の要望により被服に関する基礎的な知識の習得を目的とした。一方的な講義に終わらないように実験や実習を授業中に積極的に取り入れた。毎回の授業後、実験・実習のまとめとして学生にレポート提出を求めたため、基礎的な知識の復習も兼ねることができた。学生によるアンケート結果から、概ね好意的に評価された。

ただし、授業の内容の一貫性については評価が低く、来年度の授業を実施する際には、配慮する必要がある。教科書や参考書についても具体的に提示しなかったため、評価が低い。来年度は授業開始時に明確にして、授業中に繰り返し提示したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-------|-------|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 25 日 | | |
| 授業科目名 | 食生活学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 | 金 曜 日 | 4 時 限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 前田英雄、 西川和孝 | | 回答者数 | 5 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 4 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | 4 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 1 | 4 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | 4 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 3 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 1 | 4 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 4 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 4 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | | 5 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | 4 | 1 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | 5 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | | 5 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 3 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | 3 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 4 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 3 | | | | |

<分 析>

講義受講者5名から分析した。

- ・ 受講生が教員の授業を評価している1～15についての評価平均は、4.15であった。評価番号3が評価項目2と10に見られたが、授業ではテキストや参考書を用いずにパワーポイントを使用し、その内容をプリントにして配布したためと思われる。

- ・ 他の項目の評価については概ね満足するものであったと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

下記のような意識をもって受講していたようである。

回答

- ・ 食については、知識も浅く勉強の必要性を感じていた。だから全てにおいて深く学びたいと思って受講した。
- ・ 栄養学の視点からしか学んだことがなかったので、教育学の視点から学びたいと思った。
- ・ 学校現場における「食育」が注目されており、「食育」を進めるにあたって必要な知識や子どもたちがおかれている現状を知りたかったので受講した。
- ・ 食生活についてもっと詳しく学びたかったので受講しようと思った。

回答の分析

このように受講生の問題意識は出身大学やその学科の専門が異なるため、多様である。この授業の基礎となる食品学、栄養学および調理学を学んだことのない学生や学んでいてもその深さの程度が異なる。授業担当者としては限られた授業時間内に講義内容の焦点をどこに合わせるかが難しい点がある。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

下記の回答が得られた。

回答

- ・ バンレットやプリント類が多く配布され、その内容も一般的なものですぐに使えると思った。
- ・ 今までとは違う視点から考えられたと思う。
- ・ 具体的にわかりやすい事例をあげ、最新の知識を獲得する重要性が深く理解でき、自主的に問題解決する態度と意欲を養うことができたと思います。
- ・ 授業において、レポート形式で食生活に関する調べ学習があり、その発表を通して自分が食生活のこういったところに関心があったのか、気づいた。自分自身が関心を持てる内容でないと、教えることが難しいので、これからの実践力として役立てると思った。

回答の分析

授業時に配布したプリント資料はパワーポイントと同じ内容であり、学生が板書してそれを写すために時間をとられるよりも授業内容を理解する点に重点をおいた。一方、資料を配付したために安心して授業中に居眠りをする学生も見られた。また、調べ学習では発表を通して相手に理解させる能力を養う力の育成を目標としたが、回答からもその有効性が認められた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

下記の回答が得られた。

回答

- ・わかりやすい板書に聞き取りやすい声の大きさでした。
- ・調理実習がおもしろかったのでよかったです。

回答の分析

これらの回答から簡単な調理実習や実験を取り入れた授業は、食物分野の授業にとっては受講者の実践力があがるので、今後の授業にも取り入れる予定である。

5 本授業の成果と今後の課題について

成果

本授業の最初に食生活の領域に関わる内容で受講者のニーズを把握するためアンケートを実施した。その要望内容を全ては満たせないが、多くは要望も考えて授業を実施した。特に簡単な実習を取り入れて、体験授業を行った点は実践力の育成につながる成果だと思われた。

課題：

教員への評価項目15のうちテキストや参考書に関する要望が強かった。この要望は例年見られるが、授業で配布するプリントなどを更に改善することが来年度の課題として残された。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 28 日 | | |
| 授業科目名 | 住生活学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 月 曜日 2 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 金 貞 均 | 回答者数 | 4 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | 2 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 1 | 3 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | 5 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | | 4 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | 2 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | 4 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 3 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 1 | 3 | | | | |

<分 析>

本授業は少人数授業である利点を生かし、各授業テーマに対して意見を述べ合う時間をできるだけ設ける努力をしてきた。受講生は問題意識をもって授業に積極的・主体的に取り組んだ。本授業に対して受講生は全体的にポジティブな評価をしており、「満足できるもの」としている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

○受講生側から

- ・「住まい方は生き方である」という住居学における最も重要なテーマがとても魅力的であり、住居学を通して現在にいたる人間の生き方の変容とこれからの生き方と住まいがどうかかわっていくのかという問題意識をもって受講しました。
- ・住生活や住まいにおける少子高齢社会との関わりや住まいの変容、住まいと家族など具体的事例等を知識として定着させたく受講しました。
- ・住まいのかかえる問題からそれを解決する方向で考えられた方法などを知ることで自らの見解を広げるため受講した。
- ・あまり勉強していない分野なので少しでも知識が増えるといいなと思った。

○意見に対して

受講生は本授業に対して各自明確な問題意識や意欲をもって臨んでおり、大変いい雰囲気です。授業を行うことができました。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

○受講生側から

- ・住まい方というものを幅広い関係性の中でとらえるという知識や理解を深めることができ、私自身の知識体系をつくる基盤となった。このような基盤があってこそ実践に結びつくと考えるのでこの番号を選択した。
- ・資料を用い、データなど客観的事実を示すことにより、理解しやすいと感じ、現場でもとても有効な方法として身につきました。
- ・住居領域を教えるにあたって材料がふえたように思うから。
- ・参考になる材料がたくさんあったこと。

○意見に対して

本授業では授業テーマごとに適切な資料を用いて意見交換を行い、関連知識や理解を深め、住居領域の実践につなげることができたと考える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

○受講生側から

- ・授業において皆で作業するような取り組みがなかったことが残念ではあった。しかしながら話し合いの機会などもあり、意見交流することによって考えが深まったためよかったのではないかと思った。今後もさらに勉強が必要であると感じた。
- ・授業の内容と関連して、視聴覚機器や資料を用いて授業の内容が身に付きやすかったです。
- ・住居領域は授業での実践が難しいときいたことがあるので、学校でも実際に実践できるような事例（方法）をもう少し取り上げてほしいと思った。

○意見に対して

最初の意見に対して、「皆で作業する」という場面は「まちづくり」ワークショップや調査活動などが考えられる。授業テーマに応じて検討してみたい。

最後の住居領域の実践事例に対してはもっと授業で紹介できるようにしたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業では住生活能力の向上は授業実践力につながるといった考えを持って授業を行った。授業では「どう住むかを考えることは個人・家族の生き方を考えること」という本質から出発し、今日の住まいをめぐる状況と問題に向かわせ、社会や環境問題と関連させながら解決方法を考えるよう促した。各自これまでとは違う見方で住まいの問題を捉えることができたと考える。授業を通して住まいをめぐる様々な問題や見方を学び、また意見を述べ合うことで知識の統合化をはかることができた。授業から得た知識と知見が住生活実践力は勿論住教育実践力につなげることができるように、関連教材や授業実践例をもっと工夫して紹介していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|---------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20年 7月 22日 | | |
| 授業科目名 | International corporation I (Math & Sci. Ed) | 学期・曜日・時限 | 前期 月曜日 4 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 近森・小澤 | 回答者数 | 3名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | | | | | |

<分 析>

・本授業に対する受講生の評価は非常に高いものがある。ただ人数が少ないため、その妥当性については定かではない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

-This course relates to my study field. I would like to study about "Situation of Math Education in the world".

-I think this course was useful for me, I expect I have known the challenges of education in many countries and how to reform education.

-Due to international corporation education is very important to study, and I expected to understand better the concept of education from many countries.

受講生の本授業に対する期待は高いものがある。とくに、教育あるいは世界の教育の状況と課題及びその解決方策などを知りたい、考えたいという期待が大きいように思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

-All of us (students) can discuss or show our own idea.

-I think this course use useful to foster the practical competence for teacher, for example, I have known about process of lesson study and the action plan.

-This course was useful to foster the practical competence for teachers because it is a new subject for me. Moreover it would be very useful to practice what I learned in my country.

討論を行うことで自らの意見を表明することができたことや授業研究や行動計画について知った事、さらに自国で学んだことを実践する上で役に立つ授業であったと受講生は感じているようだ。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

-It is good to know about situation of math and science education in developing country.

-I found many good points in this course because I have known the challenges of education in many developing countries and the reforming plan.

-It was very good for two reasons;

One is because it was taught in English so I could get all the information and the other is that it is a new information for me.

本授業において途上国における理数科教育の現状や課題など受講生にとって新しい情報が提供された事、さらに英語により授業を実施した事などが高く評価されている。

5 本授業の成果と今後の課題について

-英語で授業することにより、なんとか言葉の壁を乗り越え、途上国の理数科教育の現状と課題、及び課題解決への努力などについて事例研究等を通して受講生に伝える事ができた事が本年度の本授業の最も大きな成果と考えられる。本授業は今年スタートしたばかりであり、本年度の授業実施で得た体験や受講生の評価結果を踏まえて、今後も実施していきたい。

領域等方法科目

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | |
|-------|---|-------------------------------|
| | 評価実施日 | 平成 20 年 2 月 5 日 |
| 授業科目名 | 幼年期福祉演習 | 学期・曜日・時限 後 期 木 曜 日 2 時 限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | |
| 担当教員名 | 木村 直子 | 回答者数 5 名 |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 5 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 5 | | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 5 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 5 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 3 | 1 | | | | 1 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 5 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 5 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 1 | 2 | 2 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | | | | | |

<分 析>

少人数の授業のため、授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、「17.満足のできる授業であった」の回答において全ての院生の満足に繋がったように思う。しかし、授業の進め方については、改善の余地が残る。特に、板書については、より分かりやすい記述が求められているといえる。また、テキストや参考書などを随時紹介し、授業内容を補足することで、院生の主体的積極的な取り組みにつながる可能性がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講した院生の授業への期待や問題意識は、以下の通りであった。

- ・支援者の立場の難しさを教えてもらいたかった。
- ・前期にも授業を受けて、良かったので。
- ・支援に対する具体的な方策を、事例を通して学べると期待してきた。
- ・実際の援助場面を体験したことがないので、毎回の事例を「自分ならどう援助しようか・・・」と真剣に向き合い、自分のものにしようと努めた。
- ・具体的な援助の方法や考え方を学びたいと思った。
- ・前期の幼年期福祉研究の最後に少しだけ事例を取り上げたので、引き続き授業が受けたいと思った。

受講した院生たちは、明確な問題意識をもって受講していることが伺える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講した院生の回答は、以下の通りであった。

- ・教師というより、これから社会へ出る人々にとって、とても大切な授業であった。
- ・援助者に必要な根本的な部分や基礎的な部分を多く学ぶことができた。
- ・実際にあったケースを取り上げているため、そのケースがどういう経過を辿り、どう終結したかという一連の流れを知ることができた。
- ・今後、支援が必要な子どもや家族に出会ったとき、最適な援助ができる考えや知識を得たと感じたため。
- ・事例について考えることで、新しい価値観や考え方に触れ、その考えを実践に活かす事ができるのではないかと考えたから。

本授業の目的としている、支援の枠組みやその背景にある援助者の価値観についての理解を深めることが、達成していたことが伺える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講した院生の回答は、以下の通りであった。

- ・授業中にみんなの意見を黒板に書くのだが、字が小さくなり見えにくかったので、改善して欲しい。
- ・人数が少なく、自分の意見がたくさん言えることがよかった。
- ・様々な事例について、ディスカッションを行いながら検討したので、色々な意見や価値に触れることができた。
- ・説明がとても分かりやすかった。
- ・実際に自分が支援者のように事例を考えたことで、得られた者は多くあったと感じている。

板書についての指摘は、アンケートの調査項目の中でも、指摘があった内容である。今後の授業では、留意し、努めたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業の準備の際には、どうすれば、分かりやすく、かつ適切に院生に伝えることができるかを意識した。院生の視線を組み込んだ授業を行えるよう、準備にしっかりと時間をかけている。分かりやすい授業として、院生たちの満足度は高かったように思うが、そのことが、受講生の授業時間外の主体的かつ積極的な学びに繋がるまでには、到達していない。

今後は、指摘いただいた内容を改善し、より専門的かつ高度な授業を行うことで、受講生の高い問題意識に応え、意欲を刺激することができればと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|-----------------|-----|--|
| | | 評価実施日 | 平成 21 年 2 月 5 日 | | |
| 授業科目名 | 環境教育特論I(新)・II(旧) | 学期・曜日・時限 | 後期 木 曜日 5時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 (4) 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 近森憲助・西村 宏 | | 回答者数 | 7 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 言 平 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 6 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 5 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 6 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 5 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

<分 析> 全体的には、5または4の評価が得られている。新カリと旧カリの同一時限での開講となっていて、科目名に付随する分類番号はずれている。これは新カリの広領域コア科目に、従来は専門科目として開講していた「特論I」を分割して開講することとしたためのずれであるので、内容的には旧カリの内容にわずかに変更点を加えたものとなっている。さて、今回の結果では、かなり高い評価が得られていて、受講生も授業内容の一貫性についてはそれなりの評価を与え、また自らの授業への取り組みについても、授業概要に掲載の授業計画と成績評価規準なども前もって承知した上で受講していることが分かった。これらの点から、授業者が予測した目標はほぼ達成できているものと判断できる。

2 アンケート〔2〕の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析> 7人中3人に記述があったので、書かれた意見をそのまま列記する。

○環境教育について改めて深く考えられるように。

○環境教育の新しい流れ、教材開発の最新の話を知りたいと考えた。

○新学習指導要領で中学校の総合の時間減をうけ、教材等の開発や授業開発を行うためのノウハウなど。

○未記入：4人

受講生には、自らが現場に出たときに実践に生かすために知識を深めておこうとする意欲が見て取れる内容である。中央教育審議会の答申をもとに、総合的な学習の時間のための授業枠が減少となった新学習指導要領へ即応するためのノウハウを期待する記載も見られた。ほとんど浸透せず且つその実施結果の功罪を検証もせず、何の目標もなく朝令暮改的に改変された義務教育のカリキュラムにも無理矢理対応しなくてはならない現場の教員のある種の苦勞が、短い文ながらあふれ出た文章のように感じられる。

3 アンケート〔3〕の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析> これについても記載された内容を列記する。

○講義形式の授業内容のみではなく、教材の開発や研究などの実践形式が、育成に役立つと思えたから。

○リサイクルについての新たな視点があった。

○未記入：5人

本項目について記述があったのは2件だけだったので、分析は不可能である。敢えて言うのであれば、やはり「総合的な学習の時間」の環境分野での実践を主眼に受講していることが察せられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析> 記載のあったものについて、そのまま以下に記す。

○みんなの発表がおもしろかった。

○講義中にディスカッションがあるとうれしいです。

○講義形式の授業だけでなく、実践形式の内容であったことが良かった。

○未記入：4人

受講生に、自ら考えて作成した教材について、各自に発表してもらう機会を設けたことが有効であったことが分かった。しかし、授業で示さなくてはならない基礎的内容が種々あるため、院生相互に意見交換したりディスカッションしたりする時間を十分に確保できなかったことは否めない。これに対する内容が改善点として指摘されているので、今後の授業においては、基礎事項提示に合わせるかたちでできるだけディスカッションの時間を増やすようにしたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

例年どおりのカリキュラムによって授業を展開した。環境そのものをどう認識するかについての基礎的事項から始め、教材開発に必要な知識の概略および事例研究を主として授業の対象とした。それをもとにして、授業の終盤では、それぞれが独自に考案した教材に関連する事項を発表してもらい、院生相互に相互評価を行った。この措置は上記の授業が良かった点にも書かれているように、受講者の意識を能動的にするとともに、自分の作成した教材との比較検討を行うことができたので、比較的受講生も満足できたものと思われる。

今後の課題としては、受講生間でのディスカッションの時間を確保することを念頭において授業計画を作成する方向で検討するつもりである。また、担当者二人ではカバーしきれない具体的内容については特別講師を招聘して専門的内容と関連付けながら解説してもらうことにしたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|-----------|-----|-----|
| | | 評価実施日 | 平成20年2月8日 | | |
| 授業科目名 | 学校精神保健学演習 | 学類・曜日・時限 | 後期 | 金曜日 | 2時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教官名 | 今田 雄三 | 回答者数 | 46名 | | |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|----|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 29 | 16 | | 1 | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | - | - | - | - | - | - |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 35 | 11 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 39 | 7 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 25 | 16 | 5 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 43 | 3 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 24 | 20 | 2 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 21 | 22 | 3 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討論など）をよく促した。 | 30 | 9 | 7 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 36 | 10 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 38 | 8 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 33 | 10 | 3 | | | |
| 14 | 教官の声は聞き取りやすかった。 | 13 | 24 | 8 | 1 | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | - | - | - | - | - | - |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 30 | 14 | 2 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 37 | 9 | | | | |

＜分 析＞本授業は毎回実際の事例を提示し、受講者全員が個人演習用紙に記入した上で、少人数のグループに分かれてディスカッションを行い、グループの見解を集約し全体へ発表するという形式を採用した。さらに次回の授業では、必ず前回の事例演習の記載を集計し、受講者の着眼点の傾向を提示したり、疑問点として挙げられた事柄については補足して説明する等、受講者へのフィードバックを行った。なお本年度の受講者の7割強が臨床心理士を目指すストレートマスターであり、現職教員や将来教職を目指す者は2割程度であったことを勘案して(4)の質問文を「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」と修正してある。

受講生の大半が授業に主体的・積極的に取り組み、授業は満足できるものであったと回答していた。全ての質問項目において評価の平均点は4点を上回っており、本授業は非常に高い評価を得られたものと考えられる。ただし、3「どちらともいえない」との回答がやや多かった項目である(5)「授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった」、(9)「受講生に授業への参加（質問、発言、討論など）をよく促した」、(14)「教員の声は聞き取りやすかった」などの点については反省し次年度に改善を心がけたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「精神保健・精神医学の実践的な知識を得ること」「事例を見立てる能力の向上」「臨床実践力を身につけたい」「心理療法の実際を学び、今後自分のケースに役立てたい」と回答した者が多かった。

他には「自分に足りない部分や考え方の癖を見つけようと思った」「ケースの疑似体験として」「事例の見立てにおける理論の生かし方」「グループディスカッションにどう臨むか」といった各自のニーズや問題意識と関連した回答もみられた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「子どもにかかわる上での知識や連携の必要性を学んだ」「具体的な事例に則した授業だった」「臨床現場の様子を知ることが出来た」「対応の実際を学べた」「事例を見立てる力がついた」「自分の知識不足を再確認できた」「知識の事例への活用の仕方がわかった」「事例に対する尊敬の姿勢を学んだ」「主体的に考えることが出来た」「視野を広く持つことの大切さを知った」「毎回新たな発見があった」「授業の形式がよく考えられたものだった」「教員が毎回全員にフィードバックするなどの、受講者への姿勢からも学ぶところがあった」などと評価する意見が多かった。

今後とも授業内容と教師の実践力の育成との関連をより明確に提示する等の対応・工夫を行うようにしたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この授業の良かった点としては「とにかく非常によい授業だった」「さまざまな事例が学べた」「しっかりした授業計画だった」「教員の熱心な姿勢が感じられた」「フィードバックが励みになった」「グループ討論が出来たのがよかった」などの回答が多数寄せられた。

改善して欲しい点としては「グループ討論の時間をもう少し長くして欲しい」「事例のプライバシーへの配慮の問題があるとは思いますが、持ち帰れる資料があった方がよかった」「（臨床心理士養成コース以外の）他専攻からの受講者に対し、専門用語などをもう少しわかりやすく説明して欲しい」などの意見も寄せられた。

上記の意見を踏まえて、今後更に受講者のニーズに合わせた授業となるように工夫したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、具体的な事例を毎回提示し、まず受講生一人一人が、診断や見立て、具体的な支援の方向性、事例本人や家族の心理等について、「自分はどうか考えるか?」「どう対応するか?」という点について個人演習を行い、次に小グループに分かれて各自の意見を述べ合い、グループとしての見解を集約して全体に発表するという形式で行った。また個人演習に対してきめ細かくフィードバックを行った。こうした授業実践を通して、学校精神保健の知識の習得と、心理的な困難を抱えた事例に関わる際に求められる実践力の養成に高い効果が得られたものと思われる。

今後も、個別の事例を検討することを通して、学校精神保健の知識を習得するのみにとどまらず、より普遍的な「現場での支援のあり方・実践力」を身につけた現職教員・臨床心理士を養成することに寄与する授業となるよう、演習課題等を工夫していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|---------------|-----|-----|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 31日 | | |
| 授業科目名 | 特別支援教育学研究論Ⅱ | 学期・曜日・時限 | 前期 | 木曜日 | 3時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 大谷博俊 | 回答者数 | 9名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 7 | 2 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | 3 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 7 | 2 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 7 | 2 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 8 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 6 | 1 | 1 | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | 4 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 8 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 7 | 2 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 6 | 3 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 6 | 3 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 4 | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 6 | 3 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 7 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 3 | | | | |

<分 析>

授業に対する満足度は高い。授業内容、参考資料等の準備、評価方法の提示等が適切であったためであると考え。また受講生の授業に対する姿勢は主体的・積極的であり、受講生の期待に応えることのできた授業であったと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

受講者の問題意識（期待）は、特別支援教育に関わる諸課題と特別支援教育実践に必要な支援の方法の探求であると考ええる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

授業を通じて常に、特別支援教育研究論文に基づく科学的で多面的な捉え方が要求されたためであると受講生は評価している。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

特別支援教育実践に関わる研究論文をはじめとする研究資料を豊富に準備していたことを受講生は評価している。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義では、特別支援教育の実践を強く意識し、教育的課題となるであろうと予想される事柄を中心に内容を構成した。また支援方法についても数多く紹介するよう心がけた。これらの点は、受講生に高く評価されており、今後も継続していきたいと考える。

授業を進める早さについては、受講生の知識、経験等の違いを踏まえて、再度、検討する必要があるかもしれない。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|---|---------------|--------|-----|
| | 評価実施日 | 平成 21年 2月 24日 | | |
| 授業科目名 | 特別支援教育学習支援演習 | 学期・曜日・時限 | 後期 月曜日 | 4時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | 島田 恭仁 | | 回答者数 | 5名 |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評価項目 | 評価番号 | | | | | |
|----|--------------------------------|------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 0 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 0 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 0 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |

<分 析>

問16で受講生5名中5名全員が、5または4の高い評価を行ったことから、すべての受講生が授業に主体的・積極的に取り組んだことが分かった。LDの中心的なケースであるディスレクシアに関して、近年行われた大規模な調査研究や、心理・生理・病理についての新しい知見を紹介したこと、アスペルガー障害の児童の個別指導計画を具体的に作成する演習を行ったこと等により、授業への興味・関心を喚起できたと考えられる。また問7・12でも全員が高い評価を行ったことから、授業の進度と配布資料は適切であり、授業内容を浸透させることには成功したと言える。

しかしながら、問1では3の評価が多かったことから、授業計画と授業内容とのギャップを感じている受講生がいることが示唆された。授業計画では知的障害と発達障害をテーマに挙げたが、授業中には発達障害にウェイトをかけて説明を行ったためであろう。次年度は、シラバスの各事項への時間配分を厳密に行えるように、授業の進め方を工夫したい。

2 アンケート【2】の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「発達障害児への支援のしかたを学びたかった」という趣旨の回答をした院生が多かった。今回の授業では、アスペルガー障害の児童の個別指導計画を作成する演習を行い、グループでディスカッションをしながら、指導領域、短期目標、使用教材、指導手順等のことについて、具体的に検討する機会を設けたため、これらの院生のニーズには応えることができたと思われる。

また「発達障害児の認知特性を過去の様々な研究から学びたい」という趣旨の回答をした院生がいた。今回の授業では、LDの中心ケースであるディスレクシアに関して、近年行われた大規模な調査研究を紹介した上で、最近になって解明されてきたディスレクシア児の中樞神経機能の特性について、心理学的・病理学的に概説したことにより、これらの院生のニーズにも応えることができたと思われる。ただし、こうした近年知られるようになった知見の説明に多くの時間を費やしたため、シラバスの他の部分での説明が幾分手薄になった事は、反省すべき点である。次年度は、これらの知見について、もう少し要約的に述べられるように、講義ノートの作成のしかたを工夫したい。

3 アンケート【3】の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」とについて、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「教師の実践力の育成に役立つ内容であったか？」という問いに対して、5または4の評価を行った院生は5名中4名であった。「発達障害の特徴がよく分かった」「具体的な資料で演習できた」という点が主な理由として挙げられた。従って、発達障害に関する専門的な知見を紹介した上で、個別指導計画作成の演習を行うという流れで授業を進めたことが、教師に求められる実践力を育成するのに有効であることが確かめられた。

一方、「教師の実践力の育成に役立つ内容であったか？」という問いに対して、3の評価を行った院生が5名中1名いた。「知識的な内容が多く、実践的な内容が少し乏しかった」という点が主な理由として挙げられた。従って、個別指導計画作成の演習を行った後、さらに、実際の指導場面をイメージ化できるようにロールプレーを行う等、実践的内容を一層充実させる工夫が必要であることが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この問いへの回答数は少なかったが、「専門的な説明が多く理解が難しかった」という趣旨の回答をした院生がいた。受講生が5名という少人数のクラスであったが、特別支援教育専攻以外の専攻・コースに所属する院生もいて、有している基礎知識の量に個人差があったためと思われる。発達障害に関する近年の専門的な知見を紹介することは重要であるため、基本的には今後も同様の方針で臨むが、基礎知識の地ならしができるように、授業の初期に入門書を幾つか紹介することを慣例化したい。

また、「期末の課題を早めに提示して欲しい」という要望があった。しかしながら、授業の終盤で行う個別指導計画の作成演習を踏まえて論文文を行うため、課題の提示時期を早めることには一定の限界がある。授業の進度をもう少し早め、終盤に差しかかるまでに重要な演習と課題提示を終え、その後は、ロールプレー等を通じて知識の定着を図る等の工夫を加えたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

今年度の成果の1つは、LDの中心的なケースであるディスレクシアに関して、近年行われた大規模な調査研究や、心理・生理・病理についての新しい知見を紹介したことであり、授業への興味・関心を喚起することに役立った。また授業の進度と配布資料は適切であったことが分かり、授業内容を浸透させることには成功したと言える。ただし、受講生が有している基礎知識には個人差があるため、授業の初期に入門書を幾つか紹介する等の工夫を加えて、知識の地ならしを行うための自習を慣例化することが、今後の課題として挙げられた。

もう1つの成果は、アスペルガー障害の児童の個別指導計画を具体的に作成する演習を行ったことであり、教師に求められる実践力を育成することに役立った。ただし、実践的な内容を一層充実して欲しいという要望もあったことから、個別指導計画作成の演習を行った後、さらに、実際の指導場面をイメージ化できるようにロールプレーを行う等の工夫を加えることが、今後の課題として挙げられた。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|-----------|-----------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成21年2月13日 | | |
| 授業科目名 | 社会資源開発運用・連携論 | 学期・曜日・時限 | 後 期 火 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 (4) 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 井上とも子 | 回答者数 | 5 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|-----------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。4.4 | 2 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。4.4 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。5 | 5 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。4.8 | 4 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。3.6 | 3 | | 1 | 1 | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。4.8 | 4 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。4.4 | 2 | 3 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。4.6 | 3 | 2 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。5 | 5 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。4.6 | 4 | | 1 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。4.8 | 4 | 1 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。4.8 | 4 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。4.8 | 4 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。5 | 5 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。4.2 | 2 | 2 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。4.4 | 2 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。4.8 | 4 | 1 | | | | |

<分 析>

概ね評価点4以上であったが、項目5のみ平均3.6であり、成績評価の方法について提示が具体的ではなかったと評価されている。

授業の受け方、課題のねらいについて授業の中で示してきたが、さらに、レポートの評価の観点等を具体的に課題提示時に示すなど、わかりやすくする必要があり、今後の改善点と受け止めた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析>

特別支援教育コーディネーターを指名されたときに、活かしたいと考えたと1名のみ記述している。自ら開発する姿勢を持たせる学びにするために、オリエンテーション時に授業の目的をさらに具体的に示し、自身の課題意識を確認して授業に臨ませるような配慮が必要であった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析>

この授業の受講生は、全員が現職教員である。現場に戻ったときに役に立つ情報を得ることができたり、特別支援学校の見学と管理職との意見交換、問題点や改善点を考えるレポート内容であったりし、特別支援教育コーディネーターとしての必要な視点を示されたなど、実践に活用できる内容であったと記されている。福祉等教育機関以外の見学を望んでいる。

自身で社会資源の開発を進めるという当初の目的は、やや曖昧になったと授業者としては感じている。徳島県下の資源開発や運用は他の地域から来ている院生には、必要感という点で、課題が残った。今後、他地域から来ている院生にも積極的に自ら資源開発をする姿勢で授業に臨める工夫が必要である。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業の一環で、一カ所特別支援学校の見学を実施し、管理職との意見交換を行ったが、福祉等、教育機関以外のところも見学したいとの希望があった。

この授業は、自ら、他機関と交渉し、見学したり資料を集めたりするなどの授業であるが、教員主導の見学を望んでいるところは、十分この授業の目的を理解できていないことであり、当初に、目的を明らかに伝えておく必要があった。

5 本授業の成果と今後の課題について

当初の目的は、受講生自ら特別支援教育コーディネーターとして、その役割を果たすために活用する社会資源を開発することも課題に盛り込み、教育現場に戻った際にコーディネーターとしての力を即、発揮できる実践力を養うことであった。しかし、連携の重要性、必要性に関して、十分に理解が成されなかったためか、開発できた社会資源が少なかった。このことから、今後の課題として、「自ら主体的に開発すること」を、授業開始時に評価点として提示するなど、主体性を重んじることを伝える工夫が必要であると考えられる。

開発の際に他機関への配慮、交渉上の留意点などは、事前に気がつくようになっており、配慮ある連携ができるようになったものと評価でき、その面に関しての実践力は培われたと考えられる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|-----------|--------------|-----|-----|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成21年 2月 16日 | | |
| 授業科目名 | 特別支援教育コーディネーター実地教育 | 学期・曜日・時限 | 通年 | 木曜日 | 2時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 井上とも子 | 回答者数 | 3名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | | 2 | 1 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | | 2 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | | 3 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | | 3 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | 1 | | | 2 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | 3 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | | 2 | | | | 1 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | | | | | | 3 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | | | | | |

<分 析>

授業の内容が指導実践であったため、教科書や視聴覚機器の使用はなかった。事前事後指導は、院生のビデオ分析と話し合い、指導案の検討が中心であり、教員はスーパーバイズをする役割であったため、講義形式の評価とは異なる結果になったことは当然である。この授業で、16、17項目が全員、評価点5を付けていることはこの授業内容とねらいは妥当であり、全体の院生評価も良好であったと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

コーディネーターとして活かせる技能の習得と、発達障害児の指導の在り方、指導内容を学びたいと授業に臨んでいた。

指導臨床授業であり、実践力を高めることがねらいであることを十分認識して授業に臨んだことがわかる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

指導や相談をとおして、まさに特別支援教育を実践する授業であったと述べている。

発達障害児を対象に就学前指導を、実際に行う授業であり、このほか、附属特別支援学校の教育相談に関わり、発達検査やその記録を担う内容であった。これらを遂行することによって、また、3人で多くの時間を就学前指導のための準備、ビデオ分析に割いたこと、充実した話し合いと、それをもとにした指導が行え、子どもの状態が改善の方向に向いた実感を得たことから、内容として実践力を養うものであった実感が強かったものと分析する。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

他の講義も含め、これまで大学院で学んだことが、この授業の中で、PDCAサイクルによって指導を進めるなど実践できたこと、また、自ら主体的に学ぶ姿勢で取り組めたことがよかったと述べられ、改善点などは示されていなかった。

この授業をとおして、3名共に実践力を身につけられたと実感するに至った。これは、大学内で、実際の子どもの指導場面を設定することにより、主体的な学びを構成できたと考える。

5 本授業の成果と今後の課題について

子どもの変化を教員、院生共に確認し合いながら、指導毎に指導案を点検、指導するなど、スーパーバイズすることによって、実践力を高めることができたと考える。何より、院生自身が、「十分、学びに時間をかけた」実感、「子どもを良い方向に変化させることができる」実感を持つことができたことは、この授業の成果である。

今後、参考となる資料や文献をより多く示し、指導内容の根拠を示しながら指導することが必要と考える

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|------------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 7 月 31 日 | | |
| 授業科目名 | 国語科授業研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 木 曜 日 2 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 幾 田 伸 司 | 回答者数 | 4 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 1 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 3 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | | | | | 2 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 4 | | | | | |

<分 析>

本講義は受講生が4名（聴講生も含めると6名）ときわめて少なかったこともあり、授業のほとんどを受講生とともに考えるワークショップ形式で進めることができた。そうした要因もあり、授業全体に対する評価は非常に高い結果が得られている。可能な限り、次年度以降もこのタイプの授業進行を継続していきたい。

ただし、評価方法の具体性については若干不徹底だったと受け取られている面もあり、今後の課題として残される。オリエンテーション時に説明しただけでは徹底しないということであろう。出席状況、授業態度、レポートを総合的に評価するという評価方法を取っているため、随時、受講生と合意を取っていくことが必要であったと考える。なお、視聴覚機器は使用せず、必要な資料は紙媒体で提示した。項目11については、記入不要という指示を行なった方が適切であったと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答としては、「授業力を向上させるため」「自分の授業を見直し、今後の実践ヒントにつなげるため」などがあった。現職院生、学部卒院生ともに、「授業実践力」をキーワードとして、共通する問題意識を持って受講している。

本講義では、「教材研究」「学力」「学習者」といった、実践を意識したキーワードを掲げてシラバスを作成しており、講義の意図と受講生の問題意識とが合致している。そうした受講動機と講義内容がうまく重なったことも、授業に対して高い満足度が得られて要因として挙げられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からは、「物語教材の読み方や現代の国語教育の問題を知ることができてよかった。」「具体的に教材研究ができ、色々な意見を聞くことができた。」「具体的な内容でありながら、そこから今後やっていく上での考え方の基本みたいな物を考えることができた。」といった回答が得られた。授業者としては、具体的な課題をともに考える中で、教材分析の目的と方法、学習者把握の方向、学力についてのとらえ方などについて各自の指針を持つ契機にしてもらいたいと考えていたので、こうした評価コメントには非常に勇気づけられた。

ただし、本年度は受講生が少なかつたうえに、問題意識の高さ、国語科の授業についての既有知識の豊富さといった面で、高いレベルにある受講生がそろっていたため、授業の内容をより豊かなものにできたという面もある。受講生の多様な問題意識に対応することが必要な場合も想定して、今年度の方角を生かしていけるように次年度以降の授業を構想したい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

満足度の高さを反映して、改善点は挙げられておらず、今のままでよいというコメントもあった。

昨年度は講義を中心に進めたため、授業内の受講生の発言機会を多く取れず、また発言も現職院生に偏ってしまった。こうした反省点をふまえ、全員の発言機会が保障できるように今年度から授業形式を変更した結果、高い評価が得られた。したがって、基本的には今年度のようなワークショップ形式を踏襲して授業を構想する方向が適切であると考え。

5 本授業の成果と今後の課題について

本年度の成果は、授業内容をより実践に近づけ、さらに授業の進行方法としてワークショップ形式を採用したことにより、ほぼすべての受講生に対して、受講動機に合致した、高い満足度を得られる授業を実施することができた点である。受講生とともに考え、ともに作り上げていく授業がより意義深いのは自明であるが、今年度は若干はそうした授業を実施できたようである。もちろんこの結果は、受講生が積極的に発言し、授業に参加して下さって初めて可能であったことである。

本年度の評価結果が良好であったことは、今後の指針として有益であったとらえている。一方で、今年度のように受講生全員が同じ方向を志向した上で、自身の見解を述べることができ、しかもそれが多様な広がりを持つ場合ばかりであるとは限らない。多様な受講生に対応したうえで、今年度のような授業を実施できるように、授業者自身の引き出しを増やしておくことが必要である。

また、評価方法の周知については課題として残されている。検討したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|-----------|-----------|-----|-----|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成20年8月1日 | | |
| 授業科目名 | 英語科教育特論Ⅰ | 学期・曜日・時限 | 前期 | 金曜日 | 1時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 (4.) 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 伊東治己 | | 回答者数 | 6名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | 1 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 6 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 4 | 1 | | | | 1 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 6 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 5 | | | 1 | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 5 | | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 6 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 5 | | 1 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 6 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 6 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 5 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 6 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | 1 | | | | |

<分 析>

まず、評価の対象となった17項目全体の評価平均値は4.81(昨年度は4.75)、最高が5.00、最低が4.50で、受講生からは概ね好意的な評価を得ることができたと言えるであろう。次に、評価項目ごとに結果を分析してみると、全員から5の評価を得たのが「3 授業の内容には一貫性があった」、「4 教師の実践力の育成に役立つ内容であった」、「6 授業をよく準備し、熱心に教えた」、「9 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した」、「11 視聴覚機器の使用は適切であった」、「12 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った」、「15 板書の文字は見やすかった」の7項目である。逆に、相対的に評価が低かったのは、「2 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った」、「7 授業の進む速さは適切であった」、「16 授業に主体的・積極的に取り組んだ」の3項目で、いずれも平均値は4.50であった。これらは、平均値としては高い部類に入るが、来年度への反省事項として押さえておきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

この質問項目に対しては、3名の受講生から回答が得られた。具体的には、

- ・英語を中学生に教える上で、いい方法はないかなと思った
- ・どういう基本的な考えで教えればよいかを知りたかった
- ・英語教育の授業に役立てたいと思って受講
- ・自分の研究分野に関連していたので。

というコメントが寄せられた。これらは、いずれも授業シラバスに示された授業のテーマを十分意識したものであったと言える。しかも実践的な指導法の習得が意識されており、授業実践力を育てるという要請に応える上でも、今後の授業の立案においては、この点を今以上に意識し、具体化していくよう努力したい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この質問項目に対しては、4名の受講生から回答が得られた。具体的には、

- ・現状をふまえた具体的な考えをたくさんいただいた
- ・授業を創っていくことができた
- ・現場に帰って一番役に立つ実践的授業であった。
- ・内容が実践的で、教師に求められる実践力を身につけるための素地ができた

というコメントが寄せられた。いずれも授業の2本柱のうち、コミュニケーション活動を取り入れた模擬授業（マイクロティーチング）に対して好意的評価をしたものであり、実践力の育成する上での模擬授業の有効性を再認識させられた。今後も、模擬授業を核としながら理論と実践を融合させた授業改善に取り組んでいきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この質問項目に対しては、2名の受講生から回答が得られた。良かった点としては、

- ・授業がインタラクティブで、教師からだけでなく他の受講生からも多くのことを学ぶことができた。
- ・学生が参加する機会がふんだんにあり、教師がいつも受講生に考えることを促していたのが良かった。

というコメントが寄せられた。

次に、改善点としては、

- ・少し難しすぎて、ストレートの私にはついていくのが大変でした。現職の先生方に向いていたと思います。

というコメントが寄せられた。一昨年度当たりから、ストレートで進学してきた受講生からこの種の改善点が寄せられるようになってきた。授業を実践的にすれば、教授経験がないストレートマスターの受講生には、内容が難しく感じられるのかもしれない。この点は、今後も検討課題として、「実践的」の中身を慎重に吟味していきたい。なお、本年度7名の受講生の内訳は、現職が3名（小学校、中学校、高等学校各1名）、ストレートマスターが2名、留学生が2名となっている。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業に寄せられた受講生からの授業評価の結果を総合的に判断する限りにおいては、受講生の教育実践力を高める上で一応の成果が得られたものと考えられる。具体的な成果としては、学習指導要領でもその重要性が強調されている「実践的コミュニケーション能力」を英語授業の中で育成していくための方略、特にコミュニケーション活動やタスク活動について一定の理解を受講者に授けることができたと思う。因みに、授業への満足度は、昨年度の4.75から、本年度は4.81に上昇している。

なお、一昨年の評価において、マイクロティーチングと論文講読を1時間の授業の中で行ったことに対して、負担が加重で不消化に終わってしまったという意見がいくつか寄せられたので、本年度は、マイクロティーチングの割合を増やし、論文講読の割合を減らして、授業を実施した。その結果、ストレートマスターの受講生には割合が減少したにも拘わらず、まだまだ論文講読が重荷になっているようであるが、マイクロティーチングの割合が増えたことは現職や留学生（教員研修留学生）には好評であったようである。論文講読をなくせば、マイクロティーチングを支える理論的考察が不十分になるので、単なる技術指導に終わってしまう危険性がある。今後も、この理論と実践の理想的な連携を慎重に模索していく必要性を感じている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|---------------------------|-----|-----|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 21 年 2 月 4 日 | | |
| 授業科目名 | 英語科教育演習Ⅱ | 学期・曜日・時限 | 前期 | 水曜日 | 1時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 山 森 直 人 | 回答者数 | 3 名 | | |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

{
5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない
}
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 3 | | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 3 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | | | | | 1 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 1 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 1 | | | | |

<分 析>

学生の評価はほぼ評定5あるいは4であり、全体的に高評価であった。

特に今回は受講生全員が教職経験のない学生であったため、授業中に英語授業実践事例を視聴する時間を多く設けた。また受講生が3名であったこともあり、学生の理解や考えを確認しながら授業を進めることができた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ どのような授業がよい授業なのか？
- ・ ベテランの教師の授業の教材・進め方を学びたい
- ・ 「良い」授業が自分でまだよくわからないので、先生がいろんなタイプの良い授業を見せてくださったので良かった。最初に小→中で見ると言われていたもので、どちらも見る事ができるのは期待していたので良かった。

さまざまな英語授業を具体的に視聴することを学生は期待している。今回は受講生全員教職未経験者であったため、つとめて実践事例を紹介したが、結果的に受講生の期待にかなっていった。受講生の問題意識や期待をふまえながら、紹介する実践事例を整理していきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ ベテラン教師の授業を観る機会が多かったから
- ・ どのような英語を使用しているかわかったから
- ・ 英語だけでなく、どのように授業を運営していくのかが勉強になったから
- ・ 授業を観るときの視点を学ぶことで、自分が授業を作ったり実践する時に客観的に見たり今までとは違った視点をもってできるから
- ・ 「教師に必要な英語力」を3回に渡って考えるので、授業を受けてどんどん自分が考える「必要な力」が変わっていったし、今まで必要だと思っていたものについてももっと深く具体的に考えることができたから。

英語指導者になるために準備すべき英語力や授業分析の観点などを学生に意識づけできたようである。教職未経験の学生が英語の授業運営に必要な英語力や授業分析の観点についてさらに本人なりの考えをもつことができるような授業進行を考えていきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ ストレートの学生にとってベテランの教師の授業はとても参考になる
- ・ 英語だけでなく、子どもとの接し方、教室運営を学ぶことができた
- ・ 他の授業でmoodleに感想を書く（現職さんの熱弁の後に書く）のが妙にプレッシャーだったので今回はそうでなかったのが気後れなく受けられました

一意見ではあるが、教職未経験の学生は現職学生と一緒に授業を受けるなかで少なからずプレッシャーを感じているようである。そのプレッシャーを取り除き、両者がそれぞれの持ち味を活かして相互に成長するような授業運営のあり方を追究することが今後の課題である。

5 本授業の成果と今後の課題について

さまざまな授業実践事例を紹介し討論することの手応えや有効性を感じることができたことが今回の成果である。今後は実践事例でもどのようなものを視聴させるべきか、また、どのような観点から視聴させるかなど検討していきたい。さらに、教職未経験の学生と現職学生の持ち味を活かした学びの場を仕組んでいくことや、学生各自が自分自身の英語授業観を育てていくような授業の進め方を考えたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|--------------------------------|---------------|-----|---------|
| | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 28日 | | |
| 授業科目名 | 社会科教育学研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 水曜日 2時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 | | | 4. 専門科目 |
| 担当教員名 | 草 原 和 博 | 回答者数 | 8 名 | |

1 アンケート【1】の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 7 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 7 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 8 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 6 | 2 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 6 | 2 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 8 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 5 | 2 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 6 | | 2 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 7 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 6 | 1 | 1 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 6 | 1 | 1 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 7 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 6 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 6 | 2 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 6 | 2 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 5 | 2 | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 7 | 1 | | | | |

<分 析>

おおむね受講生の満足度は高かった（問17）。ほぼ全ての項目において、評点5が7～8割あった。とくに授業内容の一貫性（項目3）では、全ての受講者が評点5を与えている。全般的な高評価は、①社会科授業論の体系（対立と相克の関係）をビデオや指導案等の資料に即して検討するとともに、②各論の得失をめぐって受講者のディスカッションを促したこと、③初回の講義時に学習資料を精選して編集したコースパッケージを配布したこと、などに起因すると解される。

他項目と比較して、幾分、評点4/3が多かったのは、進度の速さ（項目7）、理解度の確認（項目8）、授業への主体的な取組（項目16）などだった。とくに項目7と8の低評価は、教員の授業展開の拙さに起因すると解される。来年度は、講義内容にゆとりを持たせる、あるいは受講生の理解度を丁寧に確かめるなどの工夫を凝らしたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

(回答の抜粋)

- ・社会科教育の基本に立ち返って、「社会科とはどういう教科か」という問題意識をもって。
- ・教師として授業をどのようなことに基づいて行えばいいのか、に関する知識を習得したい。
- ・社会科教育における様々な問題点や解釈を理解したい。
- ・社会科を教えるにあたって、どのような目的・方法論で教授すればいいのか、知りたい。
- ・社会科の基本原則を押さえた上で、教育実習先での授業に役立てたい。
- ・教師としてどのようなスタンスで授業に臨めばいいのか、解決策を知りたい。

いずれの院生も、学問的な関心と実践的な関心、両方を携えて受講していることが読みとれる。

教科教育分野の授業では、とかく教育実践の側面が強調されやすい。しかし、上の回答を読むかぎり、受講生は、①社会科とはどういう教科か、どのような指導法があるかを体系的に説明するとともに、②今後の実践に活用していける「原理」や「方法論」の学習に期待していることが伺える。

学問性を薄めて技術的な問題に終始しては、必ずしも学生の大学院教育に対するニーズに応えることはできない。本講義が一定の評価を得たのは、「教育実践の科学的研究」という受講生のアカデミックな要請にある程度応えることができたためと解される。また、上述のような講義のねらいと展開をシラバスに詳述しておくことで、教員と受講生の意識のズレを避けることもできた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

(回答の抜粋)

- ・基本に立ち返って、教科について学ぶことができた。
- ・教科論や具体的な方法論を知ることができた。
- ・これさえ覚えておけば、社会科の授業づくりの手助けになる。
- ・様々な実践例や理論を学ぶことができた。
- ・単純に暗記型の授業しか身に覚えがなかったので、そういった面で多様な授業の方法を知ることができた。

多くの受講生は、「実践力の育成」に役立つ内容を、①教科論・方法論の習得と②充実したケーススタディーに求めている。

本講義では、①(教員) 次時の内容理解に役立つ課題を出し→②(院生) その課題に指導記録や授業VTRの分析を通じて回答する→③(院生) 回答を参照しつつ院生相互の議論を深め→④(教員) 教員の総括のもとに概念構築をはかる、という展開を採ってきた。このような「ケーススタディー」と「事例研究の理論化」の有機的な連携が、本項目の高評価につながったと考えられる。引き続き、「社会科授業の分析論・開発論を、実践の事実即して探求させる」指導を洗練させたい。

なお、「パフォーマンスを交えてエネルギッシュな授業で、受講生をひきつけるテクニックが参考になった」と答えた受講生もいた。受講生が考える「実践力」の幅はきわめて広い。教育学の場合、講義の内容だけでなく、講義のスタイルまで評価されていることを肝に銘じたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

(回答の抜粋)

- ・全体の講義の構成がしっかりできており、最後に「そうだったのか」と納得できる内容だった。
- ・具体的に研究論文、授業を通して具体的に説明していただいたので、それぞれの授業の分類がたいへん分かりやすくてよかった。
- ・課題に基づいて授業を進めていたので、自分の問題意識を授業中に解決していくことができた。
- ・ほぼ毎週の課題がきつかったが、為になった。

本講義に対する好印象は、以下の3点に整理できる。

- ① 教育内容が論理的に構成されており、理解を段階的に深めることができた。
- ② 論文・授業記録の読み取り (= 予習) と予習課題をめぐる共同討議 (= 講義) を繰り返すことで、問題意識を継続的に深めることができた。
- ③ 体系的な理論と具体的な事実・事例が対応しており、分かりやすかった。

予習課題と共同討議の往復学習は、例年、高い評価を得ている。この点については、来年度以降も継続させたい。改善すべき点については、とくに指摘がなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

1～4の自己評価を踏まえ、成果と課題を箇条書きにまとめる。

(授業の成果)

- ・具体的な実践 (論文・授業記録) の分析を通して、社会科の教科論・方法論を探求させることができた。受講生も、社会科教育学の研究成果を学ぶことに意義を見出していた。
- ・社会科の教科論・授業論の学習は、受講生がこれまでに実践してきた授業、あるいは、これまでに受けてきた授業の意義と課題を省察させる上で有益だった。

(今後の課題)

- ・授業進度の速さについて問題提起を受けた。受講者には、本講義で始めて社会科教育学に接する院生も少なくない (とくに教員養成プログラムの院生)。よって、初級レベルから中級レベルまで、教育内容の射程を広く採らなくてはならないため、どうしても多くの概念・スキルを盛り込みがちになる。来年度は、内容をさらに精選させたい。
- ・例年、「受講生相互のディスカッション」と「ウェブやメールを媒介にしたインターアクティブな指導」が、高い評価を受けている。しかし、今年度は、この点についてのコメントが見られなかった (理由はハッキリしない)。来年度も継続的に実施してみて、有効性を見きわめたい
- ・今年度高く評価された箇所については、さらなる改善をはかりたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|-------------------|-----------|---------------|-----|-----|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 21年 2月 24日 | | |
| 授業科目名 | 社会科授業研究 | 学期・曜日・時限 | 後 期 | 月曜日 | 3時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 ②. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 梅津 正美 | 回答者数 | 4名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 4 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 2 | 2 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 2 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 4 | | | | | |

<分 析>

本講義は、受講学生の社会科授業力、特に授業の事実を分析し評価し、改善案を提案できる能力の育成を目標に展開した。受講生は、全部で5名であった。今学期は、受講生の数が少なかったことをふまえて、授業の構成と分析に関する講義に加えて、受講生による授業の構想・実践・評価・改善の授業力向上研修サイクルを組み込んで展開した。

受講生による授業評価の全体平均点は、4.8であった。本講義は、社会科教師としての教育実践力、特に授業力の形成に努めたが、それに直接的に関わる評価項目(3)(4)(17)の平均値は、(3)が5.0,(4)が5.0,(17)が5.0であった。本講義の目的と内容は、受講生から意義あるものとして評価されたとみることができる。

教員の授業方法や態度についても良い評価を得た。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析>

受講生からの主な回答には、次のようなものがあった。

- 授業研究の場で、適切にコメントをする力を培ったかったから。
- 授業構成の方法について勉強したかった。
- 授業の事実にもとづいて授業を分析する手法を身につけたかったから。
- 授業の組み立て方や教材の選び方、実践的な指導法について学びたかったから。

本講義の目的・内容・方法は、受講生の問題意識・ニーズと概ね合致していると考えられる。今年度は、本科目をPDC Aの授業力向上研修サイクルにもとづいて実施した。受講生の問題意識をふまえると、より適切な授業の構成と展開であったと考える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析>

本項目に対する受講生評価の平均点は、5.0であった。そのように評価する理由については、つぎのような記述がみられた。

- 授業細案を作ってそれを実践し、その授業を皆で検討したので、授業の特長や課題がよく分かった。
- 実際の授業検討会の場のように授業を分析し改善案について議論することができた。
- 社会科授業の構成や内容について様々に理解することができた。
- 生徒の発達段階を考慮した教材の効果的活用について有意義な話を聞くことができた。
- 模擬授業にもとづいて授業の分析や評価の方法を学べた。

本講義は、受講生から教師の実践力形成に意義ある授業として評価されているとみることができ

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

アンケート〔4〕に対する自由記述は、次のような内容であった。

- 授業者が、いつも熱心に指導してくれたのでありがたかった。
- 「教育実践フィールド研究」と本授業の内容がうまく結んで、授業力の向上に役立った。
- 授業時間を延長することがあったので、時間内に授業を終わらせてほしい。

授業担当者としては、社会科授業の類型・特質・課題をより具体的に受講生に把握してもらうために、授業者本人や受講生による模擬授業を組み込む工夫をした。この取組は、受講生からはよい評価を得た。一方で、90分の授業時間の中で模擬授業と合評会を実施することは窮屈で、時に講義時間をはみでることがあった。このことは反省しなければならない。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義の成果は、社会科授業の構想・実践・評価・改善を中心とする授業力の育成をめざした授業の目標・内容・方法が、学生の授業評価を通じてその意義を認められたことである。

課題としては、受講生のキャリアの多様化が進んでいる（現職教員・教育実習を経験したストレートマスター・長期履修プログラム学生等）現状を一層自覚して、授業内容をより具体的で実践的なものにするのである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|---------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 21年 2月 5日 | | |
| 授業科目名 | 社会科教材開発演習Ⅲ | 学期・曜日・時限 | 後 期 木 曜日 4 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 西村公孝 | 回答者数 | 6 名 | | |

1 アンケート【1】の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 5 | 1 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 4 | 2 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 5 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 5 | | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 5 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 6 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 6 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 5 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 6 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 6 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 5 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | | | | | |

<分 析>

受講生は6名とこれまでに開講した本授業の中では少人数であった。そのためにゼミに近いきめ細かな指導ができた。評価項目による評価の分析は、大旨、良好であり特に分析に値する項目は見られない。「民主主義」論についてテキストを使い、演習形式の展開と討論を心がけ、受講生の問題意識を引き出すように発言を求めた成果が評価に現れている。しかし、テキストがやや難しく来年度は経済関係の易しいテキストを使用し、受講生の実態に対応した演習に改善したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の意見を参考に分析する。

- ・授業をつくる上での視点、視点を工夫できる力を身に付けたかった。期待にこたえていただいた内容であり感謝している。
- ・公民科の授業を行うに当たっての理論や教材の研究方法を「民主主義」というキー概念の研究を通して身に付けようとした。
- ・公民教育を行うにあたりどのような知識や思考方法を持てばよいのかを学ぶため。

他の三名も公民教育の授業づくりの教材開発論に期待しての受講であり、全員が目的意識と課題を持って取り組み成果をもたらした。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の具体的な意見を紹介することにしたい。

- ・参考文献の紹介は今よりも役立つし社会人になってからも読み続けることのできる文献であった。
- ・授業で先生が熱心に説明し、受講生として私たちの発問とか討議とかさせてくれて勉強になった。
- ・民主主義が自明の理念ではないことが考えられただけでも教師の実践力に役立つと思う。制度として教えるのではなく、現実を伝える助けになるだろう。
- ・実際に授業を行う際に、民主主義をどのような切り口や教材で教えるかは、非常に難しい。この演習では民主主義の思想史的な書物の講読やシチズンシップ教育の実践などにも検討を加えたので非常に参考になった。

受講生の全てが教師になることを目指していないので、実践力の育成に役だったかどうかの評価よりも社会の仕組みの原理となっている民主主義を考えることで、内容理解の面で満足度が高かった。

4 アンケート【4】の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生の意見から良かった点と改善して欲しい点を見てみたい。

(良かった点)

- ・受講生がレジュメを作成してテキストを読んでいくことは要点が分かり読みやすかった。
- ・時折新聞記事や本の一部など関連する資料を配付してくれたので参考になった。
- ・毎回、自分の意見を言ったので訓練になった。
- ・思想を扱ったハードな本をじっくり検討して民主主義をじっくり考えることができて良かった。
- ・裁判員制度のパンフレットなど参考になった。

(改善して欲しい点)

- ・少し文献が難しかった。
- ・裁判所見学や新聞社見学がなくなり残念であった。
- ・社会現場で経験を教材開発に活かす体験を取り入れて欲しかった。

計画当初は現地調査から教材開発をする予定であったが、時間的なゆとりがなく実現できなかった。カリキュラムが過密であり、本学の理念である教育実践力の向上には改善する余地が多いと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の成果と今後の課題は以下の通りである。

(成果)

- ・公民教育のキー概念である「民主主義」について認識を深めることができた。
- ・テキストを活用した演習と討論により、公民教育の授業づくりと方法論を学ぶことができた。
- ・個人の課題をまとめ、発表することにより教材開発演習の基礎となる問題意識を持つことができた。

(今後の課題)

- ・受講生の実態に対応したテキストの選択が課題となる。
- ・公民教育のねらいを達成するためには、現代社会の課題に結び付く現地調査や教材開発に直結する施設等の見学・調査をシラバスに盛りこまなければならない。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 29 日 | | |
| 授業科目名 | 数学科教育学研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 火 曜日 4 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 齋藤 昇, 秋田美代 | 回答者数 | 6 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 ... 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 5 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | 2 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 5 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 3 | 3 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | 2 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 5 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 2 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | 2 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | — | — | — | — | — | — |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | 3 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | 2 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | 3 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 4 | 2 | | | | |

<分 析>

この授業では、算数・数学学習において、児童・生徒が学習内容をしっかりと定着し、創造的思考を活性化するための原理と方法を概説し、その具体的な指導方法として「山登り式学習法」を取り上げ、小・中・高等学校における実践例と対応づけながら講義を行った。

この授業に対する受講者の評価は、すべての項目が「5と4」であり、評価平均値は4.7であった。回答から、特に「教師の実践力の育成に役立ったこと」「受講生が授業に積極的に参加したこと」「受講者にとって、満足できる内容であったこと」等がうかがわれた。11名の受講者のうち2名は留学生であったが、留学生はきわめて熱心であった。

受講者が、算数・数学の学習指導法の原理・教材の開発に興味・関心を高め、理解を深めた様子がうかがわれた。

2 アンケート〔2〕の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 現場で使える効果のある学習指導法を知りたいと思ったから。
- ・ 学力差のあるクラスの指導における留意点を知りたいと思ったから。
- ・ 山登り式学習法の理論や実践方法を学びたいと思ったから。
- ・ 授業実践に役立つ知識を得たいと思ったから。
- ・ 生徒の創造性を高める指導法を学びたいと思ったから。
- ・ 日本の新しい数学の指導方法を学びたいと思ったから。

これらの回答から、受講者は算数・数学の授業において、児童・生徒の関心・意欲、理解力、創造性等を高める具体的な学習指導法について学びたいと思っていることが分かった。特に、「山登り式学習法」の理論、実践方法、効果に強い関心を抱いていたようである。

3 アンケート〔3〕の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 山登り式学習法を学校現場で実践してみたいと思ったから。
- ・ 山登り式学習法の具体的な効果を知り、自分もやってみたくなったから。
- ・ 創造的態度を良好にすることによって、学力や創造性が伸びることが分かったから。
- ・ 具体的な実践例と数値的な裏付けにより、指導方法がよく理解できたから。
- ・ 教師にとって、生徒の創造性を高める有効な指導方法であると思ったから。
- ・ 教師として、生徒の指導法に対するアイデアを得ることができたから。

これらの回答から、受講者が「山登り式学習法」に強い関心を抱き、生徒の理解を深めたり創造性を伸ばす指導方法を身に付け、教員としての資質や実践力を向上させたことが分かった。また、諸外国の教育事情を知ることにより、自国の教育の課題及び改善策等についての理解を深めたことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「良かった点」についての受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 生徒の創造性を高める方法について、みんなで討議できた。
- ・ データを用いて具体的に説明してくれたので、とても興味深く分かりやすかった。
- ・ 私の指導法の課題の1つが解決できた。
- ・ 数学の授業改善に対するアイデアを得ることができた。

「改善してほしい点」についての受講者の記述はなかった。

この授業では、受講者が主体的に活動し自らの考えを発言する場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは、「山登り式学習法」や「学習構造チャート」について理論や実践方法について議論する中で、学習指導方法についての理解を深めたようである。

現場での経験がない学生にとっては、教科書を基に「学習構造チャート」を作成するのは難しかったと思われる。時間があれば、コンピュータを利用して学習構造チャートをつくるソフトウェアを開発して、学生が学習構造チャートの作成を容易にできるような方策をとることも必要であると考えている。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では、算数・数学学習において、児童・生徒が基礎的・基本的な内容をしっかりと定着し、創造的思考を活性化するための原理と指導方法を、受講者の討議を取り入れながら講義した。指導方法については、小・中・高等学校における「山登り式学習法」の具体的な実践例を取り上げて説明した。

受講者は、児童・生徒に「学習内容の構造や数学の概念構造を理解させること」が、「算数・数学に対する関心、学力、創造性等を高めるために必要であること」を理解したようである。受講者は、数学の指導内容・指導方法についての認識を深め、教育実践力を高めたものと思われる。しかし、受講者の発表・討議を多く取り入れたため、多くの題材を取り扱うことはできなかった。次年度は、もう少し時間配分を工夫したいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-----|
| | | 評価実施日 | 平成 21 年 2 月 17 日 | |
| 授業科目名 | 数学科教育学演習 | 学期・曜日・時限 | 後 期 火 曜 日 2 時 限 | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | 齋藤 昇, 秋田美代 | | 回答者数 | 3 名 |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 2 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | 2 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 3 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 2 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | — | — | — | — | — | — |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | — | — | — | — | — | — |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | | | | | |

<分 析>

この授業では、教員としての授業実践力を高めるため、算数・数学学習における課題を題材として、模擬授業を行った。

この授業に対する受講者の評価は、すべての項目が「5と4」であり、評価平均値は4.7であった。回答から、特に「教師の実践力の育成に役立ったこと」「受講生が授業に積極的に参加したこと」「受講者にとって、満足できる内容であったこと」等がうかがわれた。3名の受講者のうち1名は留学生であったが、留学生はきわめて熱心であった。

受講者は、何度も指導内容や教材の修正をくり返し行うことによって、算数・数学の学習指導法の原理・教材の開発に興味・関心を増し、授業実践力を高めたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 創造性教育の具体的な方法を知りたいと思ったから。
- ・ 数学教育について、様々な知識が得られると思ったから。
- ・ この授業は、私の研究内容と関係があったから。

これらの回答から、受講者は算数・数学の授業において、児童・生徒の関心・意欲、創造性を高める具体的な学習指導法について学びたいと思っていることが分かった。特に、児童・生徒の創造的思考を活性化する「山登り式学習法」の理論、実践方法に強い関心を抱いたようである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 具体的な指導内容について討議することによって、新たな知見が得られたから。
- ・ 模擬授業を見ることで、どのような順序で指導すれば分かりやすいかがわかったから。
- ・ 現場に役に立つと思ったから。

これらの回答から、受講者は、模擬授業を通して、児童・生徒の理解を深め、創造性を伸ばす指導方法についての原理と方法を身に付け、教員としての資質や実践力を向上したことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「良かった点」についての受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 具体的な指導内容を討議し考えたことが、とてもよかったと思う。
- ・ どうやって教えるとよいのかがよくわかった。
- ・ いくつかの点で理論と実践の融合ができた。

「改善してほしい点」についての受講者の記述はなかった。

この授業では、受講者が主体的に活動し自らの考えを発言する討議場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは、算数・数学教育の理論や実践方法を議論する中で、理論と実践を融合し、学習指導法についての理解を深めたようである。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では、算数・数学学習において、児童・生徒に基礎的・基本的な内容をしっかりと定着し、創造的思考を活性化するための原理と指導方法を、模擬授業を通して獲得させ、授業実践力を高めることを目的とした。

受講者は、児童・生徒に「学習内容の構造や数学の概念構造を理解させる」ことによって、「算数・数学に対する関心、学力、創造性を高めることができる」ことを理解したようである。受講者は、数学の指導内容・指導方法についての認識を深め、授業実践力を高めたと思われる。しかし、受講者の発表・討議を多く取り入れたため、多くの題材を取り扱うことはできなかった。次年度は、時間配分を工夫したいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 22 日 | | |
| 授業科目名 | 数学科授業研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 火 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ○4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 服 部 勝 憲 | 回答者数 | 7 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

- (5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 2 | 2 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | 2 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 5 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 2 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 1 | 1 | 1 | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 3 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | 3 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 5 | 1 | | | 1 | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 3 | | 1 | 1 | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | 3 | | 2 | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | 3 | 2 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 7 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 6 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | 2 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 4 | 2 | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | 2 | | | | |

<分 析>

受講生の授業評価においても、「2 あまりそう思わない、1 まったくそう思わない、無 未記入」については、その回答の意味を検討する必要がある。この授業においては、「6 授業をよく準備し、熱心に教えた。」「9 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。」「10 教科書や参考書の使い方は適切であった。」「11 視聴覚機器の使用は適切であった。」等の項目である。これらの多くは、授業展開の方法や形態に関わる部分が大きいと考えられる。即ちこの授業では講義形式よりは、受講生の報告、発表、模擬授業による提案の形式を多く採用した。また教科書の1つに絞らずに、多くの教材に触れる機会を多くして、受講生に選択の機会を多くしようとした。こうしたことから従来の受講生の授業像とはかけ離れた部分が多く、上記のような回答が出てきたとも考えられる。ただこうした展開方法は多くの受講生に支持されているのも事実と言えよう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分 析>

- ・授業実践を振り返り、他校種の実践についても学びたいと考えた。
- ・授業を進める上でのポイント、教材の扱いについて学びたかった。
- ・算数・数学の授業のとらえ方を学びたい。
- ・他の受講生の数学の授業に対する考え方を知りたかった。
- ・学校現場で実際に役立つことを期待した。
- ・私が必要とする授業の改善の方法を学びたかった。
- ・数学の授業改善の知識を得るため。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分 析>

- ・教材の扱い、教材研究の視点や各校種での実践について学ぶことができた。
- ・実際に模擬授業をしたり、それに参加できたりしたことはよかった。
- ・今までにない角度から数学の指導を捉えることができ、大変参考になった。
- ・実際に受講生が模擬授業をし、実践力につながると思う。
- ・流れはよかったが、教員の説明が長すぎるところがあった。
- ・模擬授業が多く、改善点を話しあうことで大変実践的であった。
- ・実践的で大変有益な授業であった。
- ・模擬授業の方法がよく分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・模擬授業を取り入れて、実際の授業場面を設定したのは実践的であった。
- ・授業実践できたのは大変よかった。
- ・ビデオ教材を用いて実際の現場の授業を見て、その展開と留意点がよく分かった。
- ・学生には大変だが、毎回の授業に小学校、中学校の内容を組み合わせるともっと面白くなる。
- ・具体的な授業から学ぶことは、大変重要であることが分かった。
- ・数学の授業の見方が変わってきたと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

多様な回答、意見が出てきている。授業展開の部分を評価しての意見もあるが、同時の授業改善につながる貴重な意見もある。例えば、「学生には大変だが、毎回の授業に小学校、中学校の内容を組み合わせるともっと面白くなる。」という意見であるが、これは授業中にも意見として出てきていたものである。即ち、小学校での学習内容と中学校での学習内容のつながりがわかるような2つの授業を模擬授業として実施できないか、ということであり、基礎・基本としての教材、教材の発展・系統等々の意味からも、大変重要である。この意味からこの提案を生かした授業展開を今後考えていく必要があるといえる。まさにこのような視点が欠如してしまうと、教材のつながりを意識しないその時間だけの指導になる恐れがあるからである。来年度以降の担当授業の中で生かしていきたいと考えている。

また模擬授業を中心とした授業形態は実践的であり、よかったとの声が多かった。また授業を通して、「数学の授業の見方が変わってきたと思う。」との回答があった。授業担当者にとっては大変な評価と励ましをいただいたと受け取っている。こうした回答が1人でも増えていくことを目指したいと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|---------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20年 7月 23日 | | |
| 授業科目名 | 数学科教材開発研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 水曜日 3時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 秋田美代, 齋藤 昇 | 回答者数 | 10名 | | |

1 アンケート【1】の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | 2 | 2 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 4 | 3 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | 4 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 8 | 2 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 8 | 2 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 6 | 2 | 2 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 8 | 2 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 8 | 2 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 8 | 1 | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 8 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 10 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 9 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 5 | 3 | 2 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 7 | 3 | | | | |

<分 析>

この授業の目標は、数学教育において指導目標を達成するための教材の活用方法・開発方法について理解することである。授業では、認知科学・脳科学等の研究成果をもとにして、算数・数学学習において児童・生徒の興味・関心を高めたり、学習内容についての理解を深めたりするための教材について考察した。

この授業に対する評価は、ほとんどの項目で「4または5」が多かった。回答から、特に「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」「授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった」「授業の進む速さは適切であった」「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」こと等の様子がうかがわれた。

受講者は、算数・数学の教材の活用方法・開発方法について理解を深め、教育実践力を高めたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 現場に出たときに役立つ教材を研究したり、開発したりするための足がかりになるような情報を得ることを期待した。
- ・ 何が今の授業に欠けていて、何が必要なのかを知りたいと思った。
- ・ うまい教材・教具の使い方、また、目的を明確にした教材・教具の開発方法とその考え方（理論）を学びたいと思った。
- ・ 現場では指導法の研究を中心に行っていたので、教材研究及び教材開発について深く学びたいと思った。また、中学校・高等学校で使われる教材について学んだ内容を、小学校の授業に生かすことができると思った。
- ・ 「違う視点があるかもしれない」「数学の教材を新たに見つけることができるかもしれない」「自分の好きな分野で、研究のヒントが見つかるかもしれない」という期待。
- ・ 発表する機会が多そうだったので、発表が上手になれることを期待した。

これらの回答から、受講者は算数・数学の授業における教材研究・教材開発の重要性を認識し、算数・数学科担当教員としての資質・能力を向上させるため、関心・意欲をもって授業に取り組みようとしていたことがうかがわれた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 具体的な事例がイメージしやすく、力になった。
- ・ 子どもを指導する上で、どのような教材が有効なのか、よい教材も使う教師に実力がないと無駄になってしまう等、様々な実践力、実践方法、考え方を学べる授業だった。
- ・ 数学の一つ一つの要素を、細かく考え直す機会になった。
- ・ 教材研究、教材開発についての個々の課題を明らかにしたうえで、グループ研究に取り組めたのがよかった。各校種段階での課題も把握できたので、今後の実践に生かすことができると思った。
- ・ よりよい教材・教具の使い方やその開発、またそれらを通して現在の教育現場に何が求められているかといった内容が多くあった。
- ・ 「自分の考えをまとめて説明し、質問を受けたり考えたりすること」「準備を学生もしなければならぬこと」「数学の知識を活用して、授業の発表をすること」「分かるように伝える訓練になっていること」「学生の考えを引き出そうとしたり、考えに気付かせようとしたりするの、答えのないところ」。
- ・ 実際に教材を考える時間があり、また、他のグループの研究についても発表を通して考えることができた。

これらの回答から、受講者は児童・生徒の算数・数学に対する興味・関心を高めたり、学習内容についての理解を深めたりするための教材の開発に強い関心を抱き、主体的に教材研究・教材開発についての研究を行ったことがうかがわれた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業のよかった点については、4名の受講者が「受講生が考える場面が所々でありよかった。」「現在の教育課題について学ぶことができてよかった。日常の事象に目を向けたり、教材に潜む数学的な性質をとらえたりすることの大切さを具体的に学ぶことができた。」「授業を行うのが楽しかった。」「授業には、全ての学生が、教材や教材開発についてのアイデアを発表する場面があり、多くのよい視点を得ることができた。」と回答していた。

授業の改善してほしい点については、1名の受講生が「出席で何点とか、テストは何点満点にするとか、テスト等の取り決めをはじめにいてほしい。」と回答していた。

この授業では、受講者が主体的に活動できるように、数学の授業で使用する教材に対する考えを発表したり、自ら開発した教材を紹介したりする場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは、「児童・生徒の算数・数学に対する興味・関心を高める教材」「知識の定着を図る教材」「算数・数学的な技能を高める教材」「数学的な考え方を身に付けさせる教材」について議論し、どのような教材が適切であるかを具体的に考える中で、他の受講者の考え・意見を聞き、自己の考えを一層練り上げていったようである。学習教材の意味・使用方法等について考えることを通して、教材研究・教材開発についての理解を深め、授業に対する充実感を得たものと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業の目標は、数学教育において指導目標を達成するための教材の活用方法・開発方法について理解することであった。授業では、認知科学・脳科学等の研究成果をもとにして、算数・数学学習において児童・生徒の興味・関心を高めたり、学習内容についての理解を深めたりするための教材について考察した。

発表・討議を中心として授業を行ったが、受講者は自分が選択した研究課題について、深く研究することができ、さらに、他の受講者の研究課題についての考え・意見を知ることができた。受講者は、教材開発に対する認識を深め、教材開発能力を高めたものと思われる。

今後の課題については、受講者自身が教材や教材開発についての知識をもとに、実際の授業場面で役立つ教材を開発することがある。また、評価方法の提示についての改善点が受講者からあげられていた。授業評価の方法については、授業開始時に簡単に説明をしているが、改善してほしい点で回答されていたような明確な点数の説明をすることを今後検討したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 21 年 2 月 27 日 | | |
| 授業科目名 | 数学科教材開発演習 | 学期・曜日・時限 | 後 期 水 曜日 3 時限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 秋田美代, 齋藤 昇 | 回答者数 | 7 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 4 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 5 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 7 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 5 | 2 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 3 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 3 | | 1 | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 5 | 1 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 1 | | | 1 | 1 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | 4 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 6 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 7 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | 3 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 3 | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 4 | | | | |

<分 析>

この授業では、前期の「数学科教材開発研究」の授業で獲得した、算数・数学学習において児童・生徒の興味・関心を高めたり、学習内容についての理解を深めたりするための教材についての知識を基に、受講者自身が数学学習教材の開発を行い、教材開発力を高めることを目的とした。

この授業に対する評価は、ほとんどの項目で「4または5」の回答が多かった。回答から、特に「実践力の育成に役立った」「受講生に分かりやすく説明した」「授業の内容に一貫性があった」「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」こと等の様子がうかがわれた。

受講者は、算数・数学の学習教材の開発について理解を深め、教育実践力を高めたようである。

2 アンケート〔2〕の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 教材開発の目的や難しさなどを考えていく。
- ・ 教材の作り方、開発の仕方、学級での活用の仕方について学びたかった。
- ・ 数学教育の課題、及びその課題の解決方法について学びたかった。
- ・ 数学科教材開発研究に引き続き、どのような教材を開発していけばよいのかの方向性について考えたかった。
- ・ 実践力を養う。

これらの回答から、受講者は児童・生徒に算数・数学の学習内容をしっかりと理解させるための算数・数学科担当教員としての資質・能力を身に付けるためには、教材開発力が必要であることを認識し、関心・意欲をもって授業に取り組もうとしていた様子がうかがわれた。

3 アンケート〔3〕の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 具体的な教材で、生徒にどのような力を付けさせたいのかを学ぶことができた。
- ・ 具体的な教材や、図形の面積についての生徒達の現状について学ぶことができた。
- ・ 納得いくものはできなかったが、よく考えて、教材の内容を吟味できた。
- ・ もし、教員がよい教材を開発することができれば、生徒が教材の内容を理解するためにとっても役立つことが分かった。

これらの回答から、受講者は児童・生徒の算数・数学に対する興味・関心を高めたり、学習内容についての理解を深めたりするための教材の開発に強い関心を抱き、教員としての資質や実践力の向上に役立てたことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業のよかった点については、3名の受講者から「今後、私自身がどのような課題に取り組む必要があるのかを学ぶことができた」「教材の開発の仕方、使い方が分かった」「多くの日本の学生とともに研究できた」という回答があった。

授業の改善してほしい点については、4名の受講者から「多くの教材について知りたかった」「先輩のアイデアを聞いて考えが色々浮かんだので、先輩の開発した教材のアイデアをもう少し早くから聞いておけばよかったと思った」「準備の進度の発表時間が多すぎた」という回答があった。

この授業では、受講者が主体的に活動できるように、数学の授業で使用される教材に対しての考えを発表したり、自ら開発した教材を紹介したりする場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは、議論しながら、新しい教材を開発する中で、他の受講者の考え・意見を聞き、自己の考えを一層深めたようである。しかしながら、1つの題材の分析、及び教材開発に多くの時間を使うため、多くの題材を扱うことができなかつたこと、議論のための発表の時間が多く授業時間を教材の開発に当てることができなかつたこと等が改善してほしい点としてあげられているので、次年度以降この点を改善する必要がある。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では、受講者は、前期の「数学科教材開発研究」の授業で獲得した、算数・数学学習において、児童・生徒の興味・関心を高めたり、学習内容の理解を深めたりするための教材についての知識を基に、教材の開発を行った。

受講者は、「実践的な教材や、生徒達の現状について学ぶことができた」「実際、教育現場で使えることが多くためになった」との感想を述べており、教材開発に対する認識を深め、教材開発能力を高めたものと思われる。

発表・討議を中心として授業を行ったが、受講者は自分が選択した1つの単元の内容については深く研究することができ、他の受講者の他の受講者の教材に対する考え・意見を知ることができた。しかしながら、多くの単元を取り扱うことはできなかつた。受講者の感想では、授業で教員から多くの教材・教具を与えられることを期待していることがうかがえた。受講者が、本授業で身に付けた教材開発方法を、自分自身で他の単元における教材開発の研究に発展させることができる力を育成することが次年度の課題である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|---|----------------|-------------|--|
| | 評価実施日 | 平成 20年 7月 25 日 | | |
| 授業科目名 | 音楽科授業演習 | 学期・曜日・時限 | 前期 金曜日 3 時限 | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | 西園芳信 | 回答者数 | 6 名 | |

1. アンケート〔1〕の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 6 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 5 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 6 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 5 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 6 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 5 | 1 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 6 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 6 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 5 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | 3 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 6 | | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | 1 | | | | |

<分 析>

本授業の目的は、芸術的経験の特質と教育的価値、経験としての音楽表現と鑑賞、音楽科の指導内容と評価等の理論的研究を踏まえ、音楽科教育の目標、指導内容と教材、学習指導と評価についての基礎理論を学び、音楽科の授業を構想するための力量を養うことである。そのための到達目標は、①芸術の教育的価値の理解、②音楽の表現原理の理解、表現の原理から導出した指導内容の理解である。授業評価をみると、17項目の全てが5と4の評価となっている。そして、17項目中、8項目が5の評価となっている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

この設問に対する回答には、次のようなものがあった。

- ①音楽科の授業実践に沿った演習だろうと思って受講した。
- ②現場での授業実践をよりよくするために、音楽の授業についての示唆を得たいと思ったから受講した。
- ③音楽科教育はどうあるべきかを学びたかったので受講した。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

質問項目4に対する評価は、5と評価したものが5名で4と評価したものが1名である。この設問に対する回答は、以下のようなものがあった。

- ①授業の本質や音楽の授業理解などを学ぶことができた。
- ②音楽の授業の在り方について、これまでの授業を批判的に省みることによって、これからの音楽教育のあるべき姿というものが分かった。
- ③表現活動や鑑賞活動において、実際に教材を用い、どのように実践すべきか音楽の生成の面から教えていただきよく分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この設問に対する回答には、次のようなものがあった。

- ①音楽の生成について、初めはよく分からなかったが、本、ビデオ、授業実践、ワークシート等、いろいろ利用して詳しく教えていただいたので理解できた。
- ②実践演習活動を通して理論的内容を自ら実感することができた。
- ③様々な授業実践や参考となるビデオを見ること、また、音楽を作ることを実践的に体験することによって、授業内容を理解することができた。授業において、発言等をよく促されたことから、自分や他の人の考えを確認することができた。

5 本授業の成果と今後の課題について

分析のところで示したように、授業評価をみると、17項目の全てが5と4の評価となっている。そして、17項目中、8項目が5の評価となっている。これらのことから、この授業は、概ね授業として内容や方法が評価されたものと言えよう。特に前年度の授業評価において、改善の目標とした設問16「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」が受講者の全員が5と評価していることから、授業改善の目標は達成されたと言えよう。次にこの授業で改善すべき点は、設問15の評価結果から、板書の文字を見やすくすることである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|---------------|-----|-----|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 31日 | | |
| 授業科目名 | 音楽科教育研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 木曜日 | 3時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 長 島 真 人 | 回答者数 | 3 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | 3 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 2 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | | 2 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | 1 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 2 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | | | 3 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 1 | | | | 1 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | 2 | | | 1 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 1 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 1 | 2 | | | | |

<分 析>

今年度は、大学院のシステムとカリキュラムが改められた初年度に入り、受講する院生が、これまで以上に多様化してきたように思われた。今年度も酷評はみられなかったが、この評価アンケートの結果の中で、「16. 授業に主体的・積極的に取り組んだ。」という評価項目に評定「5」が一人もいなかったことを何よりも大切に考えていきたい。つまり、授業に主体的・積極的に取り組める環境が足りなかったと考えていきたい。昨年度までは、たくさんの方々がこの授業を選択し、学術的な理論自体に強い関心を表明する院生が多くみられたが、今年度は、全く様子が異なっていた。これまでは、音楽科教育学の基本的な概念として、シンボルの哲学や音楽のコミュニケーション論、学習論、教材論、学習指導過程論等を体系的に紹介することを目的としていた。しかし、このようなスタイルの授業では、また、同じような結果になりそうな気がする。コア科目との関連を工夫する観点も欠けていたように思える。次年度は、このことを意識しながら、この授業の目的と内容、方法を考え直していきたい。必要な場合は、開講の時期を変更することも検討したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的な書きください。

<分 析>

記述は、次の3件であった。「学部で学んだ知識を広げるため。」「修論へのヒント、具体的な知識等」「現場の授業の見直しと、自分の授業に対する意識の改善のため。」これらの記述にみられるように、問題意識や関心事項が曖昧で、今ひとつ積極的な期待が寄せられていないように思われる。学部生以上に、課題意識の触発を促すような授業を工夫していかなければならないように思われる。受講してくる院生たち一人ひとりの音楽経験や教育経験の特性と熟達度を踏まえながら、音楽科教育の思想に触れることができるような具体的な作業場面を開発しなければならないと思う。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この項目の評定は、「5」が1、「4」が1、「3」が1であった。記述は、次の2件であった。「楽曲をとらえるときの参考となった。生徒に教えることが新たに意識された。」「現場で使われる教材を多く用いてくれたため」これらに記述に見られるように、事例として紹介した様々な教材解釈や指導方法の工夫等に関する情報に基づいて評価しているように思える。そして、この授業の中核的な内容である音楽科教育の本質や学習の論理、教材の論理と実践力の育成との関係に触れるような意見は出ていなかった。実践を支える思想や論理を紹介してきたが、ポイントが今ひとつ把握できずに終わってしまっているように思えてならない。つまり、論理的、抽象的な概念に触れるために、学校で扱われている教材を用いながら具体的な例示をするように努めてきたが、この具体的な事例だけに注意が向いていて、論理的、抽象的な概念には眼が向けられていないように思える。これまでは、このような授業の展開方法で、教科の本質や子どもたちの音楽の学びの特性、音楽の美しさの特性等に関して、院生たちは自分なりに考えを深めることができていたが、今年度の院生には、そのような考察が生じなかったようである。やはり、授業の展開方法を演習スタイルのものに変えていく必要があるように思える。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

特記事項は無かった。この授業では、欠席は一件しかなかった。この一件も、事前にメールが入り、体調不振のためこの授業に参加できないことを悔やんでいるような思いが伝えられてきた。院生たちは、授業には、まじめに参加し、熱心に耳を傾けていた。しかし、特別な期待もなく、受け身的な態度が多く見られた。それゆえに、ここの記述がなかったものと考えている。

5 本授業の成果と今後の課題について

例年通りの内容で抽象的な概念を吟味するために、できるだけ具体的、典型的な資料を提示して、考察を促すような授業を行ってきた。カリキュラムが改訂され、この授業の意味づけが変わってきたように思える。これまでは、音楽科教育の様々な研究を深めていくために有益な基礎概念や、音楽科教育の発想を紹介し、「音楽科教育学入門」のようなイメージで実践し続けてきた。しかし、新しいカリキュラムの中では、コア科目との関係で授業内容を考えていかなければならない。模索しながら開始した今年度の授業であったが、酷評はなかったとはいえ、改善の必要があるように思われる。具体的には、院生たちの学習経験や実践経験と彼らのニーズをふまえながら、原理的な問題に目が向いていくような作業課題を開発し、授業に取り込んでいく必要があると思う。次年度からの課題にしていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 24 日 | | |
| 授業科目名 | 保健体育科教育学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 木 曜 日 2 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 坂本 和丈 | 回答者数 | 6 名 | | |

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 4 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 3 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 5 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 6 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | 1 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 2 | | 2 | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | 4 | 1 | 1 | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 1 | 2 | 1 | | 1 | 1 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | 2 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 5 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | 1 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 3 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 4 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | 1 | | | | |

<分 析>

本授業は、講義形式であるが受講生からの質問や発言等を求めながら進められた。

1 授業の内容については、授業内容の一貫性と実践力の育成に対する評価は高いが、授業概要における授業計画とテキスト・参考図書の紹介については不十分であるとの評価であった。

2 教員の授業の進め方については、受講生に対する授業への参加や板書の文字等については配慮しながら授業を進めたつもりであったが、さらに改善する必要があるとの評価であった。

3 受講生の授業への取り組みについては、主体的・積極的に取り組んでいたように思われるが、授業内容についての質問や発言を求めたにもかかわらず不十分であった。

4 授業全体への満足度については、受講生の評価は高いが、これは実践力の育成、評価方法の具体性、授業の進む速さ、分かりやすさ等の評価によるものと考えられる。

以上のことから、本授業が十分(100%)満足できるものであるとは評価できないことから、今後特に評価の低い項目については改善しなければならないと考えている。

2 アンケート【2】の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

受講生の記述例を、以下に挙げる。

- 1 授業を組み立てる際の基本的・基礎的な理論や考え方を身に付けることを期待した。
- 2 保健体育における授業システムや単元・授業の教育目標を学ぶため。
- 3 授業方法を学習することにより、保健体育の教育場面でどのように活用していくかを期待した。
- 4 教師の専門性の向上（特に、授業の立て方・行い方）。
- 5 現場に復帰した際に、体育の授業計画を考えると参考にしたい。
- 6 体育の授業について、その計画の仕方や進め方についての知識を得たい。

以上のように、受講生は保健体育の目標設定や授業計画をどのように立案し、実践場面でどのように活用するかということの理論や具体的な考え方を期待していることが伺われる。しかしながら、授業者は、受講生が保健体育の授業実践について、具体的にどのような問題意識を持っているのかということについて理解することが不十分であったと反省している。この点については、授業形式や授業の進め方を含めて改善しなければならないと考えている。

3 アンケート【3】の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

受講生の記述例を、以下に挙げる。

- 1 学びたいことがそのまま内容にあり、ポイントを分かりやすく教えていただいた。
- 2 実際の授業場面を想定した講義内容であったため。
- 3 教師の専門性の向上（特に、授業の立て方・行い方）。
- 4 実際の教育場面で例を挙げていただき、ためになった。
- 5 単元は、各々別々でなく一貫しているものであると分かり学べた。
- 6 講義形式が多かったため、実践力というよりは理論を学ぶ講義でした。

以上のように、受講生は「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」と肯定的に評価している。しかし、一部の受講生の中には本授業が「講義形式」であるということが理解されていない面もみられる。この点については、授業の進行によって「講義形式」と「演習形式」による授業を計画する必要があるかも知れないと考えている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生の記述例を、以下に列挙する。

1 講義の中で、授業の立て方・行い方というものが理論的に、そして具体的に明示され、展開されていたので分かりやすかった。その上、実践で自分が授業を作る上でも役に立つ内容が多く含まれていた。

2 説明に一貫性があり分かりやすかった。

3 特になし。

以上のように、受講生からの改善すべき点やアイデアに関する記述はみられず、一部の受講生からは本授業に対して肯定的な評価が示されている。しかし、「特になし」と記述している受講生が4名みられることから、この点については授業者自身が授業全体を通して、改善点や問題点を分析しなければならないと考えている。

5 本授業の成果と今後の課題について

1 本授業の成果について

まず、授業の内容や進め方については、一部の評価項目を除いて、高い評価を得ていると理解している。このことは、アンケート3の「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」という具体的な記述例からも伺われる。

また、受講生の授業への取り組みや授業全体への満足度からみると、受講生は高い評価を示している。このことは、授業の内容や一貫性ととともに、受講生が学びたい知識や実践場面で必要となる情報が提示できているものと推察している。この点については、授業の良かった点および改善点の記述例からも伺われる。

2 今後の課題について

まず、評価項目への回答からみると、一部の評価項目については低い評価が示されている。これらの評価については、今後授業オリエンテーションや授業開始時に十分説明を行い、受講生の理解を高めたいと考えている。

また、記述例からみると、授業の課題によっては講義形式による授業の進め方と演習形式の授業を組み合わせることも必要であると考えている。

本授業のような講義形式の授業では、受講生にとって知識や情報が過剰になって十分理解できないことにも配慮する必要があると考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|------------------|--|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20 年 7 月 31 日 | | |
| 授業科目名 | 家庭科教育学研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 木 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 鳥井 葉子 | 回答者数 | 6 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番 号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|--------|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | | 6 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | 6 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | | 6 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | | 4 | 2 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | | 4 | 3 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 3 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | | 5 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 4 | 1 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 1 | 5 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 4 | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 2 | 4 | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | | 6 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | | 5 | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 1 | 5 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | | 4 | 2 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 5 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 1 | 3 | 2 | | | |

<分 析>

全項目平均は 4.0 であった。

評価の低かった項目は、「4 教師の実践力の育成に役立つ内容であった」「15 板書の文字は見やすかった」であった。「4 教師の実践力の育成に役立つ内容であった」が低かった点については、授業の前半で家庭科教育研究の基礎となる家庭科教育研究論文購読を中心とした内容をもっと授業実践と関係づけて説明する必要があったと反省している。「15 板書の文字は見やすかった」が低かったのは、ゼミ形式で授業を進めたため、板書をしなかったためと思われる。

評価の高かった項目は、「6 授業をよく準備し、熱心に教えた」であった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的な書きください。

<分 析>

大学院生の記述は次の通りであった。

- ・「実践的な家庭科教育の授業を受けたいと思った。また、家庭科教育において重要である学習指導要領についても学習したかったので受講した。」
- ・「家庭科教育法に興味があり、今後生かせると思ったから。」
- ・「家庭科教育についてわからない部分があったので、さらに知識を増やそうと思った。」
- ・「家庭科教育全体としての具他的な取り組みや他の受講生が専門とする分野について理解を深めたく、受講しました。」
- ・「新しい概念を学べるという期待をいただきました。」
- ・「家庭科教育全般について深く勉強したかったので受講した。」

今年度の受講生は全員家庭コースの学生であったため、それぞれの修士論文の研究内容に関連づけながら授業を進めるように計画したが、家庭科教育学一般的な内容への期待が多かったので、今後は改善したい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

大学院生の記述は次の通りであった。

- ・「学習指導要領の内容を学習することができたので、これからの授業実践において役立つと考えたので。」
- ・「授業実践事例などを考察し、より工夫できる点や改善できる点などを示し、自分で工夫しようとする意欲が身に付いた。」
- ・「新学習指導要領について、旧との比較も含めて、詳しく見ていくことに教師の実践力に直結するものを感じた。」
- ・「事例や指導案がたくさんあり、授業でも実践したので理解が深まった。」

上記の記述から、今後も引き続いて授業実践事例を取り上げたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

大学院生の記述は次の通りであった。

- ・「学習指導要領について、丁寧に学習することができた点がよかった。」
- ・「課題のやり方がわかりにくいことがあったので、もう少し説明してほしいと思った。」
- ・「実践例を示し、わかりやすかったです。」

上記の受講生の意見から、今後は課題を提示する際には、具体的で詳しい説明をするように改善したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

家庭科教育の現代的課題を把握し、その課題達成のための教育研究方法を理解し、研究課題を設定して考究することを目的に、授業を進めた。今年度は小・中学校の新学習指導要領の告示およびその解説の発表を受けて、授業の後半では「新学習指導要領実施に向けた家庭科の教育実践上の課題」を共通テーマに受講生が各自テーマを設定して追究してまとめた。しかし、追究した内容を発表し、討議する時間がとれなかった。今後は、各自のテーマ設定を早い時期に行い、授業の最後で発表と討議ができるように計画的に進めたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|-----|-----|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 18 日 | | |
| 授業科目名 | 国際教育教材開発研究 | 学期・曜日・時限 | 前期 | 金曜日 | 3時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 小澤 大成 | 回答者数 | 5 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 1 | 1 | | | 1 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 2 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | 3 | | | 2 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 1 | 2 | | 1 | | 1 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 2 | | 1 | 1 | | 1 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 1 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | 3 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 1 | 2 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 4 | 1 | | | | |

<分 析>

今回は特にテキスト等の配布を行わなかったため、関連する評価が低いものとなった。次年度への課題とする

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講した学生は、日本人学生及び外国人留学生である。

日本人学生は途上国の教育現場に応用可能な教材開発を求めており、外国人留学生は他国の授業方法や良い授業に関する議論を学びたいと考えている。授業分析、授業計画および模擬授業での実践を通じて、両者のニーズに応える事ができたと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「授業計画、教材開発、そして模擬授業後の検討会を通じて実践力向上に役立った」

「受講生の発表を通じ、途上国と日本の授業の違いを学ぶ事ができ、またより良い授業のあり方について考え合う良い機会となった」

という受講者の回答より実践力向上に寄与していると考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良い点として「授業観察後に議論を行ったこと」があげられている。

改善点として「もっと多くの授業を見たい」「途上国で活躍された経験を持った現職教員の話が聞きたい」という提案があった。

次年度に向けて検討していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の成果は、授業分析、授業計画、模擬授業実践、授業検討を通じ、教材開発に必要な課題の分析とその授業への応用について学び、実践力の向上につなげたことである。課題としては、文献・テキストの紹介と、ゲストなど外部リソースの活用がある。今後に生かしていきたい。



応用実践科目

広領域コア科目

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | |
|-------|---|-----------|-----------------|--|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 21 年 2 月 4 日 | |
| 授業科目名 | 学力形成と授業改善 | 学期・曜日・時限 | 後 期 水 曜 日 2 時 限 | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 ③. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | |
| 担当教員名 | 秋田 美代・茂木 俊伸 | 回答者数 | 16 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番 号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|--------|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | 7 | 2 | 1 | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 6 | 6 | 4 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 9 | 5 | 1 | 1 | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 6 | 9 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 7 | 5 | 3 | 1 | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 9 | 5 | | 2 | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 7 | 7 | 2 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 5 | 4 | 5 | 1 | 1 | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 7 | 6 | 3 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 5 | 9 | 1 | | 1 | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 7 | 6 | 3 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 7 | 7 | 1 | 1 | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 6 | 6 | 2 | 1 | 1 | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 8 | 8 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 8 | 6 | 2 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 5 | 8 | 2 | 1 | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 6 | 7 | 2 | | 1 | |

<分 析>

本授業では、PISAを中心とした国内外の学力調査の結果やその背景を適切に読み取り、現代の「学力」問題を批判的に検討しながら、受講者個々の問題意識に沿って授業改善の方法・内容を探ることを主な目標とし、講義と演習活動を行った。受講者数は 16 名（+聴講 2 名）であった。

授業評価の全体の平均値は 4.18 であり、評価項目のうち平均値が高かったのは項目 14 (4.5) および項目 3・15 (4.38) である。一方、平均値が低かったのは項目 8 (3.69) および 13 (3.94) である。授業のテーマの関係上、さまざまな問題を広く取り扱わざるをえず、理解度確認のためのレポートも課したのであるが、次年度以降は、内容をより精選するなどして、これらの点を改善していきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答者 16 名のうち 15 名の記入があった。記述をまとめると、受講の動機は概ね 3 種類に分けられる。それぞれの具体例と人数（重複を含む）、記述例を示す。

- (1) 学力形成・学力問題について理解を深めたい（8 名）：
 - ・ これからの子ども達にとって本当に必要な学力とは何か、そしてその学力はどうしたら養成することができるのか、具体的に知りたいと思った。
- (2) PISA等学力調査について理解を深めたい（5 名）：
 - ・ PISAの読解力についてどうとらえていけばよいのか、考えを深めたいと思った。
- (3) 授業改善の方法を知りたい（4 名）：
 - ・ 現場での授業問題の取り組み改善を教えてほしかったが、あまり参考にならなかった。

(1)(2)はシラバスに示した内容であり、具体的な関心の異なりはあれ、受講者の目的意識は高かったものと思われる。項目 17 の平均値が 4.06 であったことから、この授業のねらいと方向性は、おおむね評価されたものと考えている。なお、(3)に関して、シラバスや初回の授業説明で授業の主旨を示したにもかかわらず、おそらく授業科目名から「すぐに役に立つ授業改善方法」を求めていたであろう受講者がおり、最後までその溝が埋まらなかったことは残念である。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

項目 4 の評価の平均値は 4.31 である。回答者 16 名のうち、14 名の記入があった。具体的な記述の一部を、次に挙げる。

- ・ 現場では知らされなかったPISAの背景やキーコンピテンシーなどの考え方が考えられた。
- ・ PISAから現代の日本の課題がみえて、おもしろかった。違うコースの人の考えが聞けて楽しかった。
- ・ PISA型学力が「生きる力」に類似していることはわかったが、実際の教育現場との関連がいまいち不透明だったと思う。

授業では、主として学力観あるいは学力調査に関する「考え方」に関する内容を取り扱った。上の二つのコメントにあるように、さまざまな言説を批判的に吟味し、現在の学力に関する問題点を見つけ出す段階までは十分に達成されたと考えられる。実際、グループ活動の最終発表は、一人ひとりの関心を深めた、充実したものであった。

ただし、3点目のコメントにある、「実際にその知見をどう実践に活かすか」という次の段階は、時間の制約などもあり、受講者個々に委ねざるをえない部分がある。この点については、次年度以降も継続して検討していきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答者 16 名のうち、14 名の記入があった。「良かった点」「改善してほしい点」と考えられる記述は、それぞれ 8 名、7 名から得られた。「改善してほしい点」の例を次に挙げる。

- ・流動的な授業展開になることが多々あった。
- ・理科のことも知りたかった。
- ・PISAが中心であったが、他の調査ももっと具体的に取り上げてもらえたらなと感じた。
- ・グループワークをする時間をもう少しとっていただけたら嬉しかった。また、教育現場のお話をまじえたり、意見交換ができる機会がもっとあったら嬉しかったと感じる。

1点目については、初年度の混乱があったため、次年度以降は改善したい。2点目と3点目については、時間数や担当者の専門による制約が大きいので、すぐには対応できないが、説明責任を果たしたい。4点目は、グループワークを充実させる方向を模索したい。なお、

- ・「現職のみ」や「教員志望者のみ」という記述をシラバスの中へ書いていて欲しい。

という意見もあったが、これには頷けない。教員志望でなくても、一社会人として子どもたちを育てていく立場にある受講者が、自ら学びの幅を狭めてしまう必要はないと考える。

5 本授業の成果と今後の課題について

開講初年度ということもあり、担当者間で打ち合わせを重ね、試行錯誤しながら授業を行ってきた。

授業形式を評価するコメントが複数見られたが、前半を読解力および数学的リテラシーに関する講義、後半を受講者のグループ活動と発表に当て、15週を通してTT形式で授業を行ったこと、ゲストによる講義の時間を設けたこと、グループ活動を共通の関心を持つ受講者を組み合わせる形で行ったことなどが評価につながったと考えている。

学力問題を建設的な議論につなげていくためには、学力調査の結果の数字に振り回されるのではなく、その背景にある理論や思想を踏まえておく必要がある。上記の分析項目3・4にもあった実際の教育現場との接続という課題は残るものの、アンケートの集計結果およびコメントの分析から、シラバスに提示した本授業の目標のうち、「教員としての資質・能力」の向上という点はおおむね達成できたと判断している。

受講者の興味関心に注意を払いつつ、授業の趣旨を十分に説明したうえで、より魅力ある授業作りを心がけていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|-----------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 21 年 2 月 4 日 | | |
| 授業科目名 | 子どもの規範意識の形成と授業経営 | 学期・曜日・時限 | 後 期 水 曜 日 2 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 ○ 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 伴恒信、曾根直人 | 回答者数 | 11 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 5 | 4 | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | 4 | 4 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 1 | 7 | 3 | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 4 | 5 | 1 | 1 | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 4 | 4 | 3 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | 5 | 1 | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 5 | 3 | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 4 | 4 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 8 | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 4 | 5 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 6 | 3 | 2 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | 6 | 2 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 8 | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 6 | 4 | 1 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 2 | 5 | 4 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 6 | 2 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 6 | 2 | 1 | | |

<分 析>

この講義は2人の教員の分担の授業であるため、授業評価結果の解釈が極めて難しい。それは、受講者の感想にも、「二名の教員の授業が全く違うので、一つの授業のコマとはとらえにくい。」との叙述があった。本年度が最初の授業の試みでもあり、フィールドワーク実施のための現場との調整や学生の移動手段の確保等、授業準備のためにも大変な労力を必要とした。伴の担当分については、後述のようにフィールドワークでの実践体験に好意的評価をする者が多かった。曾根担当分については、コンピュータセキュリティに関して有益であったとの評価があった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析>

「子どもの規範意識を形成する要因について探求しようと思った」「規範意識の問題は、昨今の教育においては最重要項目である」など、現代の教育において「規範意識」を育成する必要性を共通認識として有していたようである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析>

「実際にフィールドワークに参加し、授業を体験できた」「現場実践の例に参加でき、参考となるところが多かった」「実際に子ども達と触れ合う機会が準備しており、教職経験のない私にとってはそれ自体大切」「小学生との関わり方、ボランティアにのぞむ態度を知ることができる」など、教育現場での実践に自ら関与することで得た「体験知」の効用を挙げる者も多かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「家庭教育のあり方、諸外国の規範意識、高校生の性に対する考え方等、データをもとに紹介していただきよかった」「地域の人と連携している点が良かった」「少人数で討論できたのはよかった」など、良かった点の叙述が見られた。

改善点としては、「最終レポートについて、はじめに説明があればよかった」「計画性をもう少し強化して」など、授業そのものが初めての試みでもあり、最初からすべてをレディメイドで用意するまでに至らなかったことは事実である。

5 本授業の成果と今後の課題について

学社連携の教育現場にフィールドワークに行くための学校や民間団体との連絡、バスの手配等の下準備など、労多くしてその苦勞を受講生には認識されないことが多かった。ここまで、エネルギーを使わなくても良い方策を考えていきたい。

グループに分かれてのディスカッションは概ね好評であり、次年度も授業で取り入れたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 21 年 2 月 18 日 | | |
| 授業科目名 | 現代社会と情報・思考・コミュニケーション | 学期・曜日・時限 | 後 期 水 曜 日 2 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 ③. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 原 ・ 兼 重 | 回答者数 | 53 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|----|----|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 19 | 23 | 10 | 1 | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 12 | 19 | 18 | 3 | 1 | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 14 | 25 | 11 | 3 | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 13 | 27 | 11 | 2 | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 11 | 17 | 21 | 4 | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 24 | 24 | 3 | 2 | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 22 | 23 | 7 | 1 | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 16 | 27 | 10 | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 21 | 27 | 5 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 13 | 18 | 20 | | | 2 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 19 | 19 | 14 | | | 1 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 13 | 30 | 9 | 1 | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 22 | 22 | 9 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 33 | 19 | 1 | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 30 | 20 | 3 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 22 | 24 | 6 | 1 | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 21 | 21 | 9 | 2 | | |

<分 析>

全体の平均評価「4.13」、および質問項目（17）の授業に対する満足度評価「4.15」（受講生の約8割が「4」以上の評価）からすれば、まずまずの評価が与えられた。

若干評価の低かった項目（2）は、担当授業の最後に参考文献一覧を配布したが、その説明は時間の関係から十分には行えなかった。今後改善すべき問題であると考え、また、項目（3）については、言語コミュニケーションというテーマで一貫性を持たせたと考えているが、授業担当教員2名の専門が、日本語と英語であるために、受講生の目には一貫性がないように捉えられたのかもしれない。この点については、授業開始時のオリエンテーションで、詳しく説明しておく必要がある。また、項目（5）についても、オリエンテーションでの説明が欠かせない。項目（10）は、授業に教科書・参考書を用いなかったことから、評価にばらつきが出たのであろう。質問項目から削除すべきであった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「コミュニケーションとは具体的にどのようなものであるのかを考える」「コミュニケーション能力育成への糸口を見つける」「ことばという道具を使って、よりよいコミュニケーションをどのようにして実現していくか」「現代社会で問題となっているコミュニケーション能力不足解消の手がかりになれば」などの「コミュニケーション」を軸にした問題意識を持つ受講生と、「普段何気なく使っていることばについて深く学びたい」「ことばということを改めて深く感じてみたいと思って」「専門性を高めるために必要なことばというものの意味を今一度見直そうと思って」「言語とは何かという根本的な問いを持って」などの「ことば（言語）」そのものを軸とした問題意識を持つ受講生に大別される。これらの受講生の持つ問題意識には、応えることのできた授業を展開できたと考える。

この他には、「コミュニケーションがうまくなりたい」などの自己のコミュニケーション能力向上を目的とした受講生もあったが、コミュニケーションの理論面の解説と、授業中のグループ活動（話し合い）などで、目的を達成することができたとすれば幸いである（満足度評価では「5」であった）。

気になったのは、「カリキュラム上、仕方がなく受講したので、なんの問題意識も期待もなかった。最終的には楽しい授業だったが、この90分間にもっと心理アセスメントの勉強ができたのと思うと、上から押しつける日本の教育には問題があると思わざるを得ないし、（以下省略）」というコメントを書いた受講生である。そんな彼も、質問項目（16）（17）が「5」であることからすれば、自らの専門性とはやや離れた位置にある学問分野でも、何かしらの得るところはあるものである。様々な学問分野に触れることによって、自らの基盤を広く豊かなものにして欲しいという、われわれの願いを伝えることができたのかもしれない。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「5」「4」と、高く評価した受講生からは次のようなコメントが寄せられた。

○実際の英語の授業を中学校で行っている様子をビデオで見せていただいたり、とても参考になる部分が多くあったように思います。

○より実践的であったように思います。実際の授業場面なども想定されイメージしやすかった。

○「ことば」というものを大切にし、勉強していく必要があると思うから。そういった意識が必要だということに気付かせてくれた。

○先生と生徒がどういった「ことば」を使用することが効果的かを、たとえば、ディスカッションや、隣の人とのやり取りを通し、自らが体感したことで、そのヒントを得ることができた。

○教師として即戦力につながるものと、教師としての基底に置いておくべきものの二つに分かれていたために、4とした。しかし、プラスになったことは間違いない。

これに対し、「3」「2」という評価であった受講生からは、次のようなコメントがあった。

○授業で生かす知識というよりは、その前段階の基礎知識だと思います。

○直接的な実践力としてはあまり良くなかった。

○何をしたらよいのかが、よく分からなかったです。

「実践力」を「授業のしかた」だと捉えるならば、評価は低くなるだろう。授業担当者として「実践力」をそのように捉えていないことを、はっきりと伝えることの必要性が感じられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

全体的に、好意的な評価が多かった。

○どちらの先生も、授業に当たって事前にしっかり準備をしてくださっていて、良かったです。

○本当に毎回笑いが絶えなくて、とても楽しい授業でした。

○複数の教員によって行われる授業も、それぞれに個性があり、面白かった。ともすると退屈になりがちなテーマにもかかわらず、大変興味深く、イキイキと授業して下さった。

以上のような、コメントの他に、ゲームやディスカッションを用いた授業方法に対するコメントがあった。

○ゲームやクイズを用いることが良かったと思う。

○グループで話し合うなど、ただ聞くだけではなかったのが、授業を楽しく受けることができました。

○参加型の授業なので、とても良かったです。

また、日本語と英語という授業担当者の専門性に関しては、次のようなコメントがあった。

○日本語と英語という言語から学べたので、それぞれの違いが分かり、良かった。他の言語ではどうなのか、興味がわいた。

○英語と日本語を使って「ことば」について考えていく作業が楽しかったです。

○いろいろな視点から見られて、面白かったです。

改善点としては、「活動の意味がつかめない日があった」というものがあった。この点については、来年度に向けて、改善していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、本年度から開講された新しい授業科目である。

「言語コミュニケーション」に関わる問題は、単に教育現場の「国語科」「英語科」に携わる者だけが考えれば良いという問題なのではなく、「ことば」を使って社会生活を営むすべての人間に関わる、重要な課題である。現代社会が抱える「言語コミュニケーション」に関する問題について、日常生活の様々な場面を取り上げて、分かりやすく解説し、その問題点について共に考え、興味・関心を喚起することを目的として、前半を日本語学を専門とする教員が、後半を英語学（英語科教育学）を専門とする教員が担当して進めた。

授業評価アンケートによる限りでは、部分的な改善点が示された他は、全体的に好意的な評価を受けており、所期の目的は達成されたと考えられる。来年度以降も、大筋では本年度の授業方針で進めることが許されるであろう。

部分的な改善点としては、前半では日本語、後半では英語を取り上げるということによる、授業の一貫性の欠如（担当者としては「言語コミュニケーション」で一貫しているつもりだが）が指摘された。これをいかに一貫性のあるものとして、受講生に認識させるかという問題がある。また、受講生の多さが、グループでの討論や、全体への報告などの円滑な活動に影響を与えている点にも改善の必要性が認められる。

今後は、授業担当者相互の連絡を密にして、これらの課題を克服しつつ、実のある授業内容・授業方法を模索していきたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|------------------|-----|-----|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 21 年 2 月 17 日 | | |
| 授業科目名 | 環境科学と人間教育 | 学期・曜日・時限 | 後期 | 火曜日 | 2時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 近森憲助・西村 宏 | 回答者数 | 29 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|----|----|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 5 | 10 | 10 | 4 | 0 | 0 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 2 | 7 | 15 | 4 | 1 | 0 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 4 | 6 | 11 | 4 | 4 | 0 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 5 | 4 | 15 | 2 | 3 | 0 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 3 | 14 | 6 | 4 | 2 | 0 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 9 | 16 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 7 | 12 | 8 | 2 | 0 | 0 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | 2 | 11 | 7 | 3 | 0 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 0 | 0 | 19 | 7 | 3 | 0 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 2 | 6 | 14 | 5 | 2 | 0 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 8 | 12 | 8 | 1 | 0 | 0 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 8 | 6 | 12 | 2 | 1 | 0 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 6 | 13 | 4 | 2 | 0 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 16 | 11 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 12 | 9 | 8 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 3 | 8 | 12 | 5 | 1 | 0 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | 7 | 11 | 4 | 2 | 0 |

<分 析> この授業は新カリ広領域コア科目として開講されている。コア科目が設定された目的は、教職共通科目とはやや異なる視点から、特別な専門や単なる実践に偏ることなく、特別な教科に属さないが現場での実践を行う際に基礎知識として持っておかなければならない事柄などを教授することにあつたため、シラバスにも当初からこの点に沿う章建てを明確に打ち出して、課程認定を受けたものである。従って、授業時間ごとに読み切り型授業となることはやむを得ないという思想のもとに授業者2人だけでは満足できない領域に関してでもできる限り網羅できるように配慮して、特別講師による授業もふんだんに取り入れたことはシラバスの各項目を見れば明らかであろう。然るに、上記の受講生による授業評価を見ると、項目ごとに2や1の評価となっているものが散見され、シラバスにまるで目を通していないと思われるような評点分布を示す結果となっている。この結果からは、受講生はコア科目の必要性を全く認識していないか、授業者の当初述べた授業の趣旨や意図が伝わっていないかのどちらかであることが推測できる。さらに言うと、もしこの評価に1や2あるいは3も含めて、低い評価しかできないような内容と判断した受講生は、3科目同一時間帯同時開講としていることから、他の科目に学期当初の段階で鞍替えも可能である措置がとられていることが全く無意味であることを強く示す結果となっている。選択必修科目だからという理由で、兼々受講しなければならないような位置づけではないことを受講生に徹底すべきであったことは授業者として反省すべき点かもしれない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析> まず、なまの受講生の評価の代表的なものを列記する。
○環境にどう自分が働きかければよいかを具体的に知りたかった。
○環境＝自然とされがちな現在の概念をきちっと考えたかったため。
○環境教育とは何かを知りたかった。
○人間教育・学校教育に活かせる力を養いたいと思って。
○「環境」という分野が具体的にどういうものなのか、今まで小・中学校等で学んだが、大学での専門的な講義を受けてみたかった。
○なかなか環境や自然について学ぶ機会がないので、少しでも多くの知識や実践力を身につけたいと思っていた。
○授業のタイトル通り、環境と人間がどうかかわっているのかを知りたかったから。
○体験学習の実施について知りたかった。また具体的な評価方法もききたかった。
○環境教育が実は環境教育とはなっていないという側面があるので、環境についての自分自身への見直しが必要だと感じたので。
○環境倫理とは何だろうという初歩的な疑問を持って受講しようと思った。
○自分とはあまり関わりのなかった分野での講義だったので、はじめはすごく戸惑っていました。期待という意味では、未開拓の分野への関心という形でした。
○「環境」はとて幅広いものであり、どのように捉え、教育にどのように生かしていけるのか、興味があった。
○共通科目だったので取りました。
○何も期待していなかった。
以上の意見を見ると、当然とはいえ、受講生の受講動機には無限の幅があることが分かる。最後の2行に示した意見のように全く学問的な興味はないが授業が設定されているから仕方なく受講しているものも少なからずいることが、受講生の受講態度の温度差となって如実に現れていたようである。ただ、前項アンケートの<分析>にも示したが、このコア科目については3科目同時進行型で開講され、別の科目を選択受講できる配慮がなされていることからすると、これらの意見は受講生自身がオリエンテーションを判断材料にしていけないと言わざるを得ないもので、シラバスや受講登録変更可能な事務的扱いが何の役にも立っていないことを暗に物語っている。また、コア科目の性格上、実践そのものを講義する偏った授業ではなく、現場に出た時に最低限必要な基礎を教授することはシラバスの授業概要の項目を見れば明らかで、この点についても、授業者としては受講登録可能期間内にシラバスが熟読されるべきであると思われ、シラバスがその意味をなしていないことが明らかとなった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析> 受講生の評価の代表的なものをそのまま列記する。
○教師と言いますか、教育選考(ママ)ではないので、役立つかどうか判断が付きません。
○専門的な内容が多く、知識として身に付いた(ママ)が、実践的な授業内容は少なかったと思った。
○「臨床心理士の実践力」と言い換えるなら、何かと個人の内面に目が向きがちな視点を外へ外へと向ける能力を養う上で有用であったと思います。
○教育する際、視点を提供していたように感じるから。
○専門分野以外のもので、なおかつ総合等で使えるものだと感じた。
○専門的な話が多かった。
○環境教育について知ることができた。
○教師をめざしているわけではないので、どちらともいえません。
○あまりにも専門的な内容すぎてついていけず、聞いているのがやっとだったので。
○自分の大切に思っていることが、先生がおっしゃられたことと同じ方向性を向いていた。教育ってのは、頭だけで考えるのではないということ(ママ)。
○教師のみを対象にしている授業というのではなかったように感じる。学生にも役立つものも多くあったと思う。
○おもしろい内容でいくつことができた(ママ)。
○あまり実践レベルでは使えないと思った。
○具体的な活動・考えとして残るものがなかった。
○評価方法なども教えていただけた。
○あまり授業が理解できず、知識があいまいで使えそうになかった。
この回答も、ほぼ無限に広がった意見分布であるが、前項の「授業の全体的評価」に比べると、受け止め方がポジティブなものも多くみられた。ただ、「専門的に過ぎる」という意見もあるが、これらの院生の認識は、学部授業と同じレベルに院授業が位置付けられていると勘違いしているのではないかと思われる面が強く出ている。当然のことながら、院授業は一般的実践でなくむしろ専門的内容に徹するべきであるという授業者の考え方が受講生に認識されていないことを示しているものと思われる。些細なことだが、アンケート中に上記(ママ)で記したように明らかな字句のミスが目立つのは教員養成系大学院生の記述としては考えものである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析> 受講生による評価の代表的なものをそのまま列記する。
○もっと強引に学生を引き込んで良かったのではないかと思う。近森・西村両先生が謙虚過ぎて、学生の態度はあまり良くなかったにもかかわらず、何も言わず「自分たちのミス」としてしまっていたことに申し分けなさを感じる。もっとシンプルに考えて、ディスカッションなどをどんどん取り入れてほしい。
○専門的な知識を扱う際の参考文献などを知れたかった。
○難しかったです。
○専門的知識をもっと実践的に授業にどう生かすか考えてほしい。
○自分の身近なことだったので関心もてた。
○グループ討論があればおもしろかったと思います。
○出席については少し厳しくしてほしい。出席もせず最後まで来て単位をもらおうとする人がいるので、ちゃんと授業にでている人がバカバカしくなる。
○少人数のグループワークを取り入れるとかは可能だと思うのでぜひやってほしい。
○このままでもよいと考える。
○口調が淡々としていたので疲れるところがあった。熱がこもりだすのが講義終り頃なので、真ん中あたりにもってきてほしい。教授の専門をもっとだしてほしい。
○話とスライドがかみ合わない時が自分にはあったので、アニメーションをつけるなどの工夫があればいい。
○新カリキュラムのため教授側も手さぐり状態とのことであったが、生徒側のレベルやニーズをもう少し考慮した上で授業内容を組み立ててほしい。
○普段ふれない専門的なことにふれることができたのはおもしろかった。
○ゲストティーチャーによっては、まったく内容がわからなかった。また、知ってて当たり前のように講義を行うのはいかがなものかなと。
○専門的すぎる。
○外部からの講師の方はまた違った雰囲気良かった。ただ、自分の専門を押し付けてくるような、そんな先生もいたので、お2人の先生だけでじゅうぶんだったように思います。
○講師が複数人だったので、内容・レベルにバラつきがみられたので、改善していただきたいと思った。
○基礎知識を減らしたほうがよいと思います。
これらの幅広い意見分布には正反対の意見も見られるように、授業者としては非常に困難で一筋縄ではいかない授業展開を強いられる受講生グループであったことは否めない。新カリ・コア科目としての位置づけよりも、従来のように専門科目として配置したほうがより適しているように思われる。できる限り努力はしたつもりでも、この程度の幅広い意見が出ているし、この意見の内容たるや、学部生以下の感想としか思えないものも見受けられる。「出席を厳格にすべし」との意見も見受けられるが、大学院では基本的に出席などというものはある程度以上に重視する必要はないし、また今後も重視するつもりは毛頭ない。もし遅刻して入室するものが邪魔なら、受講者同士でこれについて議論し自らで状況を克服すべきものである。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業開始当初の第1選目「オリエンテーション」の時間に、既に、授業展開が非常に困難な、受講生個々の意識にあまりにも差があり過ぎるという認識は、我々授業者にはあった。この点はアンケート2の回答群にも如実に表れている。というようなわけで、授業者の立場としては、やたらに授業展開に神経を使うものの、内容や授業のやり方そのものの授業者の意図が受講者にはそれほど密に伝わっていなかったようであり、またインパクトを与えることができないものとなっていたことは、反省すべき余地は残されているものと判断できる。しかし、高校生や大学学部低学年の授業ではないので、少なくとも大学院修士課程の内容と専門性を保持した授業としたと考え、その方向で十二分の努力をしたつもりであった。しかし、上記の意見分布からすると、これが功を奏しているとはとても思えない結果となっている。その点は今後の本授業科目の展開には注意するつもりである。ただ、いくらストレートマスターの受講者が多数に及ぶといえども、学部からの延長上に大学院を位置付けた挙句に、内容が専門的すぎるなどという意見を述べる前に、理解できにくいあるいは理解できない点を自ら噛み砕き、図書館で調べるなどし、それでも理解できない場合には、授業者の研究室を訪問して質問するなど、本来の大学院生らしい能動的勉強の展開を期待するところである。いわゆるオフィスアワーがわざわざシラバス中に明記され設けられているのは、このようなときのためであって、ただの体裁で設けられているものではないことに気づくべきであろう。

今後は、この専門科目の基礎論として位置付けたほうがよいと思われるこの科目は、できる限り早い時期に旧カリと同じ状況に戻し、カリキュラム上もいわゆる「コア科目」ではなく、「教職専門科目群」に入れて、残りの「環境教育特論Ⅱ」「同Ⅲ」「同Ⅳ」と内容を時系列順に並べて授業できる体制とすることにより、本来受講すべき現代教育課題総合コースの学生がほぼ全員受講できる時間割配置とするほうが望ましいと思われる。



旧カリキュラム

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|-----------------|-----|--|
| | | 評価実施日 | 平成 21年 2 月 5 日 | | |
| 授業科目名 | 学級学校経営演習 I | 学期・曜日・時限 | 後 期 木 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 久我 直人 | | 回答者数 | 7 名 | |

1 アンケート【1】の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 6 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 6 | 1 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 7 | | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 1 | 4 | 2 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 7 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 7 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 7 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 6 | 1 | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 6 | 1 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 7 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 7 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 5 | 1 | 1 | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 5 | 2 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 5 | | | | | |

<分 析>

全体の平均が 4.725 ポイントと高い評価が得られた。

「特に教師の実践力の育成に役立つ内容であった」「授業を準備し、熱心に教えた」「授業の進む速さは適切であった」「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」「受講生に分かりやすく説明した」「教員の声は聞き取りやすかった」の 6 項目で全員が評価「5」を付けている。

これは、授業内容（題材）を教育現場における具体的事例としたこと。そして、授業方法として、少人数授業の利点を生かしたディスカッション形式を中心に事例解釈を実施し、授業者による概念化によってまとめることを基本に進めたこと。このような内容と方法が、学習者にとって、「教育実践力に役立つ」等の内実結びついたのでと考えられる。

本授業の目的を、受講者の教育実践力におけるビジョンの獲得におき、その実践力の内実を評価することを伝えた。さらに具体的な成績評価の方法等について、明示する必要がある。

2 アンケート【2】の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

昨今の学級崩壊等の問題を含め、学級をまとめる実践の知識や技術に対する関心が高いことがうかがえた。

全員に共通する内容として、実践に役立つ理論的知識や技術、ビジョン等を得たい、という内容であった。特に具体的な課題やそれに応える教師の在り方や指導等の具体的な実践の方法を学びたい、という意見であった。

ストレートの院生にとっては、実務経験のある教員や院生との具体的な事例を通した応答的なディスカッションの場を求めた意見があった。

3 アンケート【3】の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この項目については、全員が評価「5」をつけた。

その理由として、以下の点が上げられた。

- ・ 実践から考えられた問題解決を提示しているから
- ・ 授業内容がとても具体的であり、自分から主体的に考える事が多かった。(問題に対して) どうしていくのか、という考えや目標をしっかりと持つことができたから
- ・ 先生のお話が具体的なヒントになるものが多かった
- ・ 現職の院生の具体的な実践事例を聞くことができ、大変参考になった
- ・ 理論だけでなく実際にどのように考えていけばいいのか、という基本となる姿勢を考えさせていただくことができたことが、とても力となったと思う
- ・ 討論形式で、現職の先生の話も聞けて、イメージを持つことができたから
- ・ 具体的な事例をもとにして、ディスカッションがなされた
- ・ 理論的な枠組みからも示唆が得られた
- ・ 受講者と応答的な関係が配慮された
- ・ 実務経験に基づいているため、イメージしやすく信頼性がある

これらをまとめると具体的な事例を題材として、現職院生やストレートの院生に、実務経験のある教員が加わり、応答的なディスカッションを積み重ねることによって、臨場感豊かに教育改善の方法や在り方について、主体的に考えることができたということ。さらに、それらの議論に教員の方から理論的な枠組みに基づいた課題の解釈の仕方や教師に求められる指導の在り方等の情報を提供することによって、受講者にとって、実践力育成に役立ったという実感が得られ、受講者の内実につながったととらえられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

具体的意見として、以下のことが出された。

- ・ 実践的な内容で、教員を目指すものにとって、価値あるものであった。
- ・ 具体的に事例を考えていくことができてよかった
- ・ 先生と受講生同士が気さくに意見を言い合える場がたくさん用意されているのでよいと思います

以上のように、肯定的な意見を寄せられた。

受講者相互、また教員を含めて、ラ・ポールが形成され、素朴な疑問等が忌憚なく出される雰囲気醸成され、学習の内実により影響を与えることができたにとらえている。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業において、学校現場における具体的な実践事例を取り上げて、そこに含まれる教育課題の解釈や抽出、改善策の生成を、受講者（現職院生、ストレートの院生）のディスカッションと授業者の理論的、実践的な情報をもとに行った。

このような教育内容、教育方法が受講者にとって、「教師の実践力の育成」に直結するものであったので、高い授業評価となり、受講者が「実践でやってみたい」というように効力感として内実したものととらえられる。

また、授業者を含め、受講者全員の意見を聞き合うことを基調として展開したことにより、全員の間に些細な疑問であっても聞き合える信頼関係が醸成された。

このことも受講者にとって、学習の内実を産む要因となったととらえられる。

特にストレートの院生にとって、教育現場のことを現職院生や授業者に忌憚なく聞いたことが、学校現場へのイメージと効力感を生成することに寄与し、「現場へ早く出てみたい」という思いを持つことにつながったととらえられる。

今後も、実践事例という実践的な内容をベースにしなが、理論的な解釈を加えながら、教育実践力につながる授業の内実を産み出して生きたと考える。

また、そのとき受講者が忌憚なく発言できる受講者相互と授業者の関係性の醸成にも今後とも配慮していきたい。

一方、具体的な成績評価の方法について、明示する必要性を感じた。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|------------------|-----|--|
| | | 評価実施日 | 平成 20 年 7 月 25 日 | | |
| 授業科目名 | 教育リサーチ研究 | 学期・曜日・時限 | 前 期 金 曜 日 3 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④ 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 大 西 宏 | | 回答者数 | 6 名 | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 3 | 3 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 4 | 2 | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | 3 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 4 | 2 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 3 | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 4 | 2 | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | 3 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | 3 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 4 | 1 | 1 | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 2 | 3 | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | - | - | - | - | - | - |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | 3 | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | 2 | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 4 | 2 | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | 2 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 1 | 3 | 2 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 4 | 1 | 1 | | | |

<分 析>

評価の平均点は 4.45 となっているので、全体的には本授業は肯定的に評価されている。教職大学院のスタートのため、今年の本授業は大学院生 5 名と現職の聴講生 1 名の計 6 名の少人数受講生となった。学校現場の経験がない大学院生を対象に、多くの資料を準備し、また適時に現職教員の聴講生の発表等を多く取り入れて、授業内容の理解を図ったことが、項目 2・4・6 等で高い評価を得たようである。少人数のため、6 人によるフィードバックを多く取り入れたことも好評であったが、積極的に意見を言わなかったことを自己評価として厳しく捉えたことが項目 16 の結果となっているようである。特定の教科書・参考書は使用していないので、項目 10 は適切でなかった。項目 4・17 等の評価からみて授業内容の有用性は十分に理解されていると思われる。

2 アンケート〔2〕の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の主な回答

- ・教職員としてのリーダーシップとは何かとすることについて学び身につけたいと考え受講した。また、教師としてどのような知識を持てばよいのかということも知りたい。
- ・リーダーシップと言うだけでなく、それに関する他の学校現場にかかわること等についても何かを得ることで、教師として必要なものを少しでも多く吸収したい。
- ・学級担任としてのリーダーシップについて
- ・近年の教育改革の流れ、学校現場の多忙感、山積している教育課題等にどのリーダーはどう対応するべきかを学びたかった。

以上の回答から、教師の資質としてリーダーシップの力量を高めることの必要性の認識に立った、授業への積極的な参加意欲が伺える。また学級経営に関わろうとする積極的な姿勢も見られた。現職教員の立場からは、山積する教育課題にどのリーダーとしてどう対応していくか。そのためにリーダーシップの力量を高めようとする強い意欲が伺える。

3 アンケート〔3〕の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の主な回答

- ・リーダーシップや学校評価について、学校現場での実践をイメージして学べたのでよかった。
- ・具体的な事例を多く取り入れて授業を進めていただけたので、実際の学校のことが理解し易く、役立つと感じたから。
- ・今まで知らなかった教育関連の法規やしくみなどについて知ることができたこと。
- ・教師としての心構えや現状などについての内容を含んでの授業だったので、とても分かりやすく、教師に必要な力量などが理解できた。
- ・先生がもともと学校現場におられた方なので、理論的知識だけでなく経験によって得たこと等を話してくださったので大変とっつき易く、自分自身考えさせられることが多かった。

以上の回答から、特に今年は学校現場の経験のないストレートマスターの立場を強く意識して、授業者の経験を踏まえての具体的な事例と関連づけながら授業を進めたこと。また、聴講生の現職教員を含めたグループでの演習や討議を取り入れたことが、実践力の育成や理解に繋がった満足感を得たものと思われる。少人数での授業だったので、グループワーク等においても力むことなく、全員が積極的に授業参加できていたことは授業者としても満足している。

4 アンケート〔4〕の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生の主な回答

- ・レジュメがきれいにまとまっていて、理解するのに大いに役立った。
- ・具体例がとても分かりやすく、学校現場の現状なども把握しやすかった点が非常に良かったと思います。
- ・授業に参加している感じが得られてよかった。
- ・毎回教回の発言を求められたので緊張感、問題意識を持って臨むことができました。
- ・教授方法が分かりやすかった。
- ・特別支援教育のことを知ることができたこと。
- ・できればもっと他の受講生の考えを聞く機会がほしいと思った。(現状でもたくさん機会は置いて下さったと思いますが)

以上の回答から、ストレートマスター中心の授業ということで、毎時間のレジュメや資料準備に時間をかけて、また、できるだけ学校現場の教育活動等の理解を容易に図るために、具体的な事例や授業者の体験を提供しての授業が高い評価を得たようである。グループ討議や演習も多く取り入れたが、さらに多くの意見交換を希望している者もあり、授業への積極的な取り組み姿勢が伺える。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、学校経営に関わるスキルに求められているリーダーシップの在り方について、文献研究や事例分析を通して明らかにして、実践に結びつく力量の形成・向上を図ることを目的としている。しかしながら、本年度は、教職大学院のサポートの関係で、受講生はストレートマスター 5名と聴講生の現職教員が1名の計6名という少人数であったため、学校現場の現状理解を十分に図りながら授業を進めていくことを心がけた。

また、レジュメや資料づくりにも時間をかけて準備し、グループでの事例研究や演習、意見交換の時間もかなり取り入れたことが授業内容の理解を深めていたようである。今回の授業評価からも授業内容については概ね好評を得ておりその有用性も理解されていると考えられる。

本授業は、教職大学院への移行ということで本年度をもって終了となる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|---------------|-----|-----|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 28日 | | |
| 授業科目名 | 教育課題探求（現代社会と総合学習） | 学期・曜日・時限 | 前期 | 月曜日 | 5時限 |
| 授業区分 | ①. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 4. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 近森・太田・西村 宏・藤村 | 回答者数 | 5 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 4 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | 3 | 1 | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | 2 | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 2 | 1 | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 5 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 4 | 1 | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 4 | 1 | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 5 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。（質問から除外した） | | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 3 | 1 | 1 | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 4 | | 1 | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 4 | | 1 | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 5 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 4 | 1 | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 3 | | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | 2 | | | | |

<分 析>

- ・人数が5名と少ないが、受講生からは概ね高い評価を得ている。
- ・4名の教員が、それぞれ独自のテーマの下に講義した。しかし質問3への回答結果は受講生の中で各教員の講義内容が繋がっていることを示唆しているのかもしれない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

・総合学習の内容や実践方法への問題意識や関心と回答した受講生がいた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

次のような理由が述べられていた。

①受講者同士の話し合いの場が設定された事。

②様々な分野の話を聴く事ができ視野が広がった。

③総合的な学習の時間をイメージすることができた。

①は受講生が5名と少なかった事、②は4名の専門分野を異にする教員が担当したこと、③は複数担当であるにもかかわらず講義内容が総合的な学習の時間における実践に焦点化されていたことによるものと考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

よかった点としては、講義を聴くだけでなく、考える時間があったこと、様々な分野の話聴く事ができた事などであり、改善点としては、より多くの資料を配布して欲しいというものであった。

5 本授業の成果と今後の課題について

・受講生がただ単に授業を聴くだけでなく、考えることを通して視野を広げ、最終的には総合的な学習の時間の内容や実践方法等について何らかのイメージを持つ事ができたように思われる。これが本授業の成果であると思われる。

・本授業は旧カリキュラムに属するものであり、授業実施は来年度が最後である。受講者はあったとしても非常に少なくなるのではないかと考えられる。少人数であることを生かした授業作りが今後の課題である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|---|-----------|---------------|-----|------|
| | | 評 価 実 施 日 | 平成 20年 7月 29日 | | |
| 授業科目名 | 環境教育特論Ⅲ (授業開発) | 学期・曜日・時限 | 前期 | 火曜日 | 1 時限 |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 ④. 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 近森・西村 宏 | 回答者数 | 3 名 | | |

1. アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 3 | | | | | |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 3 | | | | | |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 1 | | | | |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | | 1 | | | |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 3 | | | | | |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 3 | | | | | |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 3 | | | | | |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 3 | | | | | |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 3 | | | | | |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 3 | | | | | |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 3 | | | | | |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 3 | | | | | |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 3 | | | | | |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 3 | | | | | |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | | 1 | | | |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 3 | | | | | |

<分 析>

・少人数であり、その妥当性には疑問があるが、受講生の評価は非常に高いものがある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・環境について理解を深めるため。
- ・自分の能力を高めることと、興味があったため。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・温暖化から進化論まで、ありとあらゆる質問に答えていただいた。
- ・野外観察活動をする際にも、内容が非常に具体性に富んでいた。
- ・授業実践の具体例が示された。
- ・総合的な学習の時間についての実践的な内容だと思った。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ 学生の声が直接教員に届く非常に良い授業であり。学習意欲が高まった。
- ・ 興味のある分野の知識が吸収できた。

5 本授業の成果と今後の課題について

・ 受講生が3名と少なかった。しかし回答からは、少人数で授業をすることのメリット（「受講生の言葉が教員に直接届く」）が成果につながっているように感じられる。毎年度受講者が無いか、非常に少ない授業なので、今年度の成果を生かした授業を今後も実施していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

| | | | | | |
|-------|--|----------|------------------|--|--|
| | | 評価実施日 | 平成 21 年 2 月 10 日 | | |
| 授業科目名 | 環境教育特論Ⅳ（実践） | 学期・曜日・時限 | 後 期 火 曜 日 4 時 限 | | |
| 授業区分 | 1. 教職基礎科目 2. 教職共通科目 3. 広領域コア科目 (4) 専門科目 | | | | |
| 担当教員名 | 近森憲助, 西村 宏 | 回答者数 | 2 名 | | |

1 アンケート [1] の集計と分析について

| | | | | | |
|---|-----------|---|------------|---|-----------|
| 5 | まったくそう思う | 4 | かなりそう思う | 3 | どちらともいえない |
| 2 | あまりそう思わない | 1 | まったくそう思わない | 無 | 未記入 |

| 番号 | 評 価 項 目 | 評 価 番 号 | | | | | |
|----|--------------------------------|---------|---|---|---|---|---|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無 |
| 1 | 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 授業の内容には一貫性があった。 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5 | 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | 授業をよく準備し、熱心に教えた。 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 授業の進む速さは適切であった。 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 教科書や参考書の使い方は適切であった。 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 11 | 視聴覚機器の使用は適切であった。 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12 | 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13 | 受講生に分かりやすく説明した。 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 14 | 教員の声は聞き取りやすかった。 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | 板書の文字は見やすかった。 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 16 | 授業に主体的・積極的に取り組んだ。 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 17 | この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

<分 析> 旧カリキュラムで、環境分野では実験を伴うため本科目受講よりも前に「特論Ⅰ（基礎）」および「特論Ⅱ（教材開発）」を受講していることを条件とし、M2およびL3を標準履修年次に指定している。そのため受講生は2人のみであり統計的に分析することは不可能且つ無意味である。しかし、記載された数値から無理矢理に評価の傾向を見るとすれば次のようになる。

○全般的に評価はほぼ5と4とされていることから、それなりの満足が得られている。

○質問項目10「教科書や参考書の使い方は適切であった。」の回答では「3」と「5」と意見が分かれているが、これは、環境やエネルギーに関する実験を主体とした「教材開発」という縛りの中で、院生が主体的に教材化したい内容に限定してテーマ設定を行い、条件整備の試行錯誤から取り組んだので、参考書などはほとんど役立たなかったことによるものと思われる。

○質問事項15「板書の文字は見やすかった。」については、無回答となっているものが1件あったが、実験内容を記述したプリントなどを見ながら、実践的内容に主眼をおいた授業としたため、むしろ板書をする必要がなかったことに起因するものと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析> 2人の受講者の意見を列記する。

○教育実践の、実際の模擬授業・教材開発などを通して学びたかった。

○OM1のときに基礎を受けて、より深く学びたいと感じたので受講した。また修論でも「環境」を扱うので受講した。

これらから、基礎の授業の受講を通じて習得した内容を実践へと発展させようという意識と、実際に現場に出た際の実践を見込んだ模擬授業や教材開発に興味があつての受講であつたことが分かる。このように積極的・具体的な方向付けができていたので、2人とも、教材開発を試行錯誤的な実験教材作成を主体とする内容としても、受動的でなく能動的な態度が見られることへとつながつたものと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であつた」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析> 2人の受講者の意見を列挙する。

○実際に自分で授業をすることができたので。

○とにかく模擬授業や実験が多く、失敗も多かつた。その分、実践力がついたと思う。

まず、2人とも、評価は5であり、少なくとも所期の目標が達成できていると判断されていることが知られた。実験・実践主体の教材開発に重点をおいた授業展開としたことが功を奏したものと判断できる。机上の空論ではなく、実際に現物を用いて、エネルギーに関連する基礎的事項として位置づく「果物電池」の実験的試行などを繰り返し、さらにはその背景となる電気分解や電子の移動についての理解、現場での実践を行う際に必要な事柄について、ディスカッションしながら進めた授業など、少人数の授業の利点が十分活かされていたことがうかがえる内容の回答であつた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析> 2人の受講者の意見を列挙する。

○改善というより、自分でもっと物理の基礎的な力をつける必要性が感じられました。

○実験が成功するまで毎週やり続けたので、とても納得がいくことができた。

実践を行う前に基礎知識の習得が非常に重要であることが理解されている記述では、「物理の知識の必要性が感じられた」との記述もあることから、「総合的な学習の時間」での実践といえども、「環境」などに関する実践を現場で行うためには「基礎力」としての「物理」の知識・理解が欠かせないことに気づいてもらった点で、本授業はある程度成就できていると判断できる。

5 本授業の成果と今後の課題について

上記の自由記述にも見られるように、あるテーマに関して、初等中等教育の現場での実験的内容に主眼をおいた授業展開としたことは、授業者の当初の予想をはるかに上回る成果が得られているものと判断できる。とりわけ、実験は指導書などに記載されているとおりに準備して、その筋書き通りに進めても、書物に書いてある通りの結果にはつながらない場合が多いことが理解されたものと思われる。そのためには、現場で「環境」や「エネルギー」に関連した実験的教材を用いた実験を行う際には、特に、児童・生徒に実際に実験を行わせる際には、何が必要かについて極めて具体的なかたちで認識できる授業となり、いい意味で期待を裏切る成果が得られたと判断できる。

このような授業展開を行うためには、実験用具調達に始まりその吟味などに時間を要するが、如何に準備段階が重要であるかを認識させることができる授業を今後も展開するつもりである。

課題としては、その実験を行う目的は何かについて明確に意識している必要があることを十分に理解させてから実験授業に入る必要があることを授業者側が認識していることが挙げられる。

鳴門教育大学大学院学校教育研究科教務委員会 委員名簿
(平成20年度)

| | | | |
|------|-------|-------------------------|---------------------------|
| 委員長 | 田中雄三 | 理事 | |
| 副委員長 | 山下一夫 | 臨床心理士養成コース | (教授) |
| 委員 | 木内陽一 | 人間形成コース | (教授) (大学院生による授業評価専門部会委員) |
| " | 木村直子 | 幼年発達支援コース | (講師) |
| " | 八幡ゆかり | 特別支援教育専攻 | (教授) |
| " | 久我直人 | 学校・学級経営委コース | (准教授) |
| " | 葛上秀文 | 教員養成特別コース | (准教授) |
| " | 谷村千絵 | 現代教育課題総合コース | (准教授) |
| " | 赤松万里 | 言語系コース(国語) | (教授) |
| " | 山森直人 | 言語系コース(英語) | (准教授) (大学院生による授業評価専門部会委員) |
| " | 立岡裕士 | 社会系コース | (教授) |
| " | 松岡隆 | 自然系コース(数学) | (教授) |
| " | 香西武 | 自然系コース(理科) | (教授) |
| " | 伊藤陽介 | 生活・健康系コース (技術・工業・情報) | (教授) |
| " | 前田英雄 | 生活・健康系コース (家庭) | (教授) |
| " | 小澤大成 | 国際教育協力コース | (准教授) (大学院生による授業評価専門部会委員) |
| " | 頃安利秀 | 芸術系コース(音楽) | (教授) |
| " | 鈴木久人 | 芸術系コース(美術) | (准教授) |
| " | 松井敦典 | 生活・健康系コース (保健体育) | (准教授) (大学院生による授業評価専門部会委員) |
| " | 大堀耕嗣 | 教務課長 | |

平成20年度 大学院生による授業評価実施報告書

平成21年9月発行

編集 鳴門教育大学大学院学校教育研究科教務委員会

発行 鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地

電話 088-687-6097

FAX 088-687-6107



国立大学法人
鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地
<http://www.naruto-u.ac.jp/>

